



SERENA® CHANGEMAN® VERSION MANAGER™
インストールガイド

Copyright © 1985–2005 Serena Software, Inc. All rights reserved.

本ドキュメント、および本ドキュメントに記載のソフトウェアは、ライセンス供与に従って供給されており、かかるライセンスの条件に基づいて使用および複製が許可されます。ライセンスで許可されていない限り、本書のいかなる部分も、Serena の文書による事前許可なく、いかなる形式または電子的、機械的記録方法で、複製、保存システムへの保管、転送することはできません。複製されたドキュメントには、全部または一部であるかにかかわらず、この著作権の記述すべてが、変更されることなく含まれていなければなりません。

本書の内容は、情報を提供するものであり、予告なく変更される場合があります。また、Serena による義務と解釈されるものではありません。Serena は、本書のエラーまたは不正確性についていかなる責任も義務も負うことはありません。

商標

Serena、ChangeMan、TeamTrack、Collage、PVCS、StarTool および Comparex は Serena Software, Inc. の登録商標です。Build、Builder、Dimensions、Meritage、Mover、Professional、SAFE、RTM、Tracker および Version Manager は、Serena Software, Inc. の商標です。

その他のすべての製品または企業名は、識別する目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の商標である場合があります。

米国政府の権利

米国政府や政府機関またはその代理機関の非許諾者がこの契約の下で取得したいかなるソフトウェア製品も、FAR では「商用ソフトウェア」と定義されています。米国政府による使用、複製、公開は、ソフトウェアを取得したライセンスによる制限の対象となります。製造元：Serena Software, Inc., 2755 Campus Drive, San Mateo, CA 94403

部品番号：MA-VMINST-J03

発行日：2005 年 4 月

目次

	Version Manager へようこそ	11
	技術サポートへのお問い合わせ	11
	オンラインマニュアルの使用法	12
	表記上の規則	13
パート 1	インストールの実行プランとライセンスの設定	15
	チェックリスト	16
第 1 章	インストールの前に	17
	インストールオプション	18
	必要なシステム構成	19
	サポートされている UNIX およびクロスプラ ットフォームネットワーク	19
	Version Manager のライセンス設定	20
	インストールの実行プラン	20
	5.3/6.0 プロジェクトルートへのアップグレード	21
	5.3/6.0 プロジェクトルートでサポートされている 機能と制限されている機能	21
	Windows でのネットワークインストールのプラン	22
	クロスプラットフォームインストールの実行プラン	23
	IDE クライアントインストールの実行プラン	24
	Version Manager Web サーバインストールの実行プラン	25
	WebDAV Server インストールの実行プラン	25
	Version Manager のオンライン登録	26
第 2 章	Serena License Manager を使用した Version Manager のライセンス管理	27
	Serena License Manager の使用	28
	License Manager のインストール	28
	さまざまなライセンスモデル	28
	指名ユーザライセンス	29

同時使用ライセンス	29
2つのライセンスモデルの併用	29
作業場所が異なるユーザのライセンス管理	30
パッケージライセンスの使用	30
ライセンスプロセス	30
ライセンスプロセスの概要	31
License Manager のインストール	32
License Manager のアップグレードについて	33
License Manager を Windows 上にインストールする場合	33
License Manager を UNIX 上にインストールする場合	34
インストール後の作業	34
製品のライセンス管理	35
ライセンスの取得	35
ライセンスの追加	38
License Manager サーバの起動	39
License Manager をサービスとして実行	39
ライセンス設定後の作業	40
指名ユーザライセンスのユーザ名の管理	41
ライセンスに関する問題の通知設定	42
ライセンスおよびサーバの管理	43
ワークステーションインストールのライセンスの設定	43
使用可能なライセンスの確認	44
License Manager サーバの移動	44
License Manager サーバの切り替え	44
Version Manager でのライセンスの使用	45
評価版ライセンスのアップグレード	46
リダンダント License Manager サーバのセットアップ	47
パート 2	
Version Manager のインストール	49
チェックリスト	50
第 3 章	
Windows 版 Version Manager のインストール	51
インストールの前に	52
NT サービスの削除	52
Windows での Version Manager Application Server の停止	52
デフォルトのインストールディレクトリ構造	53

	CD-ROM からの Version Manager のインストール.....	53
	ワークステーションインストールの準備.....	59
	ワークステーションのセットアップ.....	61
	ワークステーションでのセットアッププログラムの実行.....	62
第 4 章	UNIX 版 Version Manager のインストール.....	63
	インストールの前に.....	64
	UNIX での Version Manager Application Server の停止....	64
	setuid によるセキュリティの強化.....	64
	デフォルトのインストールディレクトリ構造.....	66
	Version Manager のユーザアカウントの作成.....	66
	CD-ROM からの Version Manager のインストール.....	68
	Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用.....	71
	クロスプラットフォーム環境での setuid の使用.....	73
	Samba での setuid の使用.....	73
	NFS での setuid の使用.....	74
第 5 章	インストール後の作業.....	75
	ログインソースの設定.....	76
	デスクトップクライアントの使用.....	78
	コマンドラインインターフェイスの使用.....	80
	プログラムファイルとプロジェクトデータの保護.....	81
	プロジェクトデータベースについて.....	81
	UNIX 上でのプログラムファイル とプロジェクトデータの保護.....	82
	Windows 上でのプログラムファイルと プロジェクトデータの保護.....	83
	Version Manager に必要な UNIX 環境の設定.....	84
	UNIX での Adobe Acrobat Reader および HTML ブラウザの設定.....	87
	UNIX での Adobe Acrobat Reader の設定.....	88
	UNIX 上でのブラウザの設定.....	88
	次のステップ.....	89
パート 3	Version Manager Web	
	サーバのインストール.....	91
	チェックリスト.....	92

第 6 章	Version Manager Web サーバの概要	95
	Version Manager Web サーバについて.....	96
	Version Manager Web サーバのコンポーネント	96
	Version Manager コンポーネントの統合	99
	インストールの前に	100
	readme ファイルの確認	100
	必要なシステム構成.....	100
	インストール後の作業	101
	Web ブラウザの設定	101
第 7 章	Windows への Web サーバのインストール	103
	概要.....	104
	Windows 環境でのセットアッププログラムの実行.....	105
	仮想 Web ディレクトリの設定.....	107
第 8 章	UNIX への Web サーバのインストール	111
	UNIX への Version Manager Web サーバのインストールの概要	112
	UNIX への Version Manager Web サーバのインストール	113
	インストール後の手順.....	115
	既存の「NFSSMAP」ファイルの使用	116
第 9 章	Version Manager プロジェクトデータベースの作成	117
	概要.....	118
	プロジェクトデータベースの操作	118
	新規プロジェクトデータベースの設定.....	118
	既存のプロジェクトデータベースの使用.....	119
	プロジェクトデータベースの削除.....	119
	プロジェクトデータベースの設定	120
	ユーザと権限の設定	120
	アクセスコントロールの使用.....	120
	Version Manager Web クライアントのユーザ名	121
	デフォルトのパスワードの使用.....	121

第 10 章	Web サーバサーブレットの設定	123
	Version Manager Web サーバサーブレットについて	124
	Version Manager Web サーバサーブレット のコンフィグレーション設定	124
	サーブレット名	124
	説明	125
	サーブレット URL	125
	プロジェクトデータベース / ルート (Windows) と rootPathUNIX	125
	サーバ (Windows) と serverName (UNIX)	126
	Web Server Application URL (Windows) と trackerName および trackServerType (UNIX)	126
	デフォルトパスワード (Windows) と defaultPassword (UNIX)	126
	ログインタイムアウト (Windows) と logtimeout (UNIX) ..	127
	日付 / 時間の形式 (Windows) と DateTimeFormat (UNIX)	127
	Windows でのサーブレットの設定	128
	Windows 上での Version Manager Application Server Admin の起動	128
	Windows でのサーブレットの追加	128
	Windows でのサーブレットの変更	131
	Windows でのサーブレットの削除	132
	UNIX での Version Manager Web サーバサーブレットの設定	132
	UNIX でのサーブレットの追加	133
	UNIX でのサーブレットコンフィグレーション設定の変更	136
	UNIX でのサーブレットの削除	136
	サーブレットへのアクセス	137
第 11 章	Web サーバのインストールと実行	139
	Web サーバソフトウェアのインストール	140
	Apache Web サーバを使用するには 動的共有オブジェクトが必要	140
	Web サーバソフトウェアの設定	141
	Web サーバセキュリティの設定	141
	Web サーバインスタンスの起動と停止	142
	iPlanet Web Server での Web サーバの 起動と停止	142
	Microsoft Internet Information Service	

	の起動と停止	144
	Apache Web サーバの起動と停止.....	145
第 12 章	Version Manager Web サーバの実行.....	147
	Windows での Web サーバの起動と停止.....	148
	UNIX での Web サーバの起動または停止.....	149
	ユーザの接続.....	150
第 13 章	セキュリティの管理.....	151
	アクセスコントロールの使用.....	152
	SSL の使用.....	152
	SSL の設定.....	153
	ユーザの接続.....	153
	ファイアウォールの使用.....	153
第 14 章	パフォーマンスの管理.....	155
	システムの考慮事項.....	156
	ネットワークポロジの考慮事項.....	156
	プロジェクトファイルの格納場所.....	156
	アーカイブの格納場所とネットワーク速度.....	157
	Version Manager Web サーバデーモンプロセスにつ いて.....	157
	デーモンのプロセス数の設定.....	157
	デーモンを無効にする場合.....	158
	Web サーバの考慮事項.....	160
	推奨構成.....	160
	最適なパフォーマンスの維持.....	161
	Web サーバのテンポラリファイルの管理.....	161
	Version Manager のテンポラリファイルの管理.....	161
	大規模ファイルのデルタ生成の管理.....	162
	ファイル転送時の圧縮を使用した Web サーバパフォーマンスの管理.....	163
第 15 章	Version Manager Web サーバのアンインストール.....	165
	Windows からの Web サーバのアンインストール.....	166
	iPlanet Web Server を使用している場合.....	166
	Microsoft Internet Information Service を使用している場合.....	167
	UNIX からの Web サーバのアンインストール.....	169

パート 4	その他の Version Manager インターフェイスのインストール	171
	チェックリスト.....	172
第 16 章	IDE クライアントのインストール	173
	IDE クライアントについて.....	174
	必要なシステム構成.....	175
	IDE クライアントのマニュアル.....	175
	IDE クライアントのインストール.....	175
	Web サーバへのインストール.....	178
	サポートされる Web サーバの設定.....	179
	FrontPage Server Extensions のインストール.....	179
	Version Manager IDE クライアントのインストール.....	179
	クライアントワークステーションへの FrontPage または Visual InterDev のインストール.....	181
第 17 章	Version Manager Developer's Toolkit のインストール	183
	Developer's Toolkit について.....	184
	必要なシステム構成.....	184
	DTK のマニュアル.....	184
	Developer's Toolkit のインストール.....	184
	Windows への DTK のインストール.....	184
	Windows 上の DLL の場所.....	185
	UNIX への DTK のインストール.....	185
	Developer's Toolkit のライセンス.....	186
	Version Manager の機能の配布.....	186
	Serena Configuration Builder の機能の配布.....	186
第 18 章	WebDAV Server のインストール	187
	はじめに.....	188
	インストールの前に.....	188
	サポートされている Web サーバコンフィギュレーション.....	189
	WebDAV Server のアップグレード.....	189
	Windows への WebDAV Server のインストール.....	189
	UNIX への WebDAV Server のインストール.....	190
	WebDAV Server のアンインストール.....	191

WebDAV Server の起動と停止.....	192
サービスとしての Tomcat の実行.....	193
Microsoft IIS Web サーバの設定.....	194
ISAPI リダイレクタの設定.....	194
セキュリティの設定.....	195
iPlanet Web Server の設定.....	196
iPlanet obj.conf ファイルの編集.....	196
UNIX での Apache Web サーバの設定.....	199
Web サーバアダプタのインストール.....	199
Apache コンフィグレーションファイルの編集.....	200
Web サーバのテスト.....	202
第 19 章 Meritage のインストール.....	203
はじめに.....	204
インストールの前に.....	204
Meritage Admin Wizard.....	205
エンドユーザプロジェクト定義の更新.....	206
Meritage エンドユーザの設定.....	207
インストール後の作業.....	208
Serena ChangeMan Meritage の基本操作.....	208
索引.....	209

Version Manager へようこそ

Serena ChangeMan Version Manager をお買い上げいただきありがとうございます。このソフトウェアは、ソフトウェアの開発手法に革命的な変化をもたらす、多機能で強力なバージョン管理システムです。Version Manager では、個々のファイルへの変更の保存や追跡から開発サイクル全体の管理や監視に至るまで、ソフトウェア開発プロジェクトの各段階の構成管理および保守管理を行うことができます。

このマニュアルの概要	このマニュアルでは、Version Manager を Windows オペレーティングシステムと UNIX オペレーティングシステムにインストールする方法について説明します。このマニュアルは、ネットワーク環境で使用できるようにソフトウェアをインストールし、設定する管理者、およびワークステーションへのインストールを実行するユーザを対象としています。
詳細情報	Version Manager のマニュアル、Version Manager の操作方法の概要、オンラインヘルプの使用方法については、『Version Manager 入門ガイド』を参照してください。
対応バージョン	このマニュアルの内容はバージョン 8.1 Version Manager（日本語版）以降を対象としています。この版によって、このマニュアルの旧版は廃版となります。

技術サポートへのお問い合わせ

Serena では、すべての登録ユーザの皆様に技術サポートを提供しています。購入後 30 日間は、インストールに関する制限付きの無償サポートが提供されています。この期間を過ぎた後のサポートをご希望の場合は、次の URL の Serena Online Services を参照してください。

<http://support.serena.com/>

特定言語でのサポートは、各地域の営業時間内でのみご利用できます。それ以外の時間の技術サポートは、英語で提供されます。

Serena Online Services では、以下のことを行うことができます。

- 障害の報告や質問の送信
- オンラインサービスを利用するユーザ向けに提供されているツールや情報の取得
- 使用方法やキーワードで技術情報を検索することもできるナレッジベースへのアクセス

オンラインマニュアルの使用方法

Serena のオンラインマニュアルは、Adobe Portable Document Format (PDF) を使用します。PDF ファイルを表示するには、www.adobe.com から無料で入手可能な Adobe® Reader® を使用してください。



ヒント フルバージョンの Reader をダウンロードします。ベーシックバージョンには、検索機能が含まれていません。

このセクションでは、Reader の主な機能のいくつかを説明します。詳細は、Adobe Reader のオンラインヘルプシステムを参照してください。

オンラインマニュアルには、以下の機能が含まれています。

- **しおり**。すべてのオンラインマニュアルにはしおりが設定されており、これを使って特定のトピックにすばやく簡単にジャンプすることができます。デフォルトでは、各オンラインマニュアル画面の左側にしおりが表示されます。
- **リンク**。オンラインマニュアル内の相互参照リンクによって、マウスをクリックするだけで、そのマニュアルのほかのセクションやほかのマニュアルにジャンプすることができます。これらのリンクは青色で表示されます。
- **印刷**。マニュアルを表示しているときに、現在のページ、複数ページ、マニュアル全体を印刷できます。
- **高度な検索**。Adobe Reader のバージョン 6 から、指定したディレクトリ内の複数の PDF ファイルを検索できる、高度な検索機能が含まれるようになりました（これは、Adobe Catalog によって作成される検索インデックスの使用に追加されました。以下の手順 3 を参照してください）。

複数の PDF 文書を一度に検索するには、次の手順を実行します (Adobe Reader バージョン 6 以降が必要です)。

- 1 Adobe Reader で、[Edit (編集)] - [Search (検索)] を選択します (または CTRL+F を押します)。
- 2 テキストボックスに、検索する言葉や文章を入力します。
- 3 <All PDF Documents in (すべての PDF 文書)> オプションを選択し、検索するフォルダを参照して選択します (Adobe Catalog インデックスが添付された文書を開いている場合は、<In the index named... (インデックス内を検索)> オプションを選択したままにし、インデックスのすべてのマニュアルを検索することができます)。

- 4 オプションで、〈Whole words only (完全に一致する語のみ)〉や〈Case-Sensitive (大文字と小文字を区別)〉などの追加検索オプションを 1 つ以上選択します。
- 5 【Search (検索)】ボタンをクリックします。



注 オプションで、アプリケーションウィンドウの右下隅近くにある〈Use Advanced Search Options (高度な検索オプションを使用)〉リンクをクリックして、より強力な追加検索オプションを有効にすることもできます (このリンクが〈Use Basic Search Options (基本的な検索オプションを使用)〉である場合は、高度なオプションがすでに有効になっています)。詳細は、Adobe Reader のオンラインヘルプを参照してください。

表記上の規則

オンラインマニュアルおよびオンラインヘルプでは、以下の表記規則を採用しています。ドキュメントを参照する場合は、これらの表記規則を参考にしてください。ただし、各種製品コンポーネントおよびオペレーティングシステムについては、それぞれの表記規則に従ってください。

表記例	意味
等幅フォント	構文例、ユーザ指定が可能な値、システムから返される結果値などを表します。
斜体の等幅フォント	指定する値のプレースホルダの名前を示します (例: <i>filename</i>)。
太字の等幅フォント	実行したコマンドの結果を示します。
ダッシュ (—)	メニューとそれに関連付けられたコマンドを区切りません。たとえば、[File (ファイル)] — [Copy (コピー)] は、[File (ファイル)] メニューの [Copy (コピー)] を選択することを意味します。 また、縦棒 () は、コマンド構文でどちらか一方を選択する必要のある値を示します。
角かっこ []	オプションの項目を示します。たとえば、次の文 SELECT [DISTINCT] の DISTINCT は、オプションのキーワードです。
...	複数の値を指定できるコマンド引数を示します。
	どのショートカットボタンをクリックするかを示します。ショートカットボタンは余白に配置されています。

パート 1

インストールの実行プランとライセンスの設定

『パート 1：インストールの実行プランとライセンスの設定』は、以下の章で構成されています。

[インストールの前に](#) 17

[Serena License Manager を使用した Version Manager のライセンス管理](#) 27

チェックリスト

Serena ChangeMan Version Manager のインストールプランを立て、ライセンスを設定するには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	さまざまなインストール方法について理解する (18 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX およびプロジェクト間ネットワークについて、システム要件とガイドラインを確認する (19 ページ)
<input type="checkbox"/>	インストールプランについてのガイドラインを確認する (20 ページ) すでに Serena License Server をインストールしており、Version Manager のライセンス設定が済んでいる場合は、49 ページの『Version Manager のインストール』に進んでください。
<input type="checkbox"/>	ライセンスサーバとライセンスプロセスを確認する (28 ページ)
<input type="checkbox"/>	License Manager ツールをインストールする (32 ページ)
<input type="checkbox"/>	ライセンスを取得する (35 ページ)
<input type="checkbox"/>	指名ユーザライセンスモデルのみ : 有効な Version Manager ユーザ ID を使用して、License Manager に指名ユーザを設定する (41 ページ)
<input type="checkbox"/>	ライセンスに関する問題が通知されるように設定する (42 ページ)

第 1 章

インストールの前に

インストールオプション	18
必要なシステム構成	19
Version Manager のライセンス設定	20
インストールの実行プラン	20

インストールオプション

Version Manager の機能

Version Manager のインストールプログラムでは、以下の機能をインストールできます。

- デスクトップクライアント
- SCC/COM IDE クライアント (Windows のみ)
- Eclipse 2 および 3 用のプラグイン (Windows のみ)
- Eclipse 3 用のプラグイン (豊富な機能統合) (Windows のみ)
- VS .NET 用のプラグイン (豊富な機能統合) (Windows のみ)
- Web Server Application
- Developer's Toolkit
- Version Manager WebDAV
- ドキュメント
- ワークステーションインストール (Windows のみ)
- サンプルプロジェクトデータベース
- コマンドラインインターフェイス
- ファイルサーバ



注 Web Server Application、ファイルサーバ、または Serena WebDAV をインストールする場合は、サンプルプロジェクトデータベースが必要になります。このオプションを選択解除することはできません。

必要なシステム構成

Version Manager デスクトップクライアント、コマンドラインインターフェイス、プロジェクトコマンドラインインターフェイス、および Web クライアントは、Windows と UNIX 両方のプラットフォームでサポートされています。UNIX では、Motif または共通デスクトップ環境（CDE）を使用して、X Windows システムでデスクトップクライアントを実行できます。IDE クライアントは Windows でサポートされています。

サポートされているプラットフォーム、バージョン情報、必要なディスク容量については、readme ファイルを参照してください。

サポートされている UNIX およびクロスプラットフォームネットワーク

Version Manager は、UNIX ファイルシステム（UFS）やネットワークファイルシステム（NFS）など、書き込み可能な UNIX ファイルシステム上で動作します。

Version Manager のアーカイブとプロジェクトは、NFS または Samba を使用した同じ UNIX ファイルシステムを利用している複数の Windows ユーザで共有できます。以下をサポートしている、32 ビットの NFS パッケージを使用することをお勧めします。

- 長いファイル名
- 大文字と小文字の区別
- デスクトップインターフェイスとコマンドラインインターフェイス
- ファイル権限または umask の設定機能

UNIX システムと Windows ローカルエリアネットワーク間でアーカイブおよびプロジェクトを共有する方法については、[73 ページの『クロスプラットフォーム環境での setuid の使用』](#) および『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

Version Manager のライセンス設定

Version Manager のプロジェクトにログインしたり、サンプルデータベースを使用したりするには、最初にライセンスサーバでライセンスを設定する必要があります。通常は、インストール時にライセンス情報を入力できるように、Version Manager をインストールする前にライセンスサーバを設定します。有効なライセンスを使用してライセンスを設定する方法については、[30 ページの『ライセンスプロセス』](#)を参照してください。

インストールの実行プラン

Version Manager をインストールする前に、以下のセクションの説明をお読みください。

- ネットワークインストールの実行プラン ([22 ページ](#))
- クロスプラットフォームインストールの実行プラン ([23 ページ](#))
- IDE クライアントインストールの実行プラン ([24 ページ](#))
- Version Manager Server のインストールプラン ([25 ページ](#))
- WebDAV Server のインストールプラン ([25 ページ](#))
- Version Manager の登録 ([26 ページ](#))
- 必要に応じて、5.3/6.0 プロジェクトルートをアップグレードするタイミング ([21 ページ](#))



注 Version Manager のマニュアル全体に、5.3/6.0 プロジェクトルートについての記述があります。バージョン 5.2 のプロジェクトルートについては記述されていませんが、5.3/6.0 プロジェクトルートについて記述されているすべての機能は 5.2 プロジェクトルートにも適用されます。

5.3/6.0 プロジェクトルートのアップグレード

最新バージョンの Version Manager では、『Version Manager 入門ガイド』で説明されている機能を利用できます。これらの機能は Version Manager の以前のバージョンよりさらに強化され、使いやすくなっています。5.3/6.0 プロジェクトルートを、最新のプロジェクトデータベース形式へアップグレードすることをお勧めします。

プロジェクトデータベースへコピーすることによって 5.3/6.0 プロジェクトルートをアップグレードする方法については、『Version Manager 管理者ガイド』の『プロジェクトデータベースの計画』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトルートでサポートされている機能と制限されている機能

5.3/6.0 プロジェクトルートをプロジェクトデータベース形式にアップグレードしなくても、新しい Version Manager デスクトップクライアントの多数の機能を使用できます。このバージョンの Version Manager は、作業ファイルの追加、作業ファイルのチェックイン、リビジョンのチェックアウト、バージョンラベルの割り当てなど、Version Manager の基本的な操作をすべてサポートしており、Version Manager 6.0 デスクトップクライアントより簡単に行うことができます。

ただし、一部の操作には対応していません。Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを開いた場合は、次の作業を行えません。

- 5.3/6.0 プロジェクトルート内での新しいプロジェクトの作成
- 5.3/6.0 プロジェクトルートからのプロジェクトの削除
- プロジェクト、サブプロジェクト、またはバージョン管理されたファイルを、プロジェクトデータベースから 5.3/6.0 プロジェクトルートへコピーする
- 5.3/6.0 プロジェクトルートの設定
- 5.3/6.0 プロジェクトルートのセキュリティを定義または変更する

これらの作業を行う場合は、既存のプロジェクトを最新のプロジェクト形式にアップグレードするか、または Version Manager 6.0 デスクトップクライアントを使用してください。Version Manager 6.0 デスクトップクライアントで加えた変更は、このバージョンの Version Manager でも有効です。

Windows でのネットワークインストールのプラン

Version Manager のネットワークインストールを実行すると、ユーザは、ネットワーク上からこのプログラムを実行できるようになります。したがって、ローカルワークステーションのディスク容量を節約できると同時に、全ユーザが同じバージョンの Version Manager を実行できます。

ネットワークインストールを実行すると、以下の処理が行われます。

インストールのタイプ	Version Manager の動作
ワークステーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ オペレーティングシステムディレクトリ（¥WINDOWS など）に ISLV.INI を作成する。または、既存の ISLV.INI を変更する。 ■ Version Manager アイコンをユーザのワークステーションに追加する。 ■ 共有の実行ディレクトリを指すようにパスを変更する。 ■ IDE クライアントをインストールする場合は、IDE クライアントのデフォルトプロジェクトデータベースを作成する。 ■ （選択した場合のみ）Version Manager のオンラインマニュアルをインストールする。
サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ■ Version Manager 実行ファイルをインストールする。 ■ サンプルプロジェクトデータベースをインストールする。 ■ （選択した場合のみ）IDE クライアントの実行ファイルをインストールする。 ■ （選択した場合のみ）デフォルトの IDE クライアントプロジェクトデータベースをインストールする。 ■ （選択した場合のみ）Version Manager のオンラインマニュアルをインストールする。 ■ オペレーティングシステムディレクトリ（¥WINDOWS など）に ISLV.INI を作成する。または、既存の ISLV.INI を変更する。 ■ インストールを実行したワークステーションに Version Manager のアイコンを追加する。 ■ 共有の実行ディレクトリを指すようにパスを変更する。

ネットワークインストールを計画するには、次の操作を行います。

- 1 インストールを実行する前に、ワークステーションまたはサーバの場所を決定します。さらに、すべてのユーザが、Version Manager のインストール場所へのネットワーク権限を持っていることを確認します。
 - 「ワークステーション」は、ユーザのワークステーションを指しています。
 - 「サーバ」は、すべての共有ファイルを含むネットワークサーバディスクボリューム上のディレクトリです。
- 2 ネットワーク上の場所に対して全ユーザが同じドライブマッピングを使用しており、ネットワークコピーのインストール元となるワークステーションでも同じドライブマッピングが使用されていることを確認します。たとえば、P:¥serena にマッピングされたネットワーク上の場所にワークステーションのセットアッププログラムをインストールする場合は、すべてのユーザがその場所を P:¥serena にマッピングする必要があります。
- 3 指示に従って、ワークステーションからネットワーク上に Version Manager をインストールします（53 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください）。ワークステーションで、Version Manager のインストールに対応したオペレーティングシステムを実行していることを確認してください。



重要！ Version Manager のワークステーションインストールをセットアップするときは、ローカルワークステーションからネットワーク上に Version Manager をインストールする必要があります。ネットワークサーバのコンソールで、Version Manager を直接インストールしないでください。その後、ユーザは、ネットワークから各自のローカルワークステーションに Version Manager をインストールします。

クロスプラットフォームインストールの実行プラン

UNIX ユーザと Windows ユーザがアーカイブを共有できるようにする場合は、次の作業を行う必要があります。

- Windows システムと UNIX システムの両方に Version Manager をインストールします。
- NFS または Samba を使用して、UNIX と Windows 間でファイルシステムを共有します。Version Manager は、nfsmap ファイルのユニバーサル命名規則（UNC）をサポートしています。

Windows と UNIX の両方に Version Manager をインストールした後で、クロスプラットフォーム環境をセットアップする方法については、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

IDE クライアントインストールの実行プラン

Version Manager IDE クライアントをインストールすると、統合開発環境 (IDE) 内から Version Manager のさまざまな機能を使用できます。開発環境から離れることなく、ファイルを取得したり、ファイルのチェックインやチェックアウトを行えます。

IDE クライアントは、以下のいずれかで使用できます。

- サポートされているソースコード管理 (SCC) インターフェイス準拠の IDE のプロジェクト。Microsoft.NET、Sybase PowerBuilder、Rational Rose Enterprise などがあります。
- サポートされている COM インターフェイス準拠の IDE の Web プロジェクト。このような IDE には、Microsoft FrontPage があります。
- サポートされている Eclipse インターフェイス準拠の IDE のプロジェクト。このような IDE には、IBM Websphere Studio Application Developer があります。



注 上記のほかにもサポートされている IDE があります。サポートされているすべての IDE とそのバージョン番号については、readme ファイルを参照してください。



重要! UNC パスでは Eclipse は正常に機能しません。UNC パスではなく、Version Manager インストールに対してマップされたドライブ、および Eclipse ベースの IDE で使用される Version Manager File Server パスを使用します。

IDE クライアントのインストールプランの詳細については、[第 16 章、173 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。

Version Manager Web サーバインストールの実行プラン

Version Manager Web クライアントをインストールすると、インターネットまたはイントラネットを介して、ブラウザベースのインターフェイスでバージョン管理作業を実行できます。Version Manager Web クライアントは、管理機能を使用する必要のないリモートユーザやモバイル環境のユーザに適しています。

Web クライアントは、Version Manager Web サーバインストールのコンポーネントです。サポート対象の Web サーバを実行しているマシンに、Web クライアントをインストールしてください。Version Manager Web サーバをインストールして、プロジェクトデータベースを設定すると、ユーザは Web ブラウザからサーバに接続し、クライアントインターフェイスをダウンロードできるようになります。

Version Manager Web サーバのインストールと設定については、[95 ページの『Version Manager Web サーバの概要』](#)を参照してください。

WebDAV Server インストールの実行プラン

WebDAV Server を使用すると、サポートされている WebDAV クライアントから Version Manager プロジェクトデータベースにアクセスできるようになります。アクセスしたプロジェクトデータベースに対してファイルのチェックアウトやチェックインを行うほか、Version Manager の一般的な作業も実行できます。たとえば、WebDAV と Microsoft Office を統合することによって、Office アプリケーションからリビジョンを開き、そのファイルを Version Manager から自動的にチェックアウトできます。その後、内容を変更してファイルを閉じると、Version Manager へ再びチェックインされます。

WebDAV Server は、Serena ChangeMan Meritage の必須コンポーネントです。Serena ChangeMan Meritage のインストールを計画している場合は、最初に、最新バージョンの WebDAV Server をインストールする必要があります。

WebDAV Server は、Version Manager Web サーバインストールのコンポーネントです。WebDAV Server のインストールと設定については、[第 18 章、187 ページの『WebDAV Server のインストール』](#)を参照してください。

Version Manager のオンライン登録

Version Manager をインストールする際、この製品のオンライン登録を実行できます。オンライン登録には次のような利点があります。

- 技術サポートのアカウントを取得することにより、必要なとき、迅速にサポートを受けることができます。
- Serena の製品開発に関する最新情報が記載されたニュースレターを毎月、電子メールで受け取ることができます。
- 技術パートナーのサイトやライブチャットセッションなど、Serena Web サイトからアクセスできるオンラインリソースの概要を参照できます。

オンライン登録を選択すると、デフォルトの HTML ブラウザに登録用 Web ページが自動的に表示されます。

第 2 章

Serena License Manager を使用した Version Manager のライセンス管理

Serena License Manager の使用	28
さまざまなライセンスモデル	28
ライセンスプロセス	30
License Manager のインストール	32
製品のライセンス管理	35
License Manager サーバの起動	39
ライセンス設定後の作業	40
指名ユーザライセンスのユーザ名の管理	41
ライセンスに関する問題の通知設定	42
ライセンスおよびサーバの管理	43
Version Manager でのライセンスの使用	45
評価版ライセンスのアップグレード	46
リダンダント License Manager サーバのセットアップ	47

Serena License Manager の使用

Serena License Manager を使用すると、さまざまな開発環境を対象としたライセンス管理を一元化することができます。有効なライセンス、および使用しているソフトウェアのバージョンを管理するためのライセンスツールが備わっています。

ライセンスの使用状況がわかれば、その組織に適したライセンスのタイプを判断し、コストを削減することができます。このライセンス管理ツールでは、ライセンスの使用状況を確認したり、各ユーザが使用しているバージョンとライセンスを手動で管理したりできます。

License Manager のインストール

Serena License Manager をインストールするサーバを指定します。このシステムから、ライセンスの取得と管理を行えるようになります。また、このシステムで問題が発生したときは、その問題が通知されるように設定できます。

選択した機能のライセンス手続きを行うには、インストール時に License Manager サーバへアクセスする必要があります。製品または製品の機能のライセンス手続きを正しく行うため、製品をインストールする際、License Manager サーバマシンの名前または IP アドレスを入力するよう求められます。

License Manager のユーティリティは、最小限の CPU 使用率で実行できます。

さまざまなライセンスモデル

Version Manager の機能を組織内でライセンス管理する場合、Version Manager 全体または Web サーバを対象として、指名ユーザライセンスまたは同時使用ライセンスを取得できます。

ライセンスモデルの種類の違いを理解するには、これらのライセンスモデルをレストランのテーブルにたとえてみるとよいでしょう。指名ユーザライセンスは、予約テーブルに相当します。同時使用ライセンスモデルは、「来店した順番に使用できる」空きテーブルです。

指名ユーザライセンス

指名ユーザライセンスは、License Manager を実行しているマシンに入力されたユーザ名に基づいてライセンスを予約します。これらのユーザは、Serena License Manager ツールの [Products] タブで管理します。このツールで名前が指定されているユーザだけが Version Manager にログインできます。管理者は、購入したライセンスと同じ数だけユーザを指定できます。

指名ユーザライセンスについては、以下の点に注意してください。

- ユーザ名は一意である必要はありません。License Manager ツールと同じユーザ名を複数回入力することによって、複数の指名ユーザライセンスを同じユーザ名に割り当てることができます。
- 1 人のユーザが同じ指名ユーザライセンスを使用して、同時に複数のシステムからログインすることはできません。同じユーザ名で、同時に複数のシステムからログインできるのは、そのユーザ名に複数のライセンスが割り当てられている場合のみです。1 人のユーザが複数のシステムからログインを試みる際に、余分な指名ユーザライセンスがない場合、同時使用ライセンスが使用されます（同時使用ライセンスが使用可能な場合）。
- ライセンスが各ユーザ名に割り当てられている場合、1 人のユーザが別々の各ユーザ名を使用して、同じシステムから複数回ログインできます。

同時使用ライセンス

同時使用ライセンス（フローティングライセンス）では、購入したライセンスをどのユーザでも使用できます。組織が複数のタイムゾーンにまたがっている場合、または Version Manager をあまり使用しないユーザがいる場合は、指名ユーザライセンスより、複数のユーザが同じライセンスを使用できる同時使用ライセンスが適しています。

2 つのライセンスモデルの併用

一部のユーザが Version Manager を一日中使用し、その他のユーザは Version Manager をあまり使用しない場合は、両方のタイプのライセンスモデルを購入することができます。

作業場所が異なるユーザのライセンス管理

ライセンス対象のユーザがそれぞれ異なる場所で作業しており、ネットワークが低速な場合は、ローカルのライセンスサーバマシンに License Manager をインストールし、場所ごとにユーザを設定します。この場合、各場所のサーバに License Manager をインストールする必要があります。ネットワークが高速な場合は、1 台の中央ネットワークマシンに License Manager をインストールし、すべての Version Manager ユーザがそのサーバにアクセスするようにします。

パッケージライセンスの使用

Serena Professional スイートを購入すると、Professional パッケージライセンスを取得できます。パッケージライセンスは、指名ユーザライセンスや同時使用ライセンスのほかのライセンスタイプとほぼ同じですが、パッケージライセンスの場合、各ライセンスで、Professional スイート内のすべての製品に同時にログインできます。たとえば、1 つの指名 Professional パッケージライセンスがあり、そのライセンスを Joe というユーザに割り当てた場合、Joe は、Professional スイートのすべての製品に一度にログインできます。

ライセンスプロセス

組織に適したライセンスを購入するには、どのようなユーザが、どのようなインターフェイスを使用して、Version Manager をどの程度の頻度で利用しているかを確認する必要があります。これらの情報を収集してはじめて、その組織に最も適したライセンスモデルを選択することができます。

ライセンスモデルの実装にはさまざまな方法があります。組織に最も適したライセンスを購入し、最適な方法で運用するには、あらかじめ計画を立てる必要があります。

ライセンスプロセスの概要



手順	アクション
ユーザに必要なライセンスの選択	組織で使用するライセンスの数とタイプを選択します。
ライセンスの購入	Serena または販売代理店に連絡し、ユーザに必要なライセンスを購入します。
License Manager のインストール	Version Manager ユーザのマシンからアクセスできるマシンに License Manager をインストールします。異なる複数の場所でライセンスを使用する場合は、ライセンスを必要とする各場所に License Manager ソフトウェアをインストールします。
ライセンスの取得	License Manager を起動し、Web サイトにアクセスしてライセンスキーを取得します。その際、購入するライセンスの数量とタイプを指定します。
License Manager の起動	License Manager を起動し、ライセンス管理を有効にします。
Version Manager のインストール	Version Manager をインストールし、License Manager マシンのホスト名または IP アドレスを入力します。

既存の Version Manager インストールのアップグレード

以前インストールした Serena License Manager がある場合、またはすでに License Manager を使用している既存の Version Manager のインストールをアップグレードする場合、最初に次のことを確認します。

- Version Manager 8.1 以降にアップグレードする場合、現在のバージョンの Serena License Manager (2.1.1) をインストールする必要があります。既存の Version Manager ライセンス キーを使用できます。
- ChangeMan Builder 6.3.1 以降にアップグレードする場合、現在のバージョンの Serena License Manager (2.1.1) をインストールする必要があります。既存の ChangeMan Builder ライセンスキーを使用できます。
- 既存の Version Manager または Builder のインストールを引き続き使用する場合で、そのインストールで以前のバージョンの License Manager が使用されている場合でも、新しい機能を利用するためには、License Manager の最新バージョンにアップグレードする必要があります。既存のインストールで、新しいバージョンの License Manager が使用されます。

License Manager の既存インストールのアップグレードの詳細については、[33 ページの『License Manager のアップグレードについて』](#)を参照してください。

License Manager のインストール

Serena 製品用のサーバに Serena License Manager をインストールします。License Manager セットアップにより、サーバ上で License Manager を実行するために必要な機能がインストールされます。

License Manager サーバに Version Manager をインストールする必要はありません。Version Manager をインストールする際、サーバの場所を指定するよう求められます。

License Manager のアップグレードについて

License Manager の既存のインストールをアップグレードするには、インストール手順に従い、次の点に注意します。

- インストールの前に、License Manager サービスを停止します。
- インストールの場所を選択するための画面が表示されたら、License Manager がインストールされているディレクトリを選択します。既存の License Manager コンポーネントがアンインストールされ、新しい License Manager コンポーネントに置き換えられます。
- Windows では、[スタート] メニューのプログラムグループが、現在のバージョンの License Manager を反映するようにアップグレードされます。
- 現在のライセンス設定を保持するかどうかを選択するよう要求されたら、【Yes (はい)】をクリックします。
- License Manager を再起動します。

License Manager を Windows 上にインストールする場合

License Manager をインストールするには

- 1 Serena Professional CD を CD-ROM ドライブにセットし、すべてのアプリケーションを終了します。Serena Web サイトから Serena License Manager をダウンロードすることもできます。
- 2 次のプログラムを起動します。

`<Drive>:\Serena License Manager\win32\setup.exe`
- 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

License Manager を UNIX 上にインストールする場合

UNIX 上にインストールするには

- 1 Serena Professional CD を CD-ROM ドライブにセットし、すべてのアプリケーションを終了します。ワークステーションの設定によっては、CD-ROM ドライブが自動的にマウントされます。CD-ROM ドライブがマウントされない場合は、手動でマウントしてください。CD-ROM をマウントする方法については、CD ケースに収められている説明書を参照してください。
- 2 次のように入力して、セットアッププログラムに移動します。
`cd <cd_root>/licensemanager/unix`
- 3 次のように入力して、セットアッププログラムを実行します。
`./lminst`
- 4 License Manager をインストールする場所を入力し、画面の指示に従ってインストールを完了します。

インストール後の作業

Serena License Manager をインストールした後、次の作業を行う必要があります。

- ユーザ用のライセンスを取得します。35 ページの『[ライセンスの取得](#)』を参照してください。
- 指名ユーザライセンスを使用する場合は、Version Manager に登録されている有効なユーザ ID を追加します。41 ページの『[指名ユーザライセンスのユーザ名の管理](#)』を参照してください。
- License Manager サーバが自動的に起動しない場合は、手動で起動します。39 ページの『[License Manager サーバの起動](#)』を参照してください。
- Version Manager をインストールします。
- ライセンスに関するエラーが通知されるように設定します。

製品のリソース管理

License Manager を使用して、Serena からライセンスを取得するためのプロセスを自動化します。

Windows 環境で License Manager ツールを開くには、
[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [License Manager] –
[License Manager] の順に選択します。

License Manager ツールを UNIX 上で開くには、License Manager をインストールした場所へ移動し、**launch_merantlm** を実行します。

Serena からすでにライセンスキーを取得している場合は、〈I have received a license key from Serena〉オプションを選択し、License Manager ツールの所定のフィールドにキー文字列を貼り付けます。

ライセンスの取得

ライセンスを取得するには、License Manager ツールを使用して Serena の Web サイトにアクセスします。

License Manager ツールを使用して Serena からライセンスを取得するには

- 1 [Licensing] タブの 〈Connect to the Web to get a license key〉 オプションを選択し、【Get Key(s)】 ボタンをクリックします。



- 2 Serena サポート Web ページが表示されます。この Web ページからキーを取得するには、次のように操作します。
 - a アカウントのユーザ名とパスワードを入力してログインします。アカウントを持っていない場合、製品のシリアル番号を使用して登録を行う必要があります。有効なシリアル番号がない場合、Serena の販売担当者にお問い合わせください。
 - b ツールバーで [Licensing] - [Generate Key] の順に選択します。
 - c ライセンスを取得する製品を選択し、次のページに進みます。
 - d 次のページで、ライセンスを取得する製品のシリアル番号が選択されていることを確認します。また、License Manager をインストールしているサーバのホスト ID が正しいことも確認します。製品に複数のシリアル番号が示されている場合、正しいシリアル番号を選択してください。



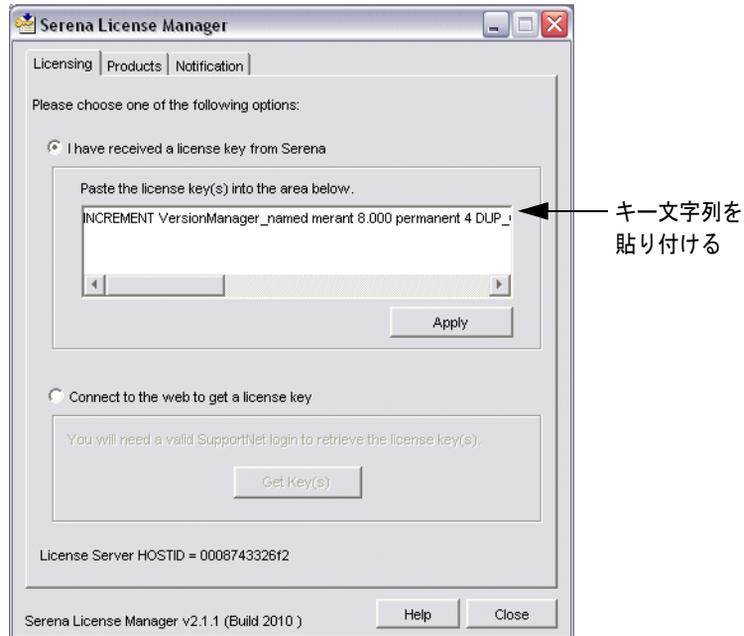
注 ライセンスサーバ以外のマシンから Web サイトへアクセスした場合は、所定のフィールドにライセンスサーバのホスト ID を入力する必要があります。ライセンスサーバのホスト ID を取得するには、Serena Licenses Manager ディレクトリで、コマンドプロンプトに `lmutil lmhostid` と入力します。

- e 次のページで、各製品または製品コンポーネントに対して必要なライセンス数を入力し、次に進みます。使用可能なライセンス（指名ユーザライセンスおよび同時使用ライセンス）の総数が表示されます。
- f 次のページで、これまでに選択したライセンスを確認できます。また、ライセンスプロセスのスムーズな導入に役立つ 30 日間の評価用キー（グレースキー）を取得するかどうかを選択することもできます。この評価ライセンスキーにより、実際に必要となるライセンス数を確認することができます（1 回に限る）。グレースキーを生成するかどうかを選択します。ライセンスの選択が正しい場合、次に進みます。
- g Serena マスタ使用権許諾契約の内容を確認し、同意する場合は〈I Agree〉を選択します。
- h 次のページで、影の付いた領域にあるライセンス文字列全体をコピーします。余分なスペースがコピーされていないことを確認してください。余分なスペースがコピーされていると、そのキーは無効とみなされます。



注 キーは通知メールでも受け取ります。

- 3 License Manager ツールに戻ります。〈I have received a license key from Serena〉オプションを選択し、コピーしたキーを所定のフィールドに貼り付けます。



- 4 【Apply (適用)】をクリックします。



重要！ 指名ユーザライセンスを使用する場合は、Version Manager へログインする前に、1 つ以上の有効なユーザ ID を License Manager ツールに追加するか、ユーザ名が自動的に追加されるように License Manager を設定する必要があります。41 ページの『指名ユーザライセンスのユーザ名の管理』を参照してください。

License Manager サーバが自動的に起動します。License Manager サーバが実行中の場合は、再起動するよう求められます。License Manager サーバが自動的に起動しない場合は、手動で起動できます。詳細については、39 ページの『License Manager サーバの起動』を参照してください。

サーバから Web サイトにアクセスできない場合に、Serena からライセンスを取得するには、次の操作を行います。

- 1 Web アクセスの可能な別のコンピュータから、サポート Web サイトへアクセスします。製品のシリアル番号とライセンスサーバマシンのホスト ID を確認しておいてください。これらの情報を Web システムに入力する必要があります。

ライセンスサーバマシンのホスト ID は、[License Manager] ダイアログボックスの [Licensing] タブの下部に表示されます。

- 2 キー文字列が表示されている Web ページにアクセスしたら、そのキー文字列をテキストエディタにコピーします。ファイルをフロッピーディスクに保存するか、ライセンスサーバマシンからアクセスできるネットワーク上の場所にコピーします。
- 3 ライセンスサーバマシンにフロッピーディスクを挿入します。または、ファイルを保存したネットワーク上の場所に移動します。ファイルを開いて、キー文字列をコピーします。さらに、〈I have received a license key from Serena〉 オプションを選択し、License Manager ツールの所定のフィールドにキー文字列を貼り付けます。

ライセンスの追加

購入したライセンスのうち、まだ使用していないライセンスがある場合は、License Manager ツールを使用して、それらのライセンスキーを追加することができます。

購入したライセンス数では足りない場合は、Serena または販売代理店に連絡して追加のライセンスを購入し、シリアル番号に追加してください。

最初に購入したライセンスのライセンスキーを追加するには、次の操作を行います。

- 1 上記の 35 ページの『License Manager ツールを使用して Serena からライセンスを取得するには』の手順に従います。
- 2 【Apply (適用)】をクリックして、ライセンスサーバを起動します。

追加のライセンスを購入し、既存のライセンスに追加するには、次の操作を行います。

Serena または販売代理店に連絡して、追加のライセンスを購入します。追加ライセンス用のシリアル番号を更新したら、上記の手順にしたがって、追加のライセンスを取得します。

License Manager サーバの起動

ライセンスの取得後にライセンスサーバが自動的に起動しない場合は、ほかの Serena 製品をインストールする前に、ライセンスサーバを手動で起動する必要があります。

Windows の場合 **License Manager サーバを起動および停止するには、次の操作を行います。**

[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [License Manager] – [Start License Manager Service] の順に選択します。

License Manager サーバを停止するには、次の操作を行います。

[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [License Manager] – [Stop License Manager Service] の順に選択します。

UNIX の場合 **UNIX 上で License Manager サーバを起動するには、次の操作を行います。**

コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
/usr/serena/license_manager/<os>/start_license_server
```

License Manager サーバを停止するには、次の操作を行います。

コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
/usr/serena/license_manager/<os>/stop_license_server
```

License Manager をサービスとして実行

License Manager をサービスとして実行した場合、サーバを再起動すると、License Manager も自動的に再起動されます。

License Manager をサービスとして実行するには、次の操作を行います。

- Windows の場合
- 1 Serena License Manager をインストールしたディレクトリに移動し、lmtools.exe をダブルクリックして開きます。
 - 2 [Config Services] タブを選択し、〈Use Services〉チェックボックスを選択します。このサービスを自動的に起動する場合は、〈Start Server at Power Up〉チェックボックスを選択します。

UNIX の場合 UNIX プラットフォームで License Manager をサービスとして実行する方法の詳細については、『FLEXIm End Users Guide』の『6.2 Starting the License Manager Daemon on UNIX Platforms』を参照してください。このファイルは次の場所にあります。

```
<install directory>/doc/enduser.pdf
```

License Manager サーバをサービスとして自動的に起動する方法については、セクション 6.2.2 を参照してください。



注 License Manager サービスを UNIX 上で設定する場合、start_license_manager スタートアップスクリプトのパスは完全修飾パスである必要があります。

ライセンス設定後の作業

Version Manager
をインストールして
いない場合

ライセンスを取得した後、Version Manager またはその他の Serena 製品をインストールできます。指名ユーザライセンスモデルを使用する場合、デフォルトでは、Version Manager にログインしたユーザにライセンスが自動的に割り当てられます。ユーザ ID を License Manager へ自動的に追加しない場合は、[41 ページの『指名ユーザライセンスのユーザ名の管理』](#)の説明に従って、ユーザ ID を手動で設定してください。

ワークステーションインストールを使用して Version Manager をユーザに配布する場合、ワークステーションインストールのセットアップ時に、License Manager サーバ情報をあらかじめ設定しておくことができます。License Manager サーバ情報を設定しておけば、インストールまたはログインするとき、ユーザは License Manager マシンの IP アドレスを指定する必要がありません。詳細については、[43 ページの『ワークステーションインストールのライセンスの設定』](#)を参照してください。

それ以外の場合は、ユーザが Version Manager をインストールできるよう、License Manager サーバマシンの名前または IP アドレスを通知する必要があります。

Version Manager
をインストールして
いる場合

Version Manager またはその他の Serena 製品をすでにインストールしている場合は、その製品を最初に起動する時点で License Manager サーバの場所を入力することができます。

指名ユーザライセンスのユーザ名の管理

指名ユーザライセンスを購入した場合、ユーザが Version Manager プロジェクトにログインできるようにするには、Version Manager のユーザ ID、および使用を許可する機能を License Manager に指定しておく必要があります。ユーザのアクセスは自動的に管理できます。また、License Manager にユーザ ID を手動で入力することもできます。指名ユーザライセンスを使用する別のシナリオについては、[29 ページの『指名ユーザライセンス』](#)を参照してください。

ユーザに対する機能の割り当て、再割り当て、削除を行うには、次の操作を行います。

- 1 [Products] タブの〈Product Licenses〉リストで機能を選択し、【Manage User IDs】ボタンをクリックします。
- 2 [User Management] ダイアログボックスが開きます。次のいずれかの操作を行います。
 - 【Add User (ユーザの追加)】をクリックし、ユーザ ID を入力して、1 人または複数のユーザを追加します。何人のユーザでも追加できます。その際、ID 間はスペースで区切ります。ユーザを追加する際、以下の点に注意してください。
 - ユーザ名では大文字と小文字は区別されません。
 - 同じユーザ名に複数のライセンスを割り当てることができます。これにより、このユーザは、同じユーザ名を使用して複数のシステムからログインできます。
 - 【Remove User】をクリックし、選択したユーザをリストから削除します。

ユーザの要求に応じて指名ユーザライセンスを自動的に割り当てるには、次の操作を行います。

[Products] タブの〈Product Licenses〉リストで機能を選択し、〈Auto-add user IDs for named licenses〉を選択します。これで、ユーザが Version Manager にログインしたとき、指名ユーザライセンスリストにユーザ ID が自動的に追加されるようになります。このオプションはデフォルトで設定されています。

ユーザが製品にログインすると、ライセンスサーバは、そのユーザが使用しようとしている機能のライセンスが存在するかどうかを確認します。ライセンスが存在する場合は、そのユーザのユーザ ID をユーザリストに書き込み、要求された機能を使用するための指名ユーザライセンスをユーザに割り当てます。

以下の場合、複数のライセンスが同じユーザ名に自動的に割り当てられます。

- 指名ユーザライセンスが割り当てられているユーザ名を使用して、ユーザがログインしようとした
- 既存のライセンスが別のシステムで現在使用されている
- 余分な指名ユーザライセンスがある

ライセンスに関する問題の通知設定

〔Notification〕タブでは、License Manager から通知が送信されるように設定できます。ライセンスに関する問題が電子メールで通知されるようにするには、SMTP サーバのアドレスと電子メールアドレスを指定する必要があります。

次のような状況が発生したとき、通知を受け取ることができます。

- ライセンスが足りなくなったとき
- サーバに存在しないライセンスをユーザが要求したとき
- 指名ユーザリストに登録されていないため、ユーザのライセンス要求が拒否されたとき

ライセンスに関する問題が通知されるように設定するには、次の操作を行います。

- 1 電子メールサーバとアドレスを指定します。
 - License Manager の SMTP サーバ IP/ ホスト名を入力します。
 - 〈From address〉フィールドに、送信元アドレスとして表示される電子メールアドレスを入力します。
 - 〈To address〉フィールドに、通知の送信先となる電子メールアドレスを入力します。
 - 自分の電子メールアドレスを入力します。
 - 〈Send email notification of licensing issues to enable notification〉を選択します。通知を中止する場合は、このオプションの選択を解除します。
- 2 【Apply Changes】をクリックします。

ライセンスおよびサーバの管理

License Manager ツールをインストールしてユーザのライセンスキーを取得した後、Serena License Manager とライセンスユーティリティを併用して、ライセンスサーバとライセンスを管理することができます。

ワークステーションインストールのライセンスの設定

ワークステーションインストールイメージのライセンスを設定するには、ISLV.INI ファイルを更新し、License Manager サーバのホスト名と IP アドレスをインストールイメージに追加します。詳細については、[61 ページの『ワークステーションのセットアップ』](#)を参照してください。

UNIX ワークステーションのライセンスの設定

UNIX 上でエンドユーザワークステーションのライセンスを設定するには、シェルスクリプト `vmreg` を実行して、`$PVCS_BINDIR` ディレクトリにある `license.ini` ファイル、またはエンドユーザのホームディレクトリにある `.islvr` ファイルを更新します。`vmreg` は、Version Manager インストールスクリプトおよび起動スクリプトによって自動的に実行されますが、管理者やユーザが実行することもできます。たとえば、管理者が現在のコンフィグレーションファイル情報を `$PVCS_BINDIR/license.ini` に保存した後、ユーザは `vmreg` を実行することによって、この情報を各自の `.islvr` ファイルに移動できます。PCL I またはデスクトップクライアントではなく、コマンドラインを使用するエンドユーザは、コマンドラインを使用する前に、`vmreg` を一度実行する必要があります。

次の方法でスクリプトを呼び出すことができます。

- `vmreg [server]` は、`$PVCS_BINDIR/license.ini` のライセンス情報を `.islvr` にコピーします。`server` 引数を指定した場合、`$PVCS_BINDIR/license.ini` の値ではなく、この引数からサーバ名が取得されます。ユーザは、コマンドラインからこのコマンドを実行します。
- `vmreg -t` は、`.islvr` にサーバ定義が存在しない場合のみ、`$PVCS_BINDIR/license.ini` のライセンス情報を `.islvr` にコピーします。PCL I およびデスクトップクライアントのランチャは、起動時にこのコマンドを自動的に実行します。

- `vmreg -m <server>` は、サーバの名前に基づいて `$PVCS_BINDIR/license.ini` を更新し、そのデータを `.islvc` にコピーします。Version Manager インストールスクリプトおよび管理者がこのコマンドを実行します。
- `vmreg -h` は、使用状況に関する情報を表示します。
- `vmreg -v` は、バージョン情報を表示します。

使用可能なライセンスの確認

指名ユーザライセンス

指名ユーザライセンスを使用している場合は、[Products] タブを使用して、使用可能なライセンスの総数と、使用可能な残りのライセンス数を確認できます。

同時使用ライセンス
(Windows)

同時使用ライセンスを使用している場合は、製品または機能を選択し、[Products] タブの【Concurrent Usage】ボタンをクリックすると、ライセンスの使用状況が表示されます。



注 Serena ChangeMan Professional 用の同時使用ライセンスを所有している場合、Professional のライセンスを選択しても使用状況の情報は表示されません。これは、使用中のライセンスが TeamTrack、Tracker、Builder、および Version Manager のライセンスとしてそれぞれの総数に算入されるためです。TeamTrack、Tracker、Builder、または Version Manager のライセンスを所有している場合は、各アプリケーションの使用ライセンス数を合計することで Professional の使用総数を確認できます。

同時使用ライセンス
(UNIX)

同時使用ライセンスを使用している場合、コマンドラインからログファイルを確認する必要があります。アクティビティログの取得方法については、『FLEXIm End Users Guide』を参照してください このファイルは次の場所にあります。

`<install directory>/doc/enduser.pdf`

License Manager サーバの移動

License Manager を別のサーバに移動する場合、新しいライセンスキーを取得する必要があります。License Manager サーバを移動する場合は、Serena の販売担当者にお問い合わせください。

License Manager サーバの切り替え

ユーザが Version Manager にログインした後で、有効な License Manager サーバを切り替える場合は、ISLV.INI ファイルを編集する必要があります。Version Manager デスクトップからサーバを切り替えることはできません。

- 1 ISLV.INI ファイルで、[Licensing] で始まるセクションを探します。次にその例を示します。

```
[Licensing]  
SERVER=@<name of server>
```

- 2 SERVER 定義を編集し、正しいサーバを指定します。
- 3 Version Manager を再起動します。

Version Manager Web サーバを使用している場合は、Web サーバを再起動する必要があります。ユーザは、正しい License Manager サーバにアクセスする Version Manager を使用できます。

Version Manager でのライセンスの使用

ユーザのシステムが
異常終了した場合

ユーザのマシンが異常終了した場合、ライセンスは 30 分間チェックアウトされたままとなります。その後、ユーザが 30 分以内に Version Manager へ再度ログインしない場合は、ライセンスがサーバに返されます。

ユーザが複数のマシン
にログインした
場合

組織内のユーザが複数のマシンにログインし、同時使用ライセンスを使用している場合、ログインした各マシンでライセンスが必要となります。

指名ユーザライセンスが設定された複数のマシンにユーザがログインした場合、ログインした各マシンで指名ユーザライセンスが必要となります。複数のマシンから同じユーザが一度にログインする必要がある場合、または同じユーザ名を持つ複数のユーザが複数のマシンから一度にログインする必要がある場合、同じユーザ名に対して、指定ユーザライセンスを必要なだけ割り当てることができます。

評価版ライセンスのアップグレード

Version Manager の評価版ライセンスを取得した場合は、30 日間そのままお使いいただけます。30 日が経過した時点で、評価版ライセンスを正式ライセンスにアップグレードする必要があります。



注 この手順は、License Manager サーバなしで Version Manager を評価した場合にのみ完了する必要があります。すでに License Manager を使用している場合（たとえば、一時ライセンスキーが含まれる拡張評価版を使用していた場合）、必要な作業は正式なライセンスキーを追加することのみです。

正式ライセンスへアップグレードするには

- 1 License Manager を設定し、正式なライセンスキーを取得します。35 ページの『製品のライセンス管理』を参照してください。
- 2 Windows システムで、ライセンスの対象となる各マシンに対して以下のいずれかを行います。
 - `<License Manager install directory>\¥ChangeLicenseServer.exe` を実行し、プロンプトが表示されたら、License Manager サーバの名前を入力します。



注 このディレクトリにアクセスできない場合、または License Manager が Windows 以外のプラットフォームにインストールされている場合には、Serena サポート Web サイトから ChangeLicenseServer 実行ファイルをダウンロードできます。<http://support.serena.com> で、ChangeMan Version Manager ナレッジベースの記事 70405 を参照してください。

- または、ISLV.INI ファイルをテキストエディタで開き、次を入力します。

```
[Licensing]  
SERVER=@<name of License Manager server>
```

<name of License Manager server> は、設定したライセンスサーバの名前です。

3 UNIX システムでは、以下を行います。

- a 次のディレクトリに移動します。<Version Manager Installation Directory>/vm/<OS>/bin
- b このディレクトリから次のコマンドを実行します。

```
vmreg <License Manager server name>
```

次にその例を示します。

```
./vmreg lmserver
```

- c すべてのユーザのホームディレクトリで、.islvrc ファイルを開き、次を入力します。

```
[Licensing]  
SERVER=@<name of License Manager server>
```

<name of License Manager server> は、設定したライセンスサーバの名前です。

リダンダント License Manager サーバのセットアップ

License Manager サーバに障害が発生した場合にも常にライセンスが使用できるように、リダンダント License Manager サーバをセットアップできます。このシナリオでは、いずれかのサーバで障害が発生したり、ネットワーク接続が失われたりした場合でも、ユーザが問題なくログインできるように、残りのサーバでユーザにライセンスを提供することができます。

リダンダントサーバをセットアップするには、以下のことを行います。

- **リダンダントサーバのライセンスキーを Serena サポート担当部署に要求します。**
リダンダントサーバのライセンスキーにより、リダンダントサーバ間で共有できる特殊なライセンスが有効になります。このキーを使用して、3つのサーバ間で共通のライセンス情報が共有され、いずれかのサーバがダウンしたときにも、残りのサーバで代行できる状態になります。

リダンダントサーバのライセンスキーが提供される際、リダンダントサーバのセットアップ方法およびライセンスキーのインストール方法と使用方法についての詳しいインストラクションも配布されます。

- **License Manager サーバを 3 つの別々のシステムにインストールします。**
これらのシステム間には、信頼性が高く質の高いネットワーク接続が常時有効になっている必要があります。サーバの 1 つが使用できなくなった場合、残りの 2 つがライセンスを提供します。3 つのサーバのうち 2 つが使用できなくなった場合には、ライセンスは提供されなくなります。
- **リダンダントライセンスサーバを使用するように各製品インストールを設定します。** この手順は、製品によって異なります。ライセンスキーが提供される際、リダンダントサーバを使用するように製品を設定する方法についての詳しいインストラクションも配布されます。このインストラクションには、新しい指名ユーザを自動追加するための正しい設定に関する情報も含まれています。

パート 2

Version Manager のインストール

『パート 2 : Version Manager のインストール』は、以下の章で構成されています。

Windows 版 Version Manager のインストール	51
UNIX 版 Version Manager のインストール	63
インストール後の作業	75

チェックリスト

Windows および UNIX 上に Serena ChangeMan Version Manager をインストールするには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	Windows : Version Manager をインストールする (53 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows ネットワークインストール : ワークステーションインストールの準備を行う (59 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows ネットワークインストール : ワークステーションをセットアップする (61 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows ネットワークインストール : ワークステーションのセットアッププログラムを実行する (62 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : setuid を使用してセキュリティを強化する (64 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : ユーザアカウントを作成する (66 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : Version Manager をインストールする (68 ページ)
<input type="checkbox"/>	Solaris、AIX、Linux : setuid モードのガイドラインと説明を確認する (71 ページ)
<input type="checkbox"/>	クロスプラットフォームインストール : setuid モードを使用する (73 ページ)
<input type="checkbox"/>	ログインソースを設定する (76 ページ)
<input type="checkbox"/>	プログラムファイルとデータを保護する (81 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : 環境変数を設定する (84 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : HTML ブラウザと Acrobat Reader を設定する (87 ページ)

第 3 章

Windows 版 Version Manager のインストール

インストールの前に	52
デフォルトのインストールディレクトリ構造	53
CD-ROM からの Version Manager のインストール	53
ワークステーションインストールの準備	59
ワークステーションのセットアップ	61
ワークステーションでのセットアッププログラムの実行	62

インストールの前に

以下のいずれかをインストールしている場合

- Version Manager File Server
- Web サーバ
- WebDAV Server

以下の作業が必要です。

- Version Manager Application Server を NT サービスとしてインストールしている場合、NT サービスを削除します。
- Version Manager Application Server を実行していれば、停止します。

NT サービスの削除

NT サービスを削除するには

- 1 [スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。
- 2 【Remove NT Service (NT サービスの削除)】ボタンをクリックします。
- 3 コンピュータを再起動します。

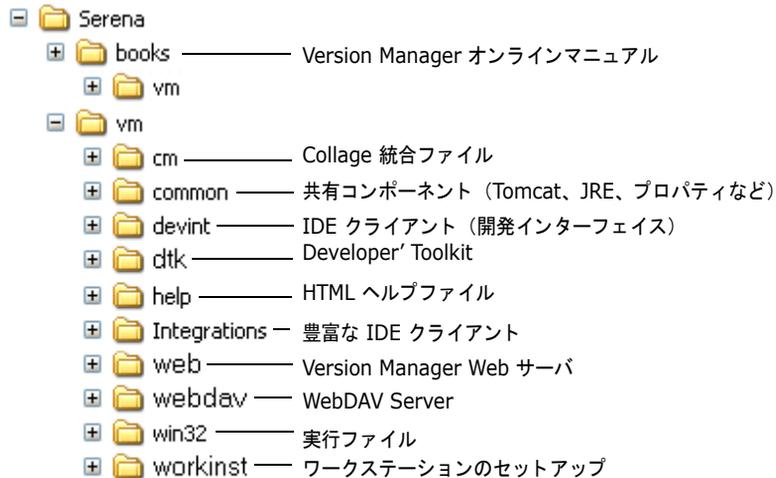
Windows での Version Manager Application Server の停止

Application Server を Windows で停止するには

- 1 [スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。
- 2 【Stop (停止)】ボタンをクリックします。

デフォルトのインストールディレクトリ構造

以下の図は、Version Manager を Windows プラットフォーム上にインストールしたとき、Program Files ディレクトリの下に作成されるデフォルトのインストールディレクトリを示しています。



* 実行ファイルには、Version Manager デスクトップクライアント、コマンドラインインターフェイス、プロジェクトコマンドラインインターフェイス、および IDE クライアント (インストールした場合のみ) のアプリケーションファイルが含まれます。

CD-ROM からの Version Manager のインストール

ここでは、Serena ChangeMan Professional スイート CD から、ローカルドライブ、ネットワーク上の場所、または Web サーバシステムに Version Manager をインストールする方法について説明します。ネットワークインストールを実行した後は、ユーザがワークステーションインストールを実行して、ネットワーク上にインストールされた共有バージョンの Version Manager コンポーネントを実行できます。ワークステーションインストールの実行方法については、[59 ページ](#)の『ワークステーションインストールの準備』を参照してください。

ネットワーク上にインストールした場合、そのワークステーションから各ユーザのマシンへ Version Manager をインストールして実行できるよう、自動的にセットアップされます。

IDE クライアントのインストール方法については、[第 16 章、173 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。

CD-ROM からインストールするには

- 1 Serena ChangeMan Professional スイート CD を CD-ROM ドライブにセットします。

CD-ROM ドライブがネットワーク上にある場合は、CD をマウントし、CD-ROM ドライブへのマッピングを作成してください。

インストール時の CD-ROM のマッピングは、ユニバーサル命名規則 (UNC) を使用しないで作成してください。
- 2 自動実行機能を使用するか、または [スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- 3 自動実行機能を使用しない場合は、`CD-ROM_drive:\vm\win32\setup.exe` に移動して、【OK】をクリックします。
- 4 [Welcome (ようこそ)] ダイアログボックスが表示されます。
【Next (次へ)】をクリックします。
- 5 [Choose License Server (License Server の選択)] ウィンドウで、次のいずれかを行います。
 - ライセンスサーバの場所がわかっている場合は、〈Specify License Server (License Server の指定)〉オプションを選択し、ライセンスサーバの名前または IP アドレスを〈Host Name (ホスト名)〉フィールドに入力します。その後、【Next (次へ)】をクリックします。
 - 評価版をインストールする場合は、〈Install a 30 day evaluation license (30 日間の評価版インストール)〉オプションを選択して、【Next (次へ)】をクリックします。

IDE クライアントをインストールする場合は、[第 16 章、175 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)に記載されている重要なインストール情報を参照してください。
- 6 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプを選択します。
 - 〈Local (ローカル)〉: Serena ChangeMan Version Manager の各機能をローカルマシンにインストールします。
 - 〈Network (ネットワーク)〉: Serena ChangeMan Version Manager の各機能をインストールし、ワークステーションインストールを可能にします。

- 〈Web Server (Web サーバ)〉: Serena ChangeMan Version Manager Web Server Application および Serena ChangeMan Version Manager WebDAV を含む、Serena ChangeMan Version Manager の機能をこの Web サーバにインストールします。
- 7 デフォルトディレクトリをそのまま使用するか、または別の場所を入力して、【Next (次へ)】をクリックします。デフォルトディレクトリは、*drive:¥Program Files¥Serena* です (*drive* は、デフォルトの Windows ドライブ)。
- Version Manager をネットワーク上にインストールして、ほかのユーザがワークステーションインストールを実行できるようにする場合は、各ユーザと同じ定義のドライブマッピングを使用してください。たとえば、ユーザがこのディレクトリを *P:¥serena* にマッピングしている場合は、同様に *P:¥serena* にマッピングする必要があります。
- この場所にインストールされるファイルと作成されるディレクトリについては、53 ページの『デフォルトのインストールディレクトリ構造』を参照してください。
- 8 画面の指示に従い、インストールする Version Manager のコンポーネントを選択して、【Next (次へ)】をクリックします。次のコンポーネントを選択できます。
- 〈Desktop Client (デスクトップクライアント)〉: Serena ChangeMan Version Manager グラフィカルユーザーインターフェイス。
 - 〈SCC/COM IDE Client (SCC/COM IDE クライアント)〉: SCC/COM 準拠の統合開発環境 (IDE) 内でのバージョン管理のための、Serena ChangeMan Version Manager Development Interface。IDE クライアントのインストールの詳細については、171 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』を参照してください。
 - 〈Plugin for Eclipse 2and 3 (Eclipse 2 および 3 用のプラグイン)〉: IBM WebSphere Studio Application Developer (WSAD) などの Eclipse ベースの IDE のバージョン 2 および 3 用の Serena ChangeMan Version Manager Development Interface。このプラグインは、TeamTrack SourceBridge および Tracker TrackerLink を使用して Serena Issue 管理との統合を実現します。Eclipse プラグインのインストールの詳細については、171 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』を参照してください。
 - 〈Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (豊富な機能統合))〉: IBM Rational Application Developer (RAD) などの Eclipse ベースの IDE のバージョン 3 用の Serena

ChangeMan Version Manager の豊富な機能統合。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合でき、Eclipse 2 および 3 用のプラグインより高度なソース管理機能統合を実現します。Eclipse プラグインのインストールの詳細については、[171 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』](#)を参照してください。

- **〈Plugin for VS .Net (rich integration) (VS .NET 用のプラグイン (豊富な機能統合))〉**: Microsoft Visual Studio .Net 2003 用の Serena ChangeMan Version Manager Development の豊富な機能統合。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合でき、SCC を使用する場合より高度なソース管理機能統合を実現します。Visual Studio プラグインのインストールの詳細については、[171 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』](#)を参照してください。
- **〈Web Server Application〉** (Web サーバインストールを選択した場合のみ) : Serena ChangeMan Version Manager Web インターフェイス。Version Manager Web サーバのインストール方法については、[第7章、103 ページの『Windows への Web サーバのインストール』](#)を参照してください。
- **〈Developer's Toolkit〉** : Serena ChangeMan Version Manager の機能を使用したアプリケーションを開発するためのパブリック API。DTK のインストール方法については、[第17章、183 ページの『Version Manager Developer's Toolkit のインストール』](#)を参照してください。
- **〈Version Manager WebDAV〉** (Web サーバインストールを選択した場合のみ) : Serena ChangeMan Version Manager WebDAV Server。WebDAV Server のインストールの詳細については、[第18章、187 ページの『WebDAV Server のインストール』](#)を参照してください。
- **〈Documentation (ドキュメント)〉** ÅF Serena ChangeMan Version Manager のマニュアル一式。
- **〈Workstation Install (ワークステーションインストール)〉** (ネットワークインストール専用) : ネットワーク上の Serena ChangeMan Version Manager に即座にアクセスし、インストールすることができます。ワークステーションインストールの詳細については、[59 ページの『ワークステーションインストールの準備』](#)を参照してください。

〈Workstation Install (ワークステーションインストール)〉を選択すると、setup.iss という名前のファイルが作成されます。このファイルには、管理者がインストール時に選択したコンポーネントとプログラムグループが記録されます。このファイルに記録されている選択内容に従ってワークステーションのサイレントインストールが実行されるので、ユーザは何も選択する必要がありません。ワークステーションインストールの詳細については、59 ページの『ワークステーションインストールの準備』を参照してください。

- 〈**Sample Project Database (サンプルプロジェクトデータベース)**〉: Serena ChangeMan Version Manager プロジェクトデータベースのサンプル。すべてのインターフェイスに対応しています。
- 〈**Command-Line Interface (コマンドラインインターフェイス)**〉: Serena ChangeMan Version Manager の各機能にコマンドラインからアクセスできます。
- 〈**File Server**〉: Serena ChangeMan Version Manager File Server が含まれます。

- 9 **IDE client** をインストールする場合は、IDE クライアントプロジェクト用のデフォルトプロジェクトデータベースを選択するよう求められます。デフォルトでは、IDE Project Database というデフォルトプロジェクトデータベースが <VM Install Dir>\vm\common\vmdevint ディレクトリに作成されます。【Next (次へ)】をクリックしてデフォルトのデータベースをそのまま使用するか、【Browse (...)】をクリックして別のデータベースを選択します。ユニバーサル命名規則 (UNC) を使用して、デフォルトプロジェクトデータベースの場所を指定することはできません。IDE クライアントのインストール方法については、第 16 章、173 ページの『IDE クライアントのインストール』を参照してください。



重要! IDE クライアントをインストールして、Microsoft FrontPage の Web プロジェクトで使用する場合は、Web サーバ上のローカルドライブにデフォルトプロジェクトデータベースを配置する必要があります。詳細は、178 ページの『Web サーバへのインストール』を参照してください。

- 10 〈Plugin for Eclipse 2and 3 (Eclipse 2 および 3 用のプラグイン)〉または〈Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (豊富な機能統合))〉を選択した場合、ダイアログボックスが表示されます。次のいずれかを行って、Eclipse ベースの IDE の場所を指定して、【Next (次へ)】ボタンをクリックします。
- リストにインストールパスを追加するには、【Add (追加)】ボタンをクリックします。次に、表示されるダイアログボックスで、IDE のインストール場所を指定します。

- リストからインストールパスを削除するには、該当するインストールパスを選択して、【Remove (削除)】ボタンをクリックします。



注 インストールされている WebSphere Studio 5 および Rational Application Developer 6 は、このリストに自動的に表示されます。WebSphere Studio 4 および Eclipse をリストに追加する場合は、【Add (追加)】ボタンを使用します。

- 11** プログラムフォルダを選択するダイアログボックスが表示されます。デフォルトのフォルダ (Serena ChangeMan Version Manager) をそのまま使用するか、または別のフォルダを指定して、【Next (次へ)】をクリックします。
- 12** 設定内容を確認し、問題がなければ、【Next (次へ)】をクリックしてファイルのコピーを開始します。設定を変更する場合は、【Back (戻る)】をクリックして [Select Program Folders (プログラムフォルダの選択)] ダイアログボックスに戻ります。
- 13** コンポーネントのインストールが完了すると、Version Manager をオンライン登録する画面が表示されます。オンライン登録を行うと Serena アンサーラインに登録され、必要なとき、すぐにサポートを受けられるようになります。また、Serena の製品開発に関する最新情報を電子メールで毎月知らせるニュースレターを購読したり、Serena Web サイトからアクセスできるオンラインリソースを参照することもできます。

Version Manager をオンライン登録するには、〈Register Now (オンライン登録)〉オプションを選択して、【Next (次へ)】をクリックします。ご使用のデフォルト HTML ブラウザに登録用 Web サイトが表示され、ユーザ名と登録番号が自動的に入力されます。表示される指示に従って、登録を完了してください。

- 14** 画面の指示に従って、インストールを完了します。

ネットワークインストールを実行して、ユーザのワークステーションまたは Web サーバを準備する必要がない場合は、[スタート] - [プログラム] - [Serena] - [Serena ChangeMan Version Manager] - [Serena ChangeMan Version Manager] の順に選択して Version Manager を開きます。

IDE クライアント IDE クライアントをインストールした場合、サポートされている開発環境を次に起動したとき、その IDE クライアントにアクセスすることができます。FrontPage など、COM ベースの IDE で作業する場合は、[178 ページの『Web サーバへのインストール』](#)の説明を参照してください。IDE クライアントの使用方法については、『Serena ChangeMan Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

ワークステーションインストールの準備

ワークステーションインストールにより、ユーザは、ネットワーク上に配置された共有バージョンの Version Manager を実行できます。つまり、共通の Version Manager アプリケーションおよびドキュメントにアクセスできます。ユーザが共有できる Version Manager のコンポーネントは次のとおりです。

- デスクトップクライアント
- IDE クライアント

Developer's Toolkit (DTK) は共有できません。

ネットワーク上の
IDE クライアント

IDE クライアントのインストールを選択した場合、IDE クライアントのコンポーネントはワークステーションインストールに含まれます。IDE クライアントコンポーネントのワークステーションインストールを設定するには、Version Manager と IDE クライアントをネットワーク上の同じ場所にインストールします。

FrontPage の Web プロジェクトで IDE クライアントを使用する場合は、このインターフェイスを Web サーバに直接インストールする必要があります。そのため、ワークステーションインストールコンポーネントのネットワークサーバ上へのインストールと、Web サーバで使用する IDE クライアントのインストールを同時に行うことはできません。IDE クライアントのインストールの詳細については、[第 16 章、173 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。

ワークステーション
のサイレントイン
ストール

Version Manager のネットワークインストールが完了したら、ワークステーションのサイレントセットアップ用テンプレートを作成して、各ユーザのセットアップ作業を簡略化することができます。ワークステーションのサイレントインストールを実行すれば、ユーザは、事前に定義されたオプションを使用して各自のワークステーションをセットアップできます。

サイレントセットアップを行うには、最初に、ネットワーク上でワークステーションセットアッププログラムを実行して、応答ファイルを作成する必要があります。/r フラグを使用して、すべてのインストールオプションが保存された setup.iss テンプレートを Windows ディレクトリ内に作成します。セットアッププログラムの実行が完了したら、ネットワーク上のワークステーションセットアップディレクトリに setup.iss ファイルをコピーします。さらに、以下のコマンドラインオプションを使用して、各自のワークステーションからセットアッププログラムを実行するようユーザに指示します。

```
<VM_Install_Dir>\vm\workinst\setup.exe /s
```

ワークステーションインストールのファイルサーバアクセス Version Manager File Server を使用する場合、SERVERS.INI ファイルに対応するネットワーク上の場所を事前定義しておくことによって、クライアントを簡単にセットアップできます。ISLV.INI ファイルの [PVCSGUI_6.5] セクションで、pvc.fileserver.path= エントリを探してください。Version Manager File Server の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

ファイルのローカルコピー 多数のユーザがネットワーク経由で Version Manager にアクセスする場合、一部のファイルをローカルにコピーすることでパフォーマンスを向上できます。たとえば、Java パッケージは、ユーザのワークステーション上の任意の場所にコピーできます。ファイルをローカルにコピーするには、ワークステーションインストール時に〈Local Copy of Java Packages〉オプションを選択し、ファイルのコピー先のディレクトリを指定します。



注 ワークステーションのサイレントインストールを予定しており、ファイルをローカルにコピーする場合は、Java パッケージのコピー先ディレクトリがユーザのワークステーション上に存在することを確認してください。

ワークステーションインストールを準備するには

- 1 53 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、ネットワーク上に Version Manager をインストールし、インストールするコンポーネントとして〈Workstation Install (ワークステーションインストール)〉を選択します。



注 管理者による Version Manager のインストール先と、ユーザによる Version Manager のインストール元は、同じドライブにマッピングされているか、UNC パスが指定されている必要があります。たとえば、管理者による Version Manager のインストール先が P:¥Serena にマッピングされている場合は、ユーザもその場所を P:¥Serena にマッピングする必要があります。

- 2 次のプログラムを起動します。

```
<VM_Install_Dir>\vm\workinst\setup /r
```

- 3 セットアッププログラムを使用して、ユーザに適したインストールオプションを設定します。設定内容は、テンプレートファイル(setup.iss) に保存されます。このファイルは、%WINDIR% 変数で指定されている場所にあります。

- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - ワークステーションのサイレントインストールを実行する場合は、`setup.iss` を `<VM_Install_Dir>\vm\workinst` ディレクトリにコピーします。このファイルのコピーすると、ユーザはインストール時に何も選択する必要がなくなります。ネットワークインストール時に管理者が選択した設定に従って、インストールが実行されます。
 - `setup.iss` ファイルをコピーしないで、次のステップに進みます。この場合、ワークステーションインストール時に、ユーザは自分で設定を選択する必要があります。
- 5 この後の『ワークステーションのセットアップ』、および 62 ページの『ワークステーションでのセットアッププログラムの実行』に進みます。

ワークステーションのセットアップ

管理者によってワークステーションインストールが準備されている場合、各ユーザは、ネットワーク上の Version Manager をインストールして実行することができます。

カスタム設定の維持

ワークステーションインストールの場合、ネットワーク上の Version Manager を複数のユーザで共有しますが、各ユーザは、ウィンドウのサイズ、ダイアログボックスの自動終了、最後に開いたプロジェクトデータベースの表示など、独自の設定をそのまま使用することができます。これらのカスタム設定は `ISLV.INI` ファイルに格納されます。ワークステーションのセットアッププログラムは、`ISLV.INI` を以下のいずれかのディレクトリに自動的に格納します。このファイルはほかのユーザと共有しないでください。

オペレーティングシステム	ほかのユーザと共有するディレクトリ	結果
Windows 2000	¥WINNT	ワークステーションのセットアッププログラムを実行する前に、 <code>ISLV.INI</code> 環境変数にローカルディレクトリを指定する必要があります。
Windows XP	¥Windows	

このファイルをほかのユーザと共有しないようにするには、ISLVINI 環境変数にローカルディレクトリを指定します。これによって、ほかのユーザが Version Manager を変更し、その変更が ISLV.INI ファイルに書き込まれた場合でも、この初期化ファイルが上書きされなくなります。たとえば、ISLV.INI ファイルを C:\Serena に保存するには、次の操作を行います。

- 1 タスクバーの [スタート] メニューから、
[設定] - [コントロールパネル] の順に選択します。
- 2 [システム] アイコンをダブルクリックします。
- 3 [詳細] タブをクリックします。
- 4 【環境変数】 ボタンをクリックします。
- 5 〈ユーザー環境変数〉 フィールドで、リストボックスに何も表示されていない場合は、【新規】 をクリックします。すでに表示されている環境変数を使用する場合は、その環境変数を選択して、【編集】 をクリックします。
- 6 〈変数名〉 フィールドに、ISLVINI と入力します。
- 7 〈変数値〉 フィールドに、C:\Serena と入力します。
- 8 【OK】 をクリックします。
- 9 システムを再起動して、変更を有効にします。

ワークステーションでのセットアッププログラムの実行

管理者がネットワーク上の 1 つ以上の場所に Version Manager をインストールした後、ユーザは、各自のワークステーションをセットアップすることができます。

ワークステーションのセットアッププログラムを実行するには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - 管理者がサイレントインストールを準備した場合は、
setup.exe /s コマンドを実行します。
 - それ以外の場合は、<VM_Install_Dir>\vm\workinst ディレクトリから
setup.exe コマンドを実行します。
- 2 サイレントインストールを使用しない場合は、画面に指示に従ってインストールを完了します。

第 4 章

UNIX 版 Version Manager のインストール

インストールの前に	64
setuid によるセキュリティの強化	64
デフォルトのインストールディレクトリ構造	66
Version Manager のユーザアカウントの作成	66
CD-ROM からの Version Manager のインストール	68
Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用	71
クロスプラットフォーム環境での setuid の使用	73

インストールの前に

以下のいずれかをインストールしている場合

- Version Manager File Server
- Web サーバ
- WebDAV Server

Version Manager Application Server を実行していれば、停止する必要があります。

UNIX での Version Manager Application Server の停止

Application Server を UNIX で停止するには

- 1 次のディレクトリに移動します。
`/VM_Install_Dir/vm/common/bin`
- 2 次のコマンドを入力します。
`./pvcstop.sh`

setuid によるセキュリティの強化

Serena ChangeMan Version Manager のファイルは、アーカイブに対してより高いレベルのセキュリティを実装する setuid モードでインストールされます。UNIX で Version Manager を起動するために実行するスクリプト pvcsvmux は、setuid と setgid の権限がデフォルトで有効になっている pvcsvmsuid プログラムを呼び出します。このスクリプトは、Version Manager のインストール場所の bin ディレクトリに配置されます。



注 setuid を無効にする手順については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

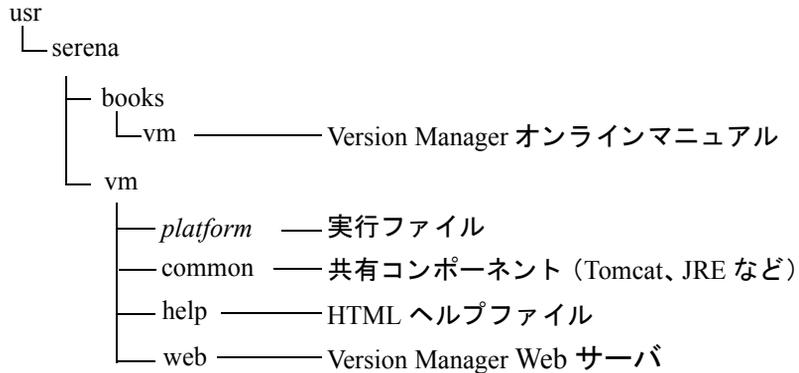
setuid では、ユーザは自分自身としてログインしますが、Version Manager は実行ファイルを所有するユーザとしてパブリックアーカイブを作成します。こうした理由から、pvcs という名前のユーザを作成することをお勧めします。これが、アーカイブに対して読み書き可能なアクセス権を持つ唯一のユーザになります。

setuid モードで実行すると、作業ファイル、テンポラリファイル、\$HOME/.islvrc を除くすべてのファイルがユーザ pvcs により作成されます。アクセスコントロール権限は、Version Manager アクセスコントロールデータベースによって管理されます。pvcs でない個々のユーザは、Version Manager のコマンドを使用しないかぎり、ファイルやディレクトリを変更、追加、削除することができません。

- 特記事項
- setuid を実装しない場合、アーカイブディレクトリへのアクセス権を持っていれどどのユーザでも、基本的な UNIX コマンドを使用して、アーカイブの移動、名前変更、破壊、削除を行うことができます。
 - 権限を rwxrwxr_x (775) にリセットした場合のみ、setuid モードと nonsetuid モードを切り替えることができます。この場合、すべてのユーザが同じプライマリグループに属している必要があります。また、ディレクトリまたは実行ファイルの権限を rwxrwsr_x (2775) にリセットして、モードを切り替えることもできます。この場合は、ユーザのプライマリグループが同じである必要はありませんが、pvcsgrp がセカンダリグループであることが条件となります。詳しくは、66 ページの『Version Manager のユーザアカウントの作成』を参照してください。
 - クロスプラットフォーム環境 (Windows と UNIX) で作業する場合は、setuid を使用できません。73 ページの『クロスプラットフォーム環境での setuid の使用』を参照してください。
 - Version Manager 6.6 以降の setuid は、バージョン 6.5 の setuid と競合します。Version Manager 6.6 以降がインストールされているワークステーションに Version Manager 6.5 もインストールされている場合は、バージョン 6.6 以降の setuid を無効にしてください。ただし、併用する Version Manager がどちらもバージョン 6.5 以前である場合は、setuid の互換性に関する問題は発生しません。
 - Solaris、AIX、Linux の場合、Version Manager を setuid モードで実行するには、インストール後にスクリプトを実行してシンボリックリンクを作成する必要があります。71 ページの『Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用』を参照してください。

デフォルトのインストールディレクトリ構造

次の図は、インストールプログラムによってデフォルトで作成されるディレクトリを示しています。



Version Manager のユーザアカウントの作成

Version Manager をインストールする前に、ユーザ `pvcs` とグループ `pvcsgrp` を作成することをお勧めします。これによって、Version Manager をより簡単に管理できるようになります。この手順を実行するには、`root` としてログインする必要があります。



重要！ 以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。異なるユーザ ID でインストールすると、`setuid` モードで使用されている既存のアーカイブの権限と矛盾する可能性があります。

ユーザとグループの作成の詳細については、ご使用のオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Version Manager のユーザアカウントを作成するには、次の操作を行います。

- 1 root としてログインし、インストールディレクトリ (`/usr/serena`. など) を作成します。



注 複数のプラットフォーム用に Version Manager をインストールする場合は、プログラムファイルの上書きを避けるため、次のようにプラットフォームごとに別のディレクトリ構造を作成してください。
`/usr/serena/aix`.

- 2 実行ファイルを所有するユーザ (`pvcs` など) を作成します。

```
/usr/serena
```

これはユーザのホームディレクトリで、システム管理者が指定します。

- 3 新しく作成したグループ (`pvcsgrp` など) または既存のグループを、すべての Version Manager ユーザのプライマリグループとして設定します。

純粋な UNIX 環境で作業している場合でも、Version Manager の実行ファイルを `setuid` モードで実行するときは、ユーザが `pvcsgrp` グループのメンバーである必要があります。ただし、`pvcsgrp` グループがユーザのプライマリグループでなくてもかまいません。`pvcs` ユーザの場合のみ、`pvcsgrp` グループをプライマリグループとして設定します。

- 4 `/usr/serena` の所有者を `pvcs` に変更します。

```
chown pvcs /usr/serena
```

- 5 `/usr/serena` のグループを `pvcsgrp` に変更します。

```
chgrp pvcsgrp /usr/serena
```

- 6 次の表を参照し、必要に応じてディレクトリ権限を変更します。

User (ユーザ)	権限
ユーザ <code>pvcs</code>	読み込み、書き込み、実行 (7 または <code>u=rwx</code>)
グループ <code>pvcsgrp</code>	<code>setuid</code> : 読み込みと実行 (5 または <code>g=rx</code>) nonsetuid : 読み込み、書き込み、実行 (7 または <code>g=rwx</code>)
ほかのユーザ	読み込みと実行 (5 または <code>o=rx</code>)

次にその例を示します。

```
chmod 755 /usr/serena
```

または、

```
chmod u=rwx,g=rx,o=rx /usr/serena
```

CD-ROM からの Version Manager のインストール

Version Manager をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager の readme ファイルを参照し、UNIX に関する記述を確認します。
- 2 pvcs としてログインし、作業ディレクトリをインストールディレクトリ（/usr/serena など）に変更します。



重要！ 以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。異なるユーザ ID でインストールすると、setuid モードで使用されている既存のアーカイブの権限と矛盾する可能性があります。

ユーザ **pvcs** として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ **pvcsgrp** のメンバにすることをお勧めします。

- 3 Serena ChangeMan Professional スイート CD を CD-ROM ドライブにセットします。ワークステーションの設定によっては、CD-ROM ドライブが自動的にマウントされます。CD-ROM ドライブがマウントされない場合は、手動でマウントしてください。CD-ROM をマウントする方法については、CD ケースに収められている説明書を参照してください。
- 4 次のように入力して、セットアッププログラムが格納されている場所に移動します。

```
cd cdrom_path/vm/unix
```
- 5 次のように入力して、セットアッププログラムを実行します。

```
./vminst
```

製品使用権許諾契約が表示されます。

- 6 インストールを続行するには、ENTER キーを押して製品使用権許諾契約に同意します。N と入力するとインストールは中止されます。
- 7 現在のユーザとグループを確認します。インストールを行う際は、ユーザ pvcs、グループ pvcsgrp または pvcs を使用することをお勧めします。ENTER キーを押して、続行します。
- 8 ライセンスサーバ情報を入力します。ライセンスサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

30 日間の評価版ライセンスを使用する場合は、このフィールドに何も入力しないでください。評価期間中はいつでもライセンスサーバを指定できます。
- 9 インストールする Version Manager コンポーネントを選択するための画面が表示されます。該当するコンポーネントを選択または選択解除して、【Next (次へ)】をクリックします。選択可能なコンポーネントは次のとおりです。

- **〈Desktop Client for UNIX〉** : Serena ChangeMan Version Manager デスクトップクライアント。
- **〈Web Server for UNIX〉** : Serena ChangeMan Version Manager Web インターフェイス。Version Manager Web サーバのインストール方法については、[第 8 章、111 ページの『UNIX への Web サーバのインストール』](#)を参照してください。
- **〈Version Manager WebDAV for UNIX〉** : Serena ChangeMan Version Manager WebDAV サーバを含みます。WebDAV Server のインストールの詳細については、[第 18 章、190 ページの『UNIX への WebDAV Server のインストール』](#)を参照してください。
- **〈Documentation (ドキュメント)〉** : Serena ChangeMan Version Manager のマニュアル一式。
- **〈Developer's Toolkit〉** : Serena ChangeMan Version Manager の機能を使用したアプリケーションを開発するためのパブリック API。DTK のインストール方法については、[第 17 章、184 ページの『Developer's Toolkit のインストール』](#)を参照してください。
- **〈Sample Project database (サンプルプロジェクトデータベース)〉** : Version Manager プロジェクトデータベースのサンプル。すべてのインターフェイスに対応しています。

『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』のチュートリアルを使用するには、サンプルプロジェクトデータベースをインストールする必要があります。

- 10** インストールするコンポーネントを選択した後、次のいずれかの操作を行います。
- ENTER キーを押して、インストールを続行します。
 - N と入力して ENTER キーを押し、コンポーネントを再度選択します。
使用している UNIX オペレーティングシステムが自動的に検出されます。
- 11** 次のいずれかの操作を行います。
- ENTER キーを押して、検出されたオペレーティングシステム上でのインストールを続行します。
 - 2 と入力して、別のオペレーティングシステムを選択します。同じサーバ上に、異なるオペレーティングシステム用の Version Manager をインストールできます。

対応するオペレーティングシステムが異なる複数の Version Manager について、それぞれサンプルプロジェクトデータベースを作成することはできません。
 - 3 と入力して、インストールプログラムを終了します。
- 12** 次のいずれかを行って、インストールディレクトリを指定します。
- ENTER キーを押して、デフォルトの /usr/serena をそのまま使用します。
 - インストールディレクトリを入力して、デフォルト以外の場所にインストールします。

この場所にインストールされるファイルと作成されるディレクトリについては、66 ページの『デフォルトのインストールディレクトリ構造』を参照してください。
- 13** ENTER キーを押して、インストールディレクトリのパスを確認します。ディレクトリが存在しない場合は、そのディレクトリを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 14** 次のいずれかの操作を行います。
- ENTER キーを押して、選択したプラットフォームとインストールディレクトリを確認します。インストールの進行状況が示され、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されます。
 - E と入力して ENTER キーを押し、セットアッププログラムを終了します。

- 15** Version Manager Web サーバをインストールするよう選択した場合、Version Manager Web サーバ用としてどの Web サーバを使用するかを指定する必要があります。ENTER キーを押してデフォルト設定をそのまま使用するか、N と入力して別の Web サーバを選択します。



注 インストールが完了した後、別途、Web サーバの設定を行う必要があります。手順については、115 ページの『インストール後の手順』を参照してください。

- 16** インストールが完了すると、Version Manager をオンライン登録する画面が表示されます。オンライン登録を行うと Serena アンサーラインに登録され、必要なとき、すぐにサポートを受けられるようになります。また、Serena の製品開発に関する最新情報を電子メールで毎月知らせるニュースレターを購読したり、Serena Web サイトからアクセスできるオンラインリソースを参照することもできます。

Version Manager のオンライン登録を実行するには、ENTER キーを押します。ご使用のデフォルト HTML ブラウザに登録用 Web サイトが表示され、ユーザ名と登録番号が自動的に入力されます。オンラインの画面に表示される指示に従って、登録を完了してください。

Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用

Solaris、AIX、および Linux の場合、Version Manager を setuid モード（インストール時のデフォルト設定）で実行するには、Version Manager の共有ライブラリへのシンボリックリンクを各オペレーティングシステム上で作成する必要があります。これらのリンクは、ディレクトリ /usr/lib または /usr/lib/secure にインストールされます（ディレクトリは OS によって異なります）。

これは、OS のセキュリティ上必要な操作で、setuid モードでのアプリケーションの実行時に、不特定の場所から共有ライブラリが使用されるのを防ぐためのものです。リンクは、Version Manager を実行するすべてのシステム上に作成する必要があります。

使用している OS に適したシンボリックリンクを作成するスクリプトが用意されています。

リンクを作成するには、次の操作を行います。

次のコマンドを root で実行します。

```
<VM_Install_dir>/vm/<os>/bin/vmlinklibs -add
```

例：

```
/usr/serena/vm/solaris/bin/vmlinklibs -add  
/usr/serena/vm/aix/bin/vmlinklibs -add
```

-add オプションの代わりに -verify オプションを使用すると、正しいリンクがすでにインストールされているかどうかをチェックできます。
また、以前に作成されたリンクを削除する場合は -delete オプションを使用します。

あるいは、次のコマンドを実行して、Version Manager の setuid モードを無効にすることもできます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/<os>/bin/vmsetsuid -unset
```

Version Manager をインストールしたユーザとして、上記のコマンドを実行してください。関連するすべての Version Manager 実行ファイルが setuid モードではなくなります。setuid モードを再度有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/<os>/bin/vmsetsuid -set
```

リンクを確認するには

すべての実行ファイルが setuid モードであるかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/<os>/bin/vmsetsuid -verify
```

HP-UX の場合、これらのリンクを setuid モードで実行する必要はありません。Version Manager を setuid モードで実行する目的については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

クロスプラットフォーム環境での `setuid` の使用

UNIX と Windows 間でのファイルのマッピング方法によっては、`setuid` をクロスプラットフォーム環境で使用できます。

Samba での `setuid` の使用

Samba コンフィグレーションファイル（通常は `SMB.CONF`）に次のような行を追加するか、または行を編集します。

```
[serenavm]
path = VM_Path
force user = VM_ID
force group = VM_Group
read only = No
```

各パラメータの内容は次のとおりです。

- `VM_Path` : UNIX システム上で、Version Manager プロジェクトデータベースが配置されている場所。
- `VM_ID` : Version Manager を UNIX システムにインストールしたときの UNIX ID。
- `VM_Group` : Version Manager をインストールしたときのユーザグループ。



重要！ 以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。異なるユーザ ID でインストールすると、`setuid` モードで使用されている既存のアーカイブの権限と矛盾する可能性があります。

ユーザ **pvcs** として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ **pvcsgrp** のメンバにすることをお勧めします。



注 この例は、特定の共有でのみ使用できます。Samba コンフィグレーションファイルの `[global]` セクションでこれらの設定を使用する方法については、Samba のマニュアルを参照してください。

NFS での setuid の使用

NFS クライアントでユーザ ID とユーザグループをマッピングできない場合は、UNIX で setuid を使用できません。UNIX で setuid を使用するには、認証が完了した後、VM_ID および VM_Group によるアクセスを許可するように NFS クライアントを設定する必要があります（前に説明したように、VM_ID と VM_Group は、それぞれ Version Manager を UNIX にインストールしたときのユーザ ID とユーザグループです）。



重要！ 以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。異なるユーザ ID でインストールすると、setuid モードで使用されている既存のアーカイブの権限と矛盾する可能性があります。

ユーザ **pvcs** として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ **pvcsgrp** のメンバにすることをお勧めします。

ユーザ ID とグループのマッピングについては、NFS クライアントのマニュアルを参照してください。

第 5 章

インストール後の作業

ログインソースの設定	76
プログラムファイルとプロジェクトデータの保護	81
Version Manager に必要な UNIX 環境の設定	84
UNIX での Adobe Acrobat Reader および HTML ブラウザの設定	87
次のステップ	89

ログインソースの設定

ユーザが Serena ChangeMan Version Manager を使用する前に、ログインソースからユーザ ID を取得するよう Version Manager を設定する必要があります。ログインソースとは、ユーザ ID を取得するために Version Manager で使用するオペレーティングシステム、ネットワーク、またはユーティリティです。Version Manager では、アーカイブ操作の作成者として取得したユーザ ID が使用されます。

Version Manager のコマンドを使用すると、Version Manager 内で指定した各ログインソースからユーザ ID が取得されます。ユーザ ID を取得できない場合は、エラーメッセージが表示され、操作が終了します。有効なアクセスコントロールデータベースが存在しない場合、ユーザ ID の取得に成功したすべてのユーザがアーカイブにアクセスできます。

有効なログインソースは次のとおりです。

- ホスト ID ホストオペレーティングシステム。このソースは、UNIX や Windows 2000 などユーザ識別機能が備わっているシステム、または複数のネットワークが使用されている環境で使用します。このオプションのディレクティブは LogIn=HOST です。
- LDAP ID Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)。このソースを使用すると、LDAP サーバに対してユーザ ID とパスワードの認証が行われます。認証されたユーザ ID は、有効なアクセスコントロールデータベースに渡されます。パスワード（設定されている場合）はアクセスコントロールデータベースでは無視されます。このオプションにより使用されるディレクティブは LogIn=LDAP です。

LDAP はコマンドラインインターフェイス (CLI) からは使用できません。LDAP が最初のログインソースに指定されている場合は、CLI は次のログインソースを使用しようとします。ほかのログインソースが指定されていないければ、CLI コマンドは失敗します。

- [Login (ログイン)] ダイアログボックス Version Manager デスクトップクライアントのログインユーティリティ。このソースの場合、ユーザが Version Manager を使用するにはパスワードを入力する必要があります。パスワードによる保護を使用するには、アクセスコントロールデータベースを定義します。このログインソースは、デスクトップクライアントの操作のみ適用されます。このオプションのディレクティブは LogIn=VLOGIN です。
- Netware ID Novell NetWare (Windows のみ)。この場合、Windows 2000 や Windows XP ではなく、Novell NetWare サーバからユーザ ID が取得されます。このオプションのディレクティブは LogIn=NETWARE です。

- VCS ID ユーザの Serena ID。Version Manager は VCSID 環境変数の値からこれを取得します。このオプションのディレクティブは LogIn=VCSID です。ユーザによる、別のユーザとしてのログインや VCSID 環境変数の値の変更が可能となるため、ユーザ ID のソースとして VCSID を使用することは安全とは言えません。
- WNet IDMicrosoft Windows ネットワーク。Version Manager は Microsoft WNET API からユーザ ID を取得します。このオプションのディレクティブは LogIn=WNET です。

Version Manager を実行すると、ログインソースを指定した順序でユーザ ID が検索されます。したがって、ログインソースの順序を指定するときは、オペレーティングシステムとログインソースのセキュリティを考慮する必要があります。



注 VLOGIN または LDAP をログインソースとして設定した場合は、〔Login (ログイン)〕ダイアログボックスが表示されます。ここで【Cancel (キャンセル)】をクリックすると、ログイン操作がキャンセルされます。その他のログインソースは使用されず、プロジェクトデータベースまたプロジェクトにログインできません。

たとえば、LDAP サーバが存在しない環境で Windows と HP-UX を実行している場合、ログインソースとしては VCS ID、ホスト ID、Netware ID を使用できます。UNIX ユーザについては、ホスト ID ログインソースが使用されます。

UNIX ユーザの場合 : UNIX デスクトップクライアントと PCLI では、ログインソースとしてホスト ID、LDAP ID、〔Login (ログイン)〕ダイアログボックス、VCS ID のみを使用できます (〔Login (ログイン)〕ダイアログボックスの場合、PCLI ではダイアログボックスではなく、PCLI_ID 環境変数または 呔 d スイッチが使用されます)。UNIX CLI では、ホスト ID と VCS ID のみを使用できます。デフォルト値はホスト ID です。

デスクトップクライアントユーザの場合 : Version Manager は、ユーザ ID を取得すると、アクセスコントロールデータベースをチェックしてユーザ ID がそこに存在するかどうかを調べます。Version Manager を設定して、ユーザ ID が存在しない場合に、アクセスコントロールデータベース内にユーザ ID を自動的に作成し、ユーザに権限を割り当てることができます。

これは、アクセスコントロールデータベースを使用するかどうかをまだ決定していない場合に便利です。アクセスコントロールデータベース内にユーザ ID が自動的に作成されるように Version Manager を設定しておけば、後でアクセスコントロールを導入するとき、すでにユーザが定義されているので、セキュリティを設定するための時間を節約できます。また、権限が限定されたゲストアカウントも簡単に設定できます。

ユーザ ID では、大文字と小文字を区別するかどうかを設定できます。ただし、大文字と小文字の差以外はまったく同じである複数のユーザ ID を定義することはできません。大文字と小文字の区別を制御するディレクティブは CASE です。

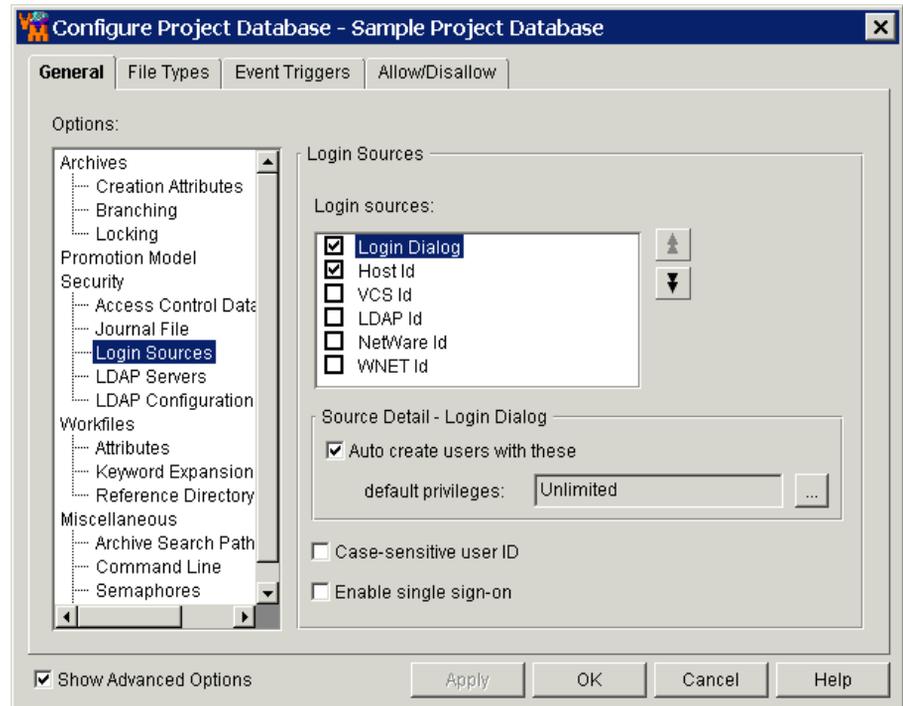
デスクトップクライアントの使用

ログインソースを設定する前に、設定対象のプロジェクトデータベースまたはプロジェクトをコンフィグレーションファイルに関連付ける必要があります。[File (ファイル)] – [Properties (プロパティ)] を選択して、選択したプロジェクトデータベースまたはプロジェクトとコンフィグレーションファイルを関連付けます。

デスクトップクライアントでこれらのオプションを設定するには、次の操作を行います。

- 1 ログインソースを定義するプロジェクトデータベースまたはプロジェクトを選択します。プロジェクトデータベースおよびプロジェクトの設定については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- 2 [Admin (管理)] – [Configure Project (詳細設定)] を選択して、[Configure Project (詳細設定)] ダイアログボックスを表示します。
- 3 <Show Advanced Options (高度な設定)> チェックボックスがまだ選択されていない場合は選択します。
- 4 <Security (セキュリティ)> の下の <Login Sources (ログインソース)> を選択します。<Login Sources (ログインソース)> グループボックスが右側に表示されます。各オプションについて表示される値は、プロジェクトデー

データベースまたはプロジェクトに関連付けたコンフィグレーションファイルで現在定義されている設定です。



5 使用するコンフィグレーションに適切なログインソースを選択します。

デフォルトでは、プロジェクトデータベースを作成したとき、マスターコンフィグレーションファイル内にホスト ID ログインソースが自動的に定義されます。

6 上下の矢印ボタンを使用して、ログインソースを適切な順序に並べ替えます。ここで定義した順序でユーザ ID が検索されます。

- 7 選択したログインソースを設定して、アクセスコントロールデータベース内にユーザ ID を自動的に作成するには、次の手順に従ってください。
 - a ログインソースを選択します。
 - b <Auto create users with these default privileges (以下の権限で自動的にユーザを作成する)> チェックボックスを選択します。このオプションは、プロジェクトデータベースおよびプロジェクトに適用されます。
 - c ユーザに割り当てるデフォルトの権限を指定します。権限の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

デフォルトでは、ホスト ID ログインソースにより、プロジェクトデータベースまたはプロジェクトのアクセスコントロールデータベース内にユーザが自動的に作成され、無制限の権限セットが割り当てられます。
- 8 ユーザ ID で大文字と小文字が区別されるようにするには <Case Sensitive User ID (ユーザ ID で大文字と小文字を区別)> チェックボックスを選択します。デスクトップクライアントのデフォルトでは、ユーザ ID の大文字と小文字は区別されません。
- 9 オプションの定義を終えたら【OK】をクリックするか、【Apply (適用)】をクリックして設定を保存し、ほかのオプションの定義を続けます。

コマンドラインインターフェイスの使用

コマンドラインインターフェイスおよびプロジェクトコマンドラインインターフェイス (PCLI) では、次のディレクティブでログインソースオプションを定義します。

- **LogIn**。有効な値は HOST、LDAP (CLI ではサポートされません)、NETWARE、VCSID、および WNET です。HOST はすべてのプラットフォームに対してデフォルトです。
- **Case**。デフォルトでは、ユーザ ID の大文字と小文字が区別されます。

これらのディレクティブの詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager コマンドラインリファレンスガイド』を参照してください。

プログラムファイルとプロジェクトデータの保護

ネットワーク権限によるアクセスの制限

この後のセクションでは、Version Manager 実行ファイル、プログラムファイル、およびプロジェクトデータファイルを含むディレクトリに対しての推奨される権限について説明します。特定のディレクトリについてのユーザの権限を制限することにより、これらの重要なファイルの不注意による削除や変更を防ぐことができます。

プロジェクトデータベースについて

「プロジェクトデータベース」は、一群のプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理されたファイルを階層化したものです。プロジェクトデータベースには、すべてのプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルを対象としたコンフィグレーション設定も格納されています。

オペレーティングシステムまたはファイルシステム上で、プロジェクトデータベースとして定義されたディレクトリには、プロジェクトファイル、pvcuser ディレクトリ、プロジェクトディレクトリ、lib ディレクトリ、および場合によっては archives ディレクトリと work ディレクトリを含むサブディレクトリとファイルが格納されます。archive ディレクトリと work ディレクトリのデフォルトの場所は、プロジェクトデータベースの作成時に変更できます。ただし、プロジェクトデータベースのデフォルト構造を変更しない場合は、プロジェクトデータベースは次のような構成になります。

```
project database¥
  \archives
  \lib
  \project.prj
  \pvcuser
  \work
```

これらのディレクトリとファイルは重要なので、保護する必要があります。これらの情報を保護する方法については、82 ページの『UNIX 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護』および 83 ページの『Windows 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護』を参照してください。

UNIX 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護

pvcs ユーザアカウントは、次の表に示すすべてのファイルとディレクトリを所有します。ファイルの場所については、66 ページの『デフォルトのインストールディレクトリ構造』を参照してください。

ディレクトリとファイル	所有者の権限	Setuid グループの権限	その他の権限	nonsetuid グループの権限
プログラムファイルとセキュリティファイル /usr/serena/vm/<os>/bin	すべて	読み込み、実行	読み込み、実行	読み込み、実行
プロジェクトデータベースディレクトリ	すべて	読み込み、実行	読み込み、実行	すべて
archives ディレクトリ (プロジェクトデータベースディレクトリ以外の場所に定義されている場合)	すべて	読み込み、実行	読み込み、実行	すべて
work ディレクトリ (プロジェクトデータベースディレクトリ以外の場所に定義されている場合)	すべて	読み込み、書き込み、実行	読み込み、実行	すべて
プロジェクトデータベースコンフィグレーションファイル (マスターコンフィグレーションファイル。通常は archives ディレクトリのルートに格納)	すべて	読み込み	読み込み	すべて
テンプレート (コンフィグレーションおよびアクセスコントロールデータベース) ファイル /usr/serena/vm/common/pvcsprop/pvcs/vm	すべて	読み込み、実行	読み込み、実行	すべて
管理用ファイル /usr/serena/vm/<os>/bin/admin	読み込み、書き込み	読み込み、書き込み	なし	なし

セキュリティの定義の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

- 特記事項**
- nonsetuid モードで Version Manager を実行する場合は、プロジェクトデータベースとプロジェクトデータベースのコンフィグレーションファイルに対して、グループの書き込み権限が必要です。

- ユーザ *pvcs* は、すべての実行ファイルの所有者になります。setuid モードで実行する場合は、Version Manager の bin ディレクトリに配置されているすべての実行ファイルに *setuid* ビットが設定されている必要があります。



重要！ 以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。異なるユーザ ID でインストールすると、setuid モードで使用されている既存のアーカイブの権限と矛盾する可能性があります。

ユーザ **pvcs** として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ **pvcsgrp** のメンバにすることをお勧めします。

Windows 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護

Version Manager ファイルの配置場所の詳細については、53 ページの『[デフォルトのインストールディレクトリ構造](#)』を参照してください。



重要！ ファイルアロケーションテーブル (FAT) システムを使用するドライブ上の共有ディレクトリに Version Manager をインストールしている場合は、その共有ディレクトリ下のすべてのファイルとフォルダにも、その共有ディレクトリと同じ権限が割り当てられます。

ディレクトリとファイル	デフォルトの場所	ユーザの権限	管理者の権限
プログラムファイルとセキュリティファイル	Serena\vm\Win32\bin	読み込み、実行	すべて
管理用ファイル	Serena\vm\Win32\bin\admin	なし	すべて
ワークステーションのセットアップ	Serena\vm\workinst	読み込み、実行	すべて
プロジェクトデータベースディレクトリ	プロジェクトデータベースの配置場所は、プロジェクト表示部のプロジェクトデータベース名の後に表示されます	ディレクトリ作成、読み込み、書き込み	すべて
archives ディレクトリ	プロジェクトデータベースディレクトリ内	ディレクトリ作成、読み込み、書き込み、削除	すべて

ディレクトリとファイル	デフォルトの場所	ユーザの権限	管理者の権限
work ディレクトリ	プロジェクトデータベースディレクトリ内	ディレクトリ作成、読み込み、書き込み	すべて
プロジェクトデータベース コンフィグレーション ファイル	archives ディレクトリ内	読み込み	すべて
テンプレートファイル (コンフィグレーションおよびアクセスコントロールデータベース)	Serena\vm\common\pvcsprop\pvcs\vm	読み込み、実行	すべて

Version Manager に必要な UNIX 環境の設定

Version Manager をインストールした後、UNIX 管理者は、Version Manager を使用する前に UNIX 環境を設定する必要があります。

UNIX の環境変数を設定するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager のコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用するには、インストール時に生成された Version Manager プロファイルファイルの 1 つをソースとして使用する必要があります。プロファイルファイルを使用すると、現在のシェルの環境変数が追加または変更され、CLI が使用可能になります。

使用可能なプロファイルは、vmprofile と vmcshrc の 2 つです。どちらのプロファイルを使用するかは、実行しているシェルによって異なります。これらのファイルは、オペレーティングシステム名が付いたディレクトリの下にある bin ディレクトリに配置されます (<VM_Install_Directory>/vm/<OS>/bin)。

シェル	使用する構文
C	source <VM_Install_Directory>/vm/<os>/bin/vmcshrc
Bash、Bourne、Korn	. <VM_Install_Directory>/vm/<os>/bin/vmprofile 注：これらのシェルではピリオド（.）が source コマンドとして機能します。したがって、先頭にはピリオドと空白が必要です。

プロファイルをソースとして使用する設定は、ログインしなおすと無効になります。そのため、スタートアップスクリプト（.cshrc または .profile）に source コマンドを追加することをお勧めします。これによって、CLI を使用するシェルへログインするたびに、source コマンドを手動で実行する必要がなくなります。

- 2 デスクトップクライアントを使用している場合は、次の手順に従って環境を設定します。
 - a DISPLAY 環境変数に、Version Manager の表示に使用するシステムのホスト名または IP アドレスが設定されていることを確認します。自動的に設定されない場合は、次のように指定します。

シェル	使用する構文
C	setenv DISPLAY <i>host_name</i> :0.0 または setenv DISPLAY <i>ip_address</i> :0.0
Korn	export DISPLAY= <i>host_name</i> :0.0 または export DISPLAY= <i>ip_address</i> :0.0
Bourne	DISPLAY= <i>host_name</i> :0.0 または DISPLAY= <i>ip_address</i> :0.0 export DISPLAY

- b** 各ユーザのスタートアップスクリプト (*.cshrc* または *.profile*) の PATH 環境変数を次のように編集します。

使用する UNIX システム	実行する操作
Solaris	OpenWindows の bin ディレクトリを PATH に追加します (例: \$PATH:/usr/openwin/bin)。
その他	X11R6 bin ディレクトリにパスを追加します (例: \$PATH:/usr/bin/X11)。

- c Solaris のみ** : 環境変数 OPENWINHOME、LD_LIBRARY_PATH、および XFILESEARCHPATH を次のように設定します。

シェル	使用する構文
C	<pre>setenv OPENWINHOME <i>openwindows_directory</i> setenv LD_LIBRARY_PATH \$OPENWINHOME/ lib:\$LD_LIBRARY_PATH setenv XFILESEARCHPATH \$OPENWINHOME/lib/%T/ %N/%S</pre>
Korn または Bourne	<pre>OPENWINHOME=<i>openwindows_directory</i> export OPENWINHOME LD_LIBRARY_PATH=\$OPENWINHOME/lib export LD_LIBRARY_PATH XFILESEARCHPATH=\$OPENWINHOME/lib/%T/%N/%S export XFILESEARCHPATH</pre>

ここで、*openwindows_directory* は、OpenWindows のインストールディレクトリです。

- d** X Windows コンソールを使用して Version Manager を表示する場合は、次の手順に従います。
- `setuid` モードで、Version Manager を実行しているシステムにコンソールが物理的に接続されている場合は、次のコマンドを実行します。

xhost +local:

- 別の UNIX システムで実行している場合は、次のコマンドを実行します。

xhost +

この場合、コンソールに物理的に接続されている UNIX システムからコマンドを実行します。

これは、Version Manager が画面にアクセスできるようにするために必要な手順です。この手順を行わないと、X Windows サブシステムによって、サーバが接続を拒否したことを知らせるメッセージが表示されます。以下に例を示します。

```
$ pvcsvmux
$ Xlib: connection to ":0.0" refused by server
Xlib: Client is not authorized to connect to Server
Exception in thread "main" java.lang.InternalError: Can't connect to X11
window server using ':0' as the value of the DISPLAY variable.
```

UNIX での Adobe Acrobat Reader および HTML ブラウザの設定

HTML ブラウザを使用してオンラインヘルプを参照したり、レポートを表示したりするには、Version Manager で HTML ブラウザのパスを設定する必要があります。詳細は、[88 ページの『UNIX 上でのブラウザの設定』](#)を参照してください。



注 Linux ユーザおよび UNIX ユーザは、Version Manager のヘルプシステムを使用できるように HTML ブラウザを設定する必要があります。

Serena ChangeMan Version Manager オンラインマニュアル (PDF) を表示するには、Serena ChangeMan Professional スイート CD に収められている Adobe® Acrobat® Reader を使用します。Serena ChangeMan Version Manager のインストール時に、Serena ChangeMan Version Manager オンラインマニュアルをインストールするかどうかを選択できます。

Adobe Acrobat Reader を使用するには、Version Manager でその場所を指定する必要があります。詳細については、[88 ページの『UNIX での Adobe Acrobat Reader の設定』](#)を参照してください。Adobe Acrobat Reader を設定した後は、Version Manager で [Help (ヘルプ)] - [Online Manuals (オンラインマニュアル)] を選択すると Acrobat Reader が自動的に起動します。

UNIX での Adobe Acrobat Reader の設定

オンラインマニュアルを参照するには、最初に Version Manager で Adobe Acrobat Reader の場所を指定する必要があります。Adobe Acrobat Reader は、Serena ChangeMan Professional スイート CD に収められています。

オンラインマニュアルに備わっている全文検索用インデックスを使用するには、マニュアルを最初に開いたとき、Adobe Acrobat Reader でインデックスファイルを選択する必要があります。

Adobe Acrobat Reader の場所の定義

Adobe Acrobat Reader の場所を定義するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager を起動します。
- 2 [View (表示)] - [Options (オプション)] を選択します。
- 3 [Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。
- 4 <Adobe Acrobat Reader Location (Adobe Acrobat Reader の場所)> フィールドに、Adobe Acrobat Reader 実行ファイルの場所を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

Adobe Acrobat Reader の場所が保存され、Version Manager のオンラインマニュアルを表示するとき、Adobe Acrobat Reader が自動的に起動します。Version Manager からオンラインマニュアルを表示するには、[Help (ヘルプ)] - [Online Manuals (オンラインマニュアル)] を選択します。

UNIX 上でのブラウザの設定

HTML ブラウザを使用して Version Manager のヘルプファイルを参照したり、レポートを表示したりするには、Version Manager でブラウザの場所を指定する必要があります。

ブラウザの場所を指定するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager を起動します。
- 2 [View (表示)] - [Options (オプション)] を選択します。

- 3 [Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。
- 4 <Browser Location (ブラウザの場所)> フィールドに、使用するブラウザのパスを入力します (例: /usr/local/netscape/netscape)。
- 5 【OK】 をクリックします。
レポートを生成すると、指定されたブラウザが自動的に起動し、レポートが表示されます。Version Manager オンラインヘルプを表示するときにも、ブラウザが自動的に起動します。

次のステップ

Version Manager および Version Manager File Server の設定方法については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。さらに、セキュリティ、イベントトリガ、自動ブランチの定義方法などについては、このマニュアルの説明も参照してください。

パート 3

Version Manager Web サーバのインストール

『パート 3 : Version Manager Web サーバのインストール』は、以下の章で構成されています。

Version Manager Web サーバの概要	95
Windows への Web サーバのインストール	103
UNIX への Web サーバのインストール	111
Version Manager プロジェクトデータベースの作成	117
Web サーバサブレットの設定	123
Web サーバのインストールと実行	139
Version Manager Web サーバの実行	147
セキュリティの管理	151
パフォーマンスの管理	155
Version Manager Web サーバのアンインストール	165

チェックリスト

Serena ChangeMan Version Manager Web サーバをインストール、セットアップ、および設定するには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバの概要を確認する (96 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows : Version Manager Web サーバをインストールしてセットアップする (105 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : Version Manager Web サーバをインストールしてセットアップする (113 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : 既存の NFS マップファイルを使用する (116 ページ)
<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバプロジェクトデータベースの概要を確認する (118 ページ)
<input type="checkbox"/>	プロジェクトデータベースを設定し、ユーザと権限を指定する (120 ページ)
<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバサーブレットのコンフィグレーション設定オプションを確認する (124 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows : サーブレットを設定する (128 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : サーブレットを設定する (132 ページ)
<input type="checkbox"/>	サーブレットにアクセスする (137 ページ)
<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバで使用する Web サーバソフトウェアをインストールする (140 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバソフトウェアを設定する (141 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバのセキュリティを設定する (141 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバの起動方法と停止方法を確認する (142 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows : Version Manager Web サーバの起動方法と停止方法を確認する (148 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : Version Manager Web サーバの起動方法と停止方法を確認する (149 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバに接続する (150 ページ)

<input type="checkbox"/>	セキュリティ：Version Manager Web サーバでのアクセスコントロール方法を確認する（ 152 ページ ）
<input type="checkbox"/>	セキュリティ：Version Manager Web サーバでの SSL（Secure Sockets Layer）の使用方法を確認する（ 152 ページ ）
<input type="checkbox"/>	セキュリティ：Version Manager Web サーバでのファイアウォールの使用方法を確認する（ 153 ページ ）
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：システムの考慮事項を確認する（ 156 ページ ）
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：ネットワーク技術に関する考慮事項を確認する（ 156 ページ ）
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：Version Manager Web サーバデーモンの使用方法を確認する（ 157 ページ ）
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：Web サーバに関する考慮事項を確認する（ 160 ページ ）
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：推奨事項を確認する（ 160 ページ ）
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：パフォーマンスの最適化方法を確認する（ 161 ページ ）
<input type="checkbox"/>	Windows：Version Manager Web サーバのアンインストール方法を確認する（ 166 ページ ）
<input type="checkbox"/>	UNIX：Version Manager Web サーバのアンインストール方法を確認する（ 169 ページ ）

第 6 章

Version Manager Web サーバの概要

Version Manager Web サーバについて	96
インストールの前に	100
インストール後の作業	101

Version Manager Web サーバについて

Version Manager Web サーバは、インターネットまたはイントラネットを介して Version Manager のアーカイブへ安全にアクセスするための Version Manager コンポーネントです。

インターネット機能の一部として、Version Manager Web サーバには次のような独自の機能が備わっています。

- **強化されたアーカイブセキュリティ** : Version Manager のクライアント / サーバアーキテクチャには 3 つのアーカイブセキュリティ層があります。その 3 つとは、ユーザアクセス権の割り当て、クライアント / サーバの保護、パブリックネットワークアクセスを保護する標準規格準拠の暗号化です。Version Manager のアーカイブはこのようなセキュリティ層によって保護されているので、誤って更新されたり、削除される心配がありません。
- **パフォーマンスの向上** : アーカイブをサーバ側で処理するので、ネットワークラフィックを最小限に抑え、クライアントへ送信されるデータ量を減らすことができます。
- **簡単に操作できるブラウザベースのシンクライアントインターフェイス** : Version Manager Web クライアントには、Version Manager を Web ブラウザから操作できる使いやすいインターフェイスが備わっています。リモートで作業する場合、このシンクライアントを使用して、中央サーバに保存された Version Manager のアーカイブにファイルをチェックインしたり、アーカイブからファイルをチェックアウトすることができます。

Version Manager Web サーバのコンポーネント

Version Manager Web サーバコンポーネント、Web サーバ、および Version Manager Web クライアントコンポーネントのサービスを組み合わせると、インターネットまたはイントラネット経由でアーカイブにアクセスして、開発プロセスをリモートから管理できます。これらのツールについては、この後の説明を参照してください。

Version Manager Web サーバ

Version Manager Web サーバは、Version Manager のサービスをリモートから利用できるようにする Serena ChangeMan Professional アプリケーションです。Version Manager Web サーバと Version Manager Web クライアントを使用するには、サポートされている Web サーバをインストールし、1 つ以上のサブレットを設定する必要があります。

Version Manager Web サーバはクライアント / サーバアーキテクチャを採用しているため、リモートのアーカイブへ安全にアクセスすることができます。さらに、Version Manager Web クライアントはネットワークトラフィックを最小限に抑え、リモートクライアントへデータを高速で送信できるので、Version Manager デスクトップアプリケーションのパフォーマンスが向上します。

Web サーバ

Version Manager Web サーバを使用するには、まず、サポートされている Web サーバをインストールする必要があります。Version Manager Web サーバは以下の Web サーバ構成と互換性があります。

Web サーバ	オペレーティングシステム
Microsoft Internet Information Service 5	Windows 2000
Microsoft Internet Information Service 6	Windows 2003
Apache 1.3.x 注：Apache サーバを使用するには動的共有オブジェクトが必要	Solaris、HP-UX、AIX、Linux
Apache 2.0.43 以降 注：Apache サーバを使用するには動的共有オブジェクトが必要	Solaris、HP-UX、Linux
iPlanet 6.0 SP1	Solaris、HP-UX、AIX
Java System Web Server 6.1 SP1	Solaris、HP-UX



注 Web サーバの購入については、Web サーバベンダーの Web サイトを参照してください。

上記以外の市販の Web サーバを Version Manager Web サーバとともに使用することも可能ですが、Version Manager Web サーバとの連携動作が確認されている上記のサーバを使用することをお勧めします。

Version Manager Web クライアント

Version Manager Web クライアントは、インターネットまたはイントラネット経由で Version Manager Web サーバがリモートアーカイブに安全にアクセスするためのブラウザベースのインターフェイスです。ブラウザインターフェイスにより、Version Manager Web クライアントにより必要とされるディスク領域が最小限に抑えられ、同時に Version Manager のデスクトップクライアントまたはコマンドラインインターフェイスから使用できる使用頻度の高いタスクが提供されます。これらのタスクには、リビジョンのチェックインとアーカイブからのチェックアウト、リビジョンのロック、バージョンラベルの作成などがあります。

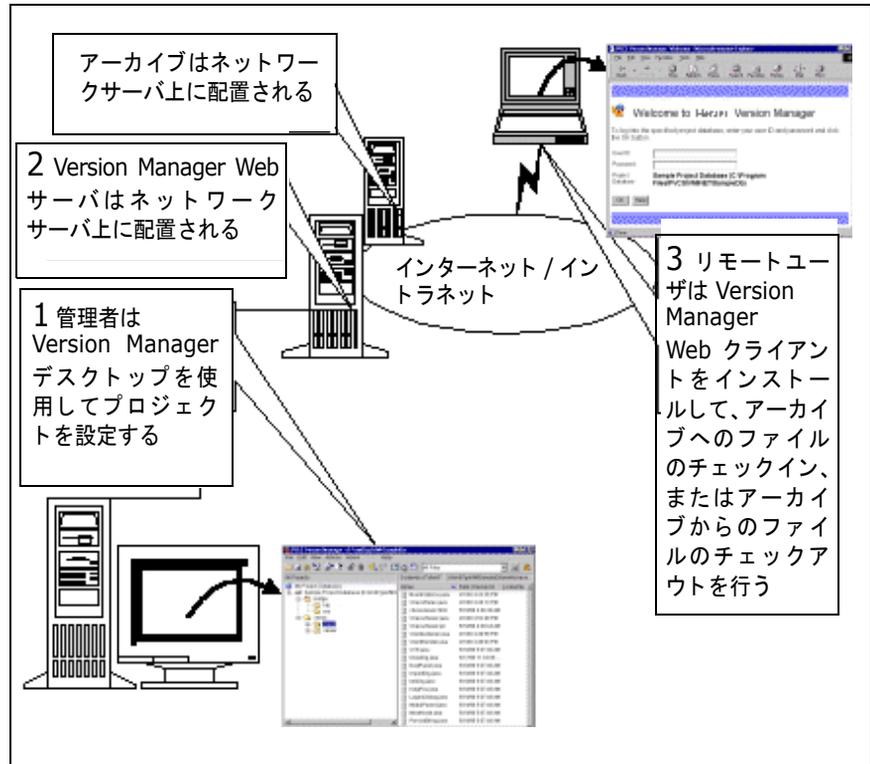


注 Version Manager Web クライアントの詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager Web クライアントユーザガイド』および Version Manager Web クライアントのオンラインヘルプを参照してください。Version Manager デスクトップクライアントの詳細については、製品 CD-ROM に収められている Version Manager のマニュアルを参照してください。

Version Manager Web クライアントを使用して、プロジェクトデータベースの設定などの管理作業を行うことはできません。セキュリティ上の問題から、これらの作業を実行するには、Version Manager デスクトップクライアントまたはコマンドラインインターフェイスを使用する必要があります。詳細については、[118 ページの『プロジェクトデータベースの操作』](#)を参照してください。

Version Manager コンポーネントの統合

Version Manager のインターネット / イン트라ネット機能を構成するサービスとツールは、次の図に示すように、各層で統合されています。詳細については、図に記載されている各番号のセクションを参照してください。



1. 管理者による設定作業について

管理者は Version Manager を使用して、新しいプロジェクトデータベースやプロジェクトを作成し、既存のプロジェクトデータベースやプロジェクトを設定します。これらのプロジェクトとプロジェクトデータベースは、Version Manager デスクトップクライアントまたは Version Manager コマンドラインインターフェイスから操作することができます。プロジェクト管理は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して行います。Version Manager Web クライアントでは実行できません。

2. サーバのセットアップについて

Web サーバを実行するシステムに Version Manager Web サーバをインストールします。プロジェクトファイルの配置については、[156 ページの『ネットワークポロジの考慮事項』](#)を参照してください。

3. クライアントのセットアップについて

Version Manager Web クライアントはシンクライアントコンポーネントであり、セットアップと管理を簡単に行うことができます。ユーザは、Version Manager Web サーバへ最初に接続したとき、Version Manager Web クライアントアプレットコンポーネントをダウンロードして、インストールします。このアプレットコンポーネントをインストールした後は、管理作業や保守作業を一切行う必要がありません。

リモートユーザは Version Manager Web クライアントをインストールして、アーカイブへのファイルのチェックイン、またはアーカイブからのファイルのチェックアウトを行う Version Manager デスクトップクライアントまたはコマンドラインインターフェイスを使用して、これらのアーカイブを管理します。詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager Web クライアントユーザガイド』を参照してください。

インストールの前に

Version Manager Web クライアントまたは Web サーバをインストールする前に、次の事項を確認してください。

readme ファイルの確認

Version Manager Web サーバをインストールする前に、Version Manager の readme ファイル (readmevm.html) で最新情報を確認してください。このファイルには、Version Manager のほかのマニュアルには含まれていない最新情報が記載されています。

必要なシステム構成

Version Manager Web サーバは、Windows および UNIX オペレーティングシステムでサポートされています。サポート対象のプラットフォーム、バージョン情報、および必要なディスク容量については、readme ファイルを参照してください。

インストール後の作業

Version Manager Web サーバに接続するには、Version Manager Web クライアントアプレットをダウンロードして、インストールする必要があります。自動インストール機能を使用してアプレットをインストールする方法については、『Serena ChangeMan Version Manager Web クライアントユーザガイド』を参照してください。

Web ブラウザの設定

この後のセクションでは、UNIX での Netscape Communicator の設定方法、および Windows Microsoft Internet Explorer の設定方法について説明します。

UNIX での Netscape Communicator の使用

自動インストール機能を使用して、UNIX 上にクライアントアプレットをインストールできます。この機能を実行するには、サポートされているバージョンの UNIX プラットフォーム用 Netscape Communicator を使用する必要があります。Netscape インストールファイルのオーナーまたは root としてログインして Netscape を実行した場合に、自動インストール機能を使用できます。詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager Web クライアントユーザガイド』を参照してください。

Microsoft Internet Explorer の設定

- 1 [ツール] メニューの [インターネットオプション] を選択します。
- 2 [全般] タブで【設定】をクリックします。
- 3 <保存しているページの新しいバージョンの確認> で、<ページを表示するごとに確認する> を選択します。
- 4 最新の JVM パッチを使用していることを確認してください。

第 7 章

Windows への Web サーバのインストール

概要	104
Windows 環境でのセットアッププログラムの実行	105

概要



注 Serena ChangeMan Version Manager Web サーバをインストールする前に、readme ファイルに記載されているシステム要件を確認してください。

Windows 環境で Version Manager Web サーバをセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 Web サーバをインストールします。** Version Manager Web サーバをインストールするには、サポートされている Web サーバをインストールする必要があります。140 ページの『Web サーバソフトウェアのインストール』を参照してください。
- 2 Version Manager Web サーバをインストールします。** Web サーバシステムに Version Manager Web サーバコンポーネントをインストールするには、インストールプログラムを実行します。105 ページの『Windows 環境でのセットアッププログラムの実行』を参照してください。
- 3 Version Manager のプロジェクトデータベースを作成します。** 既存のプロジェクトデータベースがない場合は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、プロジェクトデータベースの作成と設定を行います。第9章、120 ページの『プロジェクトデータベースの設定』を参照してください。
- 4 Version Manager Web サーバサーブレットを設定します。** Version Manager の各プロジェクトデータベースについて、Version Manager Web サーブレットを設定します。第10章、128 ページの『Windows でのサーブレットの設定』を参照してください。
- 5 Version Manager Web クライアントと Web サーバを起動します。** Version Manager Web クライアントを起動するには、100 ページの『3. クライアントのセットアップについて』の手順に従います。Web サーバを起動するには、第12章、148 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』の手順に従います。
- 6 Version Manager Web クライアントコンポーネントをインストールします。** Version Manager Web クライアントコンポーネントをインストールする必要があります。『Serena ChangeMan Version Manager Web クライアントユーザガイド』を参照してください。

上記のインストール手順に加え、必要に応じて次の作業を行います。

- **セキュリティを管理します。** Web サーバおよびネットワークのセキュリティ機能を使って動作するように Version Manager Web サーバを設定できます。第 13 章、152 ページの『アクセスコントロールの使用』を参照してください。
- **パフォーマンスを管理します。** Version Manager Web サーバを環境に合わせてセットアップし、ネットワーク、システム、Web サーバ、およびプロジェクトの設定に基づいてパフォーマンスを最適化します。第 14 章、155 ページの『パフォーマンスの管理』を参照してください。

Windows 環境でのセットアッププログラムの実行

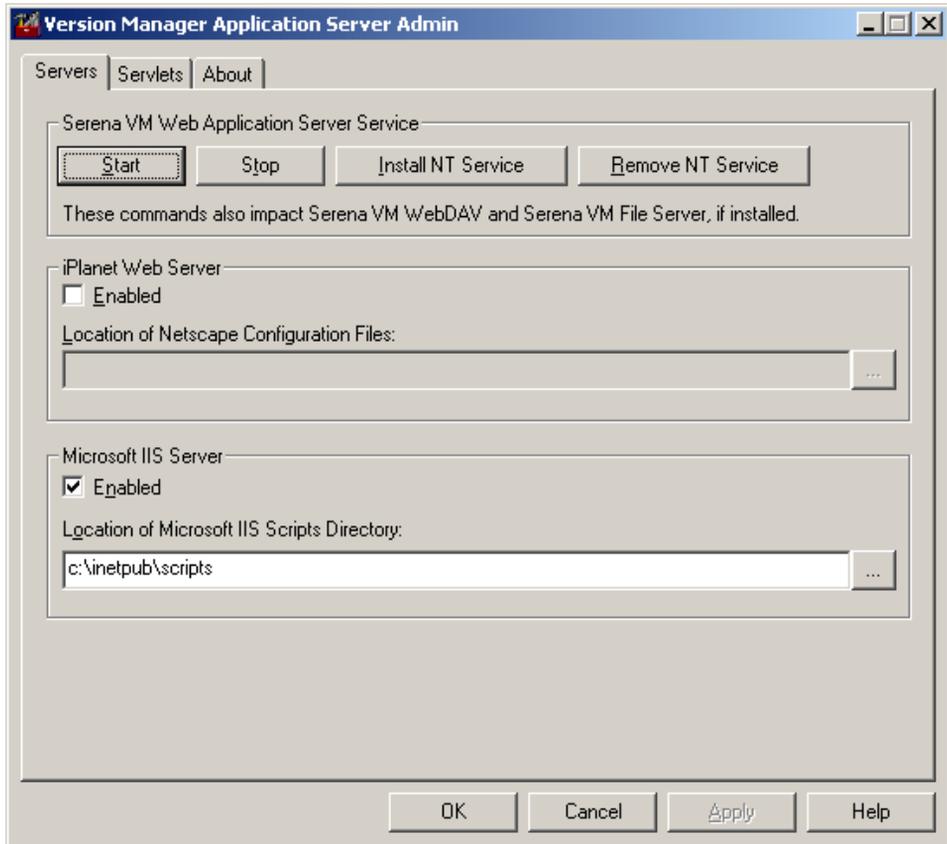
Version Manager Web サーバを Windows にインストールするには、セットアッププログラムを実行し、画面の指示に従って操作します。セットアッププログラムによって、Version Manager Application Server Admin が自動的に起動します。

Windows に Version Manager Web サーバをインストールするには

- 1 アンチウイルスユーティリティ、およびシステム上で実行されている他のすべてのアプリケーションを終了します。
- 2 Web サーバをシャットダウンします。Web サーバのマニュアルを参照してください。
- 3 Version Manager のインストール手順 1 ~ 9 を実行します。53 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 4 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして <Web Server (Web サーバ)> オプションを選択します。
- 5 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして <Web Server (Web サーバ)> オプションを選択します。
- 6 画面の指示に従って、インストールを完了します。

システム上への Version Manager Web サーバのインストールが完了すると、Version Manager Application Server Admin が自動的に起動します。

Version Manager Application Server Admin の [Servers (サーバ)] タブが表示されます。



- 7 iPlanet Web Server がシステムにインストールされており、この Web サーバが自動検出された場合は、関連情報が自動的に入力されます。

それ以外の場合は、このダイアログボックスの〈iPlanet Web Server〉セクションで次の操作を行います。

- a 〈Enabled (有効)〉チェックボックスを選択します。
- b 【Browse (...)】 ボタンをクリックします。
- c %config ディレクトリにある obj.conf ファイルの格納場所へ移動します。このディレクトリは、次の場所にあります。
`<iPlanet_Install_Dir>\https-<server_name>`

- 8 システムに Microsoft Internet Information Service がインストールされており、Microsoft Internet Information Service が自動検出された場合は、関連情報が自動的に入力されます。それ以外の場合は、このダイアログボックスの〈Microsoft IIS Server〉セクションで次の作業を行います。
 - a 〈Enabled (有効)〉チェックボックスを選択します。
 - b 【Browse (...)] ボタンをクリックします。
 - c スクリプトディレクトリの場所に移動します。
- 9 (省略可能) 有効なサブレットを、Version Manager Web サーバへ仮想的に常時アクセスできるサービスとして実行するには、【Install NT Service (NT サービスに登録)】をクリックします。その後、NT サービスとしてのサブレットの実行を停止するには、【Remove NT Service (NT サービスから削除)】をクリックします。



注 【Install NT Service (NT サービスに登録)】または【Remove NT Service (NT サービスから削除)】のどちらをクリックしても、現在実行している Version Manager Web サーバには影響しません。この操作は、マシンを次に起動したとき有効になります。

- 10 【OK】をクリックして設定を適用し、Version Manager Application Server Admin を閉じます。
- 11 142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』に記載されている手順に従って、Web サーバを起動します。
- 12 Version Manager Web サーバをデフォルトのサンプルデータベースプロジェクトで実行する場合は、第 12 章、147 ページに進みます。それ以外の場合は、第 9 章、117 ページに進みます。

仮想 Web ディレクトリの設定

Microsoft Internet Information Service の場合、Version Manager Web サーバのインストール時に、仮想 Web ディレクトリと ISAPI フィルタが自動的に設定されます。

インストール時に自動設定される仮想 Web ディレクトリと ISAPI フィルタを確認するには、以下の説明に従って、これらを手動で設定します。

仮想 Web ディレクトリと ISAPI フィルタを手動で設定するには、次の操作を行います。

- 1 Windows 2000 で、IIS 5 の Microsoft 管理コンソールを起動します。
[スタート] – [設定] – [コントロールパネル] – [管理ツール]
– [コンピュータの管理] – [サービスとアプリケーション] – [インターネットインフォメーションサービス] を順に選択します。

Microsoft 管理コンソールが表示されます。
- 2 <Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、<Properties (プロパティ)> を選択します。
- 3 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択します。
- 4 【Add (追加)】をクリックします。[Filter Properties (フィルタのプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 <Filter Name (フィルタ名)> フィールドに、jakarta と入力します。
- 6 <VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\
bin\win32 ディレクトリに移動し、「isapi_redirect.dll」ファイルを選択します。
- 7 【OK】をクリックして、Microsoft 管理コンソールに戻ります。
- 8 vminet_temp 仮想 Web ディレクトリを作成します。
 - a <Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b エイリアスとして、vminet_temp と入力します。
 - c 【Next (次へ)】をクリックします。
 - d 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。
<VM_Install_Dir>\vm\inet\temp\html
 - e 【Next (次へ)】をクリックします。
 - f 【Finish (完了)】をクリックします。

- 9** vminet_images 仮想ディレクトリを作成します。
- a** 〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b** エイリアスとして、vminet_images と入力します。
 - c** 【Next (次へ)】をクリックします。
 - d** 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。

```
<VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\webapps\  
vminet\vminet_images
```
 - e** 【Next (次へ)】をクリックします。
 - f** 【Finish (完了)】をクリックします。
- 10** vminet_books 仮想ディレクトリを作成します。
- a** 〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b** エイリアスとして、vminet_books と入力します。
 - c** 【Next (次へ)】をクリックします。
 - d** 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。

```
<VM_Install_Dir>\books\vm\vmbooks
```
 - e** 【Next (次へ)】をクリックします。
 - f** 【Finish (完了)】をクリックします。
- 11** jakarta 仮想ディレクトリを作成します。
- a** 〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b** エイリアスとして、jakarta と入力します。
 - c** 【Next (次へ)】をクリックします。
 - d** 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。

```
<VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\  
bin\win32
```
 - e** スクリプトおよび実行ファイルの実行アクセス権を設定します。
 - f** 【Next (次へ)】をクリックします。

g 【Finish (完了)】をクリックします。



注 Windows のフォルダオプションで、隠しファイルとシステムファイルを表示しないように設定している場合は、この手順に含まれるファイルを参照および選択することができません。Windows エクスプローラで、フォルダが、すべてのファイルを表示するように設定されていることを確認してください。

- 12** Microsoft 管理コンソールを終了します。
- 13** (省略可能) 有効なサブレットを、Version Manager Web サーバへ仮想的に常時アクセスできるサービスとして実行するには、【Install NT Service (NT サービスに登録)】をクリックします。その後、NT サービスとしてのサブレットの実行を停止するには、【Remove NT Service (NT サービスから削除)】をクリックします。



注 【Install NT Service (NT サービスに登録)】または【Remove NT Service (NT サービスから削除)】のどちらをクリックしても、現在実行している Version Manager Web サーバには影響しません。この操作は、Version Manager Web サーバを次に起動したとき有効になります。

- 14** 【OK】をクリックして設定を適用し、Version Manager Application Server Admin を閉じます。
- 15** 142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』に記載されている手順に従って、Web サーバを起動します。
- 16** Version Manager Web サーバをデフォルトのサンプルデータベースプロジェクトで実行する場合は、第 12 章、147 ページに進みます。それ以外の場合は、第 9 章、117 ページに進みます。

第 8 章

UNIX への Web サーバのインストール

目次

UNIX への Version Manager Web サーバのインストールの概要	112
UNIX への Version Manager Web サーバのインストール	113
既存の「NFSMAP」ファイルの使用	116

UNIX への Version Manager Web サーバのインストールの概要



注 Serena ChangeMan Version Manager Web サーバをインストールする前に、readme ファイルに記載されているシステム要件を確認してください。

UNIX 環境で Version Manager Web サーバをセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 Web サーバをインストールします。** Version Manager Web サーバをインストールするには、サポートされている Web サーバをインストールする必要があります。140 ページの『Web サーバソフトウェアのインストール』を参照してください。
- 2 Version Manager Web サーバをインストールします。** Web サーバシステムに Version Manager Web サーバをインストールするには、インストールプログラムを実行します。113 ページの『UNIX への Version Manager Web サーバのインストール』を参照してください。
- 3 Version Manager のプロジェクトデータベースを作成します。** 既存のプロジェクトデータベースがない場合は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、プロジェクトデータベースの作成と設定を行います。第9章、117 ページを参照してください。
- 4 Version Manager Web サーバサーブレットを設定します。** Version Manager の各プロジェクトデータベースについて、Version Manager Web サーバサーブレットを設定します。第10章、132 ページの『UNIX での Version Manager Web サーバサーブレットの設定』を参照してください。
- 5 Version Manager Web クライアントコンポーネントをインストールします。** Web ブラウザをインストールするたびに、Version Manager Web クライアントコンポーネントをインストールする必要があります。101 ページの『UNIX での Netscape Communicator の使用』を参照してください。

上記のインストール手順に加え、必要に応じて、次の作業を行うこともできます。

- **ライセンスを管理します。** Version Manager Web クライアントでは、ライセンス情報の表示、ライセンスの通知設定、評価版ライセンスのアップグレードなどを実行できます。第 2 章、27 ページを参照してください。
- **セキュリティを管理します。** Web サーバおよびネットワークのセキュリティ機能を使って動作するように Version Manager Web サーバを設定できます。第 13 章、151 ページを参照してください。
- **パフォーマンスを管理します。** Version Manager Web サーバを環境に合わせてセットアップし、ネットワーク、システム、Web サーバ、およびプロジェクトの設定に基づいてパフォーマンスを最適化します。第 14 章、155 ページの『パフォーマンスの管理』を参照してください。

UNIX への Version Manager Web サーバのインストール

Version Manager デスクトップクライアントと Version Manager Web サーバの両方を使用するための権限をユーザに与えるには、次のガイドラインに従います。

- Version Manager を setuid モードで実行する場合は、権限を保持するため、同じユーザ ID を使用して Version Manager Web サーバをインストールしてください (Version Manager Web サーバは setuid モードで実行できません)。
- Version Manager を setuid モードで実行しない場合は、Version Manager Web サーバのグループ ID が Version Manager ユーザのグループ ID と同じであることを確認してください。
- Version Manager Web サーバをルートとしてインストールしないでください。

以下の Web サーバのガイドラインに従ってください。

- サポートされている Web サーバがインストールされていることを確認してください。
- Web サーバをインストールするディレクトリを確認します。たとえば、Web サーバが iPlanet で、/opt/iplanet にインストールされている場合、これが Web サーバのルートディレクトリになります。Web サーバのルートディレクトリがわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- 製品マニュアルの説明に従って、Web サーバを設定します。
- IPlanet の場合、Version Manager Web サーバのインストール時に使用した Version Manager Web サーバユーザ ID に、Web サーバの設定ディレクトリと次の場所にある obj.conf ファイルの読み取り権限があることを確認してください。

`<iPlanet_Install_Dir_>/https-<server_name>/config`

`<iPlanet_Install_Dir_>` は Web サーバがインストールされているディレクトリ、`<server_name>` は https サーバの名前です。

その他のガイドラインは以下のとおりです。

- ほかの Serena Professional 製品をインストールする予定がある場合は、インストールバスの最後を Serena とし、これをすべての Serena 製品のインストールルートとして使用します。
- Version Manager Web サーバのライセンス版をインストールするには、指示に従って License Server マシン名を入力します。30 日評価版をインストールする場合は、License Server マシン名を入力せず、空白のままにしておきます。

UNIX に Version Manager Web サーバをインストールするには、次の操作を行います。

- 1 iPlanet を使用している場合は Web サーバを終了します。Administration Server はそのまま実行しておきます。



注 Web サーバの終了の詳細については、Web サーバに付属のマニュアルを参照してください。

- 2 Version Manager Web サーバをインストールするディレクトリに対して、権限が与えられていることを確認します。
- 3 Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。68 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 4 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして〈Serena ChangeMan Version Manager Web Server for UNIX〉を選択します。
- 5 画面の指示に従って、インストールを完了します。
- 6 インストール中、Version Manager Web サーバ用として設定する Web サーバを選択するための画面が表示されます。デフォルトのサーバをそのまま使用する場合は、ENTER キーを押します。または、N を押して別の Web サーバを選択します。

インストール後の手順

インストール時に、iPlanet または Apache Web サーバを設定するよう選択した場合、追加の手順を実行してインストールを完了する必要があります。

Web サーバを設定するには、次の操作を行います。

- 1 ルートとしてログインします。
- 2 Web サーバが停止していることを確認します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - iPlanet の場合
 - a `<iPlanet_Install_Dir>/https-<server_name>/config` にある「obj.conf」ファイルのバックアップを作成します。
 - b 「obj.conf」ファイルを、`<VM_Install_Dir>/vm/inet/install` にある「pvcs_ipplanet_obj.conf」ファイルに置き換えます。
 - Apache の場合
 - a `<Apache_Install_Dir>/conf` から「httpd.conf」ファイルを開き、次の行を追加します。

```
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/httpd_pvcs.conf
```
 - b 「http.conf」ファイルを保存して、閉じます。
- 4 Web サーバに設定ファイルを再度読み込みます。詳細は、Web サーバのマニュアルを参照してください。
- 5 [149 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』](#)に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを起動します。
- 6 [142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』](#)の説明に従って、Web サーバを再起動します。
- 7 サンプルプロジェクトにアクセスするには、Web ブラウザを起動し、次の URL に移動します。
 - a `http://<server_name>:<port>/vminet.html`
`<server_name>:<port>` は、Web サーバの設定時に指定したサーバ名とポート番号です。

既存の「NFSMAP」ファイルの使用

Version Manager Web サーバをインストールすると、デフォルトでは、
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin/<os> ディレクトリに「NFSMAP」ファイルが
追加されます。ただし、既存の「NFSMAP」ファイルを使用することもできます。

既存の「NFSMAP」ファイルを使用するには、次の操作を行います。

次のディレクトリにある「NFSMAP」ファイルを、既存の「NFSMAP」ファイル
へのリンクに置き換えます。

<VM_Install_Dir>/vm/common/bin/<os>

第 9 章

Version Manager プロジェクトデータベースの作成

概要	118
プロジェクトデータベースの操作	118
プロジェクトデータベースの設定	120
ユーザと権限の設定	120

概要

Serena ChangeMan Version Manager Web サーバの処理対象は、既存の Version Manager プロジェクトです。既存のプロジェクトデータベースがない場合は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、プロジェクトデータベースの作成と設定を行います。Version Manager Web サーバを使用するには、事前にプロジェクトデータベースを作成し設定しておく必要があります。

Version Manager Web サーバを一度インストールすれば、その後に再インストールしなくても、必要に応じて新規に設定したプロジェクトデータベースにアクセスすることができます。

プロジェクトデータベースの作成と設定の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクトデータベースの操作

「プロジェクトデータベース」は、関連する複数のプロジェクトについての一般情報が含まれている特殊なプロジェクトデータファイルです。たとえば、プロジェクト名、フォルダ名、アーカイブディレクトリの場所、作業ファイルディレクトリの場所、コンフィグレーションファイルの場所などが保存されます。プロジェクトデータベースは、ほかのプロジェクトデータファイルとともに、Version Manager デスクトップクライアントで指定したディレクトリに格納されます。

Version Manager Web サーバを設定するには、Version Manager Web インターフェイスを使用して、アクセスするプロジェクトデータベースの場所を指定する必要があります。

新規プロジェクトデータベースの設定

Version Manager Web サーバで使用する新しいプロジェクトデータベースを作成する場合、Version Manager デスクトップクライアントのプロジェクトデータベースの保存先として、デフォルトの場所をそのまま使用するか、または別の場所を選択できます。

既存のプロジェクトデータベースの使用

Version Manager Web サーバでは、Version Manager で作成したプロジェクトデータベースを使用できます。これらのプロジェクトデータベース、およびプロジェクトデータベースに格納されているバージョン管理ファイルは、Version Manager Web クライアントインターフェイスを使用して操作することができます。

Version Manager Web サーバで既存のプロジェクトデータベースを使用する場合、特別な管理作業は一切必要ありません。ただし、サブレットを設定するには、プロジェクトデータベースの場所を知っている必要があります。

Version Manager Web クライアントとデスクトップクライアントの両方からプロジェクトデータベースにアクセスする場合、Version Manager Web クライアントで使用するユーザ名とパスワードが、Version Manager デスクトップクライアントで使用するユーザ名とパスワードと異なる可能性があります。ログインを効率的に行うには、Version Manager Web クライアントインターフェイス、Version Manager デスクトップクライアント、またはコマンドラインインターフェイスを使用してプロジェクトデータベースにアクセスするすべてのユーザの名前とパスワードが格納されたアクセスコントロールデータベースを設定します。Version Manager のすべてのインターフェイスで、同じアクセスコントロールデータベースを使用できます。詳細については、[120 ページの『ユーザと権限の設定』](#)を参照してください。

プロジェクトデータベースの削除

Version Manager Web サーバからプロジェクトデータベースを削除するには、対応するサブレットを削除します。詳細については、[第 10 章、132 ページの『Windows でのサブレットの削除』](#)または[第 10 章、136 ページの『UNIX でのサブレットの削除』](#)を参照してください。

プロジェクトデータベースの設定

Version Manager のほかのコンポーネントと同様、Version Manager Web サーバの動作も、プロジェクトデータベースの設定オプションの影響を受けます。たとえば、ユーザ権限の設定を変更して、リビジョンへのバージョンラベルの割り当てを行えないようにすると、それらのユーザの Version Manager Web クライアントインターフェイスでは、対応するボタンが使用できなくなります。



注 Version Manager Web クライアントには、イベントトリガの設定以外、デスクトップクライアントで定義されたすべての設定が適用されます。イベントトリガは、クライアントシステムではなく、Web サーバシステムで起動されます。この点が、Version Manager のほかのコンポーネントが使用するイベントトリガと異なっています。

ユーザと権限の設定

Version Manager Web サーバでは、Version Manager Web インターフェイスで使用するユーザと権限を 2 つの方法で設定できます。「アクセスコントロール」と「Version Manager Web クライアントのユーザ名」です。

アクセスコントロールの使用

アクセスコントロールは Version Manager の機能の 1 つで、ユーザが Version Manager プロジェクトデータベースにアクセスする方法を制御することができます。この機能を使用して、ユーザとユーザグループを定義し、各ユーザに権限を設定します。

アクセスコントロールを設定するには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。アクセスコントロールを設定した後は、Version Manager Web クライアントがログインするとき、管理者が定義したユーザ名とパスワードに基づいてプロジェクトデータベースへのアクセスが制御されます。さらに、Version Manager Web クライアントは、特定の機能および特定のアーカイブについて、ユーザごとに設定されたアクセス権設定に従います。したがって、ユーザが Version Manager デスクトップクライアントおよび Version Manager Web クライアントにログインするときは、アクセスコントロールデータベースで定義されているユーザ名を使用する必要があります。

アクセスコントロールデータベースにユーザ名のみが格納されており、対応するパスワードが割り当てられていない場合は、[121 ページ](#)の『[デフォルトのパス](#)

[ワードの使用](#)で説明されているように、デフォルトのパスワードマスクが使用されます。このデフォルトのパスワードマスクは、Version Manager Web クライアントのユーザ名から、対応するパスワードを生成するためのパターンです。

ネットワークファイアウォールの外で使用するすべてのプロジェクトデータベースについて、アクセスコントロールを設定してください。

Version Manager Web クライアントのユーザ名

プロジェクトデータベースでアクセスコントロールを使用しない場合は、Version Manager Web クライアントのユーザ名とパスワードを使用することができます。これは、高度なセキュリティを必要としないプロジェクトデータベース向けの機能です。

Version Manager Web クライアントのユーザ名を使用する場合、Version Manager Web クライアントへのログイン時に、各ユーザが独自のユーザ名を作成できます。また、[『デフォルトのパスワードの使用』](#)で説明されているように、デフォルトのパスワード機能を使用することもできます。

ユーザ作成の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

デフォルトのパスワードの使用

デフォルトのパスワード機能を使用して、Version Manager Web クライアントのユーザ用にデフォルトのパスワードマスクを指定できます。デフォルトのパスワードマスクは、Version Manager Web クライアントがユーザ名からパスワードを生成するときに使用するパターンです。デフォルトのパスワードマスクを指定した場合でも、Version Manager Web クライアントのユーザは各自のパスワードを変更できることに注意してください。プロジェクトデータベースに対してアクセスコントロールを設定している場合は、変更されたパスワードも Version Manager デスクトップクライアントで必要になります。

Version Manager Web クライアントでデフォルトパスワードを使用するには、Version Manager Web クライアントの設定時に [Default Password Mask (デフォルトのパスワード)] プロパティを設定します。パスワードマスクのデフォルト値は `!{0}` です。{0} は、該当するユーザのユーザ ID です。たとえば、ユーザが `john` の場合、デフォルトのパスワードは `!john` になります。

デフォルトのパスワードマスクの定義については、[124 ページの『Version Manager Web サーバサブプレットのコンフィグレーション設定』](#)を参照してください。

第 10 章

Web サーバサーブレットの設定

Version Manager Web サーバサーブレットについて	124
Version Manager Web サーバサーブレットのコンフィグレーション設定	124
Windows でのサーバサーブレットの設定	128
UNIX での Version Manager Web サーバサーブレットの設定	132
サーバサーブレットへのアクセス	137

Version Manager Web サーバサーブレットについて

Serena ChangeMan Version Manager Web サーバサーブレットは、Version Manager Web サーバのサーバ側コンポーネントを形成する「Java サーブレット」です。Java サーブレットは、Web サーバの機能を拡張する特殊な Java オブジェクトです。Version Manager を Web サーバシステムにインストールするときに、サーブレットを構成する Java クラスをインストールします。

ユーザがサーブレットの URL を開いてプロジェクトデータベースにログインすると、Version Manager サーブレットが自動的にロードされます。サーブレットの URL は、新規のサーブレットを Web サーバに追加するときに定義します。その際、Windows では、Version Manager Application Server Admin を使用します。UNIX の場合は、UNIX テキストエディタを使用して web.xml ファイルを修正します。ロードしたサーブレットは、Web サーバの実行中はアクティブなままとなります。

Version Manager Web サーバサーブレットのコンフィグレーション設定

このセクションでは、サーブレットを追加または変更するときに定義するサーブレットのコンフィグレーション設定について説明します。

これらの設定を Windows 環境で指定する方法については、[128 ページ](#)以降の説明を参照してください。UNIX 環境で指定する方法については、[132 ページ](#)以降の説明を参照してください。

サーブレット名

「サーブレット名」は、Web サーバがサーブレットを識別するために使用する名前です。[Project Databases (プロジェクトデータベース)] ページを使用して Version Manager Web サーバに接続すると、Version Manager Web クライアントインターフェイスにこの名前が表示されます。

UNIX の場合、web.xml ファイルで *servlet-name* コンフィグレーション引数を設定します。

説明

サブレットの「説明」は、サブレットに関連付けられたプロジェクトデータベース内のプロジェクトについての説明です。[Project Databases (プロジェクトデータベース)] ページ (vminet.html) から Version Manager Web サーバに接続すると、Version Manager Web クライアントインターフェイスにこの説明が表示されます。UNIX の場合、web.xml ファイルで *description* コンフィグレーション引数を設定します。

サブレット URL

「サブレット URL」は、サブレットの相対 URL です。サブレットの絶対 URL は、Web サーバのホスト名および選択したサブレット URL から生成されます。たとえば、次の URL では、MyServlet がサブレット URL になります。

```
http://<server_name>:<port>/MyServlet
```

ユーザが Version Manager Web サーバサブレットに接続するときは、上記のような絶対 URL を開きます。

UNIX の場合は、web.xml ファイルで *url-pattern* コンフィグレーション引数を設定します。

プロジェクトデータベース / ルート (Windows) と rootPathUNIX

プロジェクトデータベースまたはルートには、Version Manager によって管理されるデータファイル (pvcsproj.pub) が含まれます。このファイルには、関連するプロジェクトグループについての一般情報が格納されます。たとえば、グループ内のプロジェクトの名前や、コンフィグレーションファイル、アーカイブディレクトリ、作業ファイルディレクトリの場所などが格納されます。

Windows では、Version Manager Application Server Admin を使ってプロジェクトデータベースサブレット属性を設定します。UNIX では、web.xml ファイルで *rootPath* コンフィグレーション引数を設定します。

サブレットに関連付けるプロジェクトデータベースまたは *rootPath* 設定を指定します。サブレットを追加すると、プロジェクトデータベースまたは *rootPath* 内のすべてのプロジェクトを Version Manager Web サーバで使えるようになります。各サブレットは、それぞれ 1 つのプロジェクトデータベースまたは *rootPath* に関連付けることができます。

サーバ (Windows) と `serverName` (UNIX)

〈Server (サーバ)〉および `serverName` コンフィグレーション設定では、プロジェクトデータベース内でリンクを生成するとき、Version Manager Web サーバで Web サーバの名前を使用するか、Web サーバの IP アドレスを使用するかを指定できます。Web サーバで、動的に割り当てられた IP アドレスを使用する場合は、サーバ名を使用できます。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `serverName` コンフィグレーション引数を設定します。

Web Server Application URL (Windows) と `trackerName` および `trackServerType` (UNIX)

〈Web Server URL〉および `trackerName` 設定は、Tracker または TeamTrack Web クライアントで使用できる関連 Tracker または TeamTrack プロジェクトの URL です。【Tracker】または【TeamTrack】ボタンをクリックすると、新しい Web ブラウザウィンドウにこのプロジェクトのページが表示されます。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `trackerName` および `trackServerType` の各コンフィグレーション引数を設定します。

デフォルトパスワード (Windows) と `defaultPassword` (UNIX)

〈`default password` (デフォルトのパスワード)〉設定を使用して、Version Manager Web クライアントユーザのデフォルトパスワードマスクを指定できます。デフォルトパスワードマスクは、Version Manager Web クライアントが、ユーザ名を基にしてパスワードを生成するためのパターンです。

次のプロジェクトでデフォルトパスワード機能を使用できます。

- Version Manager Web クライアントのユーザ名を使用してユーザを識別するプロジェクト
- ユーザの識別にアクセスコントロールデータベースを使用するが、ユーザ名に関連するパスワードがないプロジェクト

パスワードマスクのデフォルト値は `!{0}` です。`{0}` は、該当するユーザのユーザ ID です。たとえば、ユーザが `johnd` の場合、デフォルトパスワードは `!johnd` になります。ただし、`{0}` にユーザ ID 以外の文字列を指定することによって、その他のパスワードマスクを作成できます。



注 `{0}` という指定はこの形で使用してください。中かっこ `{ }` は、これ以外の方法では使用できません。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `defaultPassword` コンフィグレーション引数を設定します。

ログインタイムアウト (Windows) と `logtimeout` (UNIX)

〈Login Time-out (ログインタイムアウト)〉 (Windows) および `logtimeout` (UNIX) コンフィグレーション設定では、Version Manager Web クライアントユーザの最大許容アイドル時間 (分数) を指定できます。この許容時間に達すると、Version Manager Web クライアントはログインセッションを終了します。ログインセッションが終了した場合、ユーザは、プロジェクトデータベースに再度ログインする必要があります。〈Login Time-out (ログインタイムアウト)〉 および `logtimeout` 設定は、サブレットのすべてのユーザに適用されるグローバル設定です。ログインタイムアウトを指定しない場合、アイドル状態のユーザでも Version Manager Web クライアントからログアウトされません。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `logtimeout` コンフィグレーション引数を設定します。

日付 / 時間の形式 (Windows) と `DateTimeFormat` (UNIX)

〈Date/Time Format (日付 / 時間の形式)〉 (Windows) および `DateTimeFormat` (UNIX) コンフィグレーション設定では、日付と時間の表示形式を指定できます。標準の形式は、日付は `mm/dd/yyyy`、時刻は `HH:mm:ss` です。表示形式を指定しない場合は、デフォルトの Java 日付 / 時間形式が使用されます。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `DateTimeFormat` コンフィグレーション引数を設定します。

Windows でのサブレットの設定

Version Manager Web サーバを Windows 上にインストールするとき、Version Manager Application Server Admin を使用してサブレットの追加と設定を行います。サブレットを追加して設定すると、それらのサブレットを使用してプロジェクトデータベースにアクセスできるようになります。

Windows 上での Version Manager Application Server Admin の起動

Version Manager Web サーバの設定を変更するには、[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。

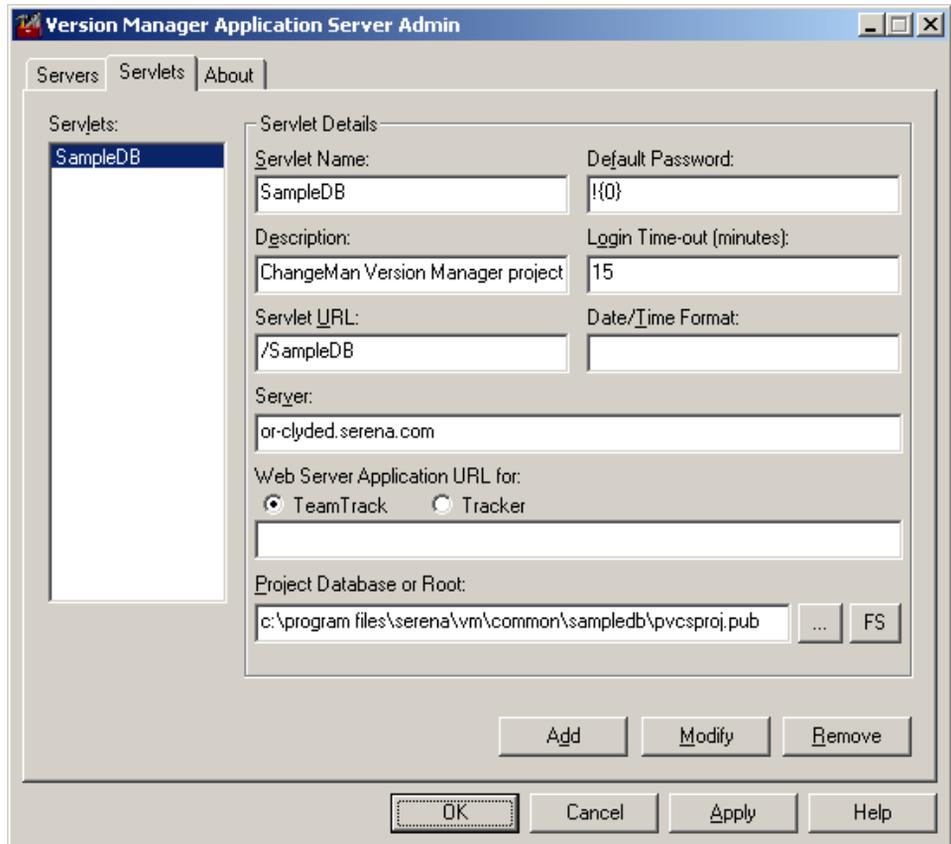
Windows でのサブレットの追加

Version Manager Web サーバサブレットを追加するには、サブレット名、サブレット URL などのサブレット設定オプションを指定し、Version Manager Web サーバで使用するプロジェクトデータベースを選択する必要があります。

サブレットを追加した後は、変更内容を Web サーバに適用する必要があります。Web サーバを再起動し、さらに Version Manager Web サーバを再起動すると変更が有効になります。

サブレットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。

2 [(Servlets) サーブレット] タブを選択します。

- 3** 〈Servlet Name (サーブレット名)〉フィールドにサーブレットの名前を入力します。
- 4** (省略可能) 〈Description (説明)〉フィールドに、サーブレットに関する説明を入力します。
- 5** 〈Servlet URL (サーブレット URL)〉フィールドにサーブレットの URL を入力します。入力する URL は、スラッシュ (/) で始まる必要があります (例 : /SampleDB)。
- 6** 〈Server (サーバ)〉フィールドに、サーバの名前または IP アドレスを入力します。

- 7 サブレットに関連付けるプロジェクトデータベースまたはプロジェクトルートの名前とパスを、〈Project Database or Root (プロジェクトデータベース/ルート)〉フィールドに入力します。プロジェクトデータベースの名前またはパスがわからない場合は、【...】ボタンをクリックして、目的のプロジェクトデータベースを選択します。

プロジェクトデータベースのデフォルト名は `pvcspj.pub` です。

- 8 (省略可能) 〈Default Password (デフォルトのパスワード)〉フィールドに、デフォルトパスワードマスクを入力します。パスワードを使用しない場合は、このフィールドを空白のままにしておきます。

このフィールドのデフォルト値は `!{0}` です。`{0}` は、各ユーザのユーザ ID です。



注 `{0}` という指定はこの形で使用してください。中かっこ `{ }` は、これ以外の方法では使用できません。

- 9 〈Login Time-out (ログインタイムアウト)〉フィールドに、ログアウト時間を分単位で入力します。

このフィールドのデフォルト値は 15 分です。ログアウト時間を指定しない場合は、アイドル状態のユーザが Version Manager Web クライアントからログアウトされません。

- 10 〈Date/Time Format (日付 / 時間の形式)〉フィールドに、サブレットで使用する日付と時間の形式を入力します。標準の形式は、日付は `mm/dd/yyyy`、時間は `hh:mm:ss` です。表示形式を指定しない場合は、デフォルトの Java 日付 / 時間形式が使用されます。

- 11 (省略可能) サブレットを Tracker または TeamTrack Web サーバに関連付ける場合は、〈TeamTrack〉オプションまたは〈Tracker〉オプションを選択し、〈Web Server Application URL〉フィールドに Web サーバの URL を入力します。

`http://tt_server/tmtrack/tmtrack.dll`

ここで、`tt_server` は TeamTrack ホストの名前です。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号 (80 以外のポート) を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。

`http://tt_server:89/tmtrack/tmtrack.dll`



注 TeamTrack SourceBridge を実行するためには、特定の TeamTrack ユーザ権限が必要です。詳細は、SourceBridge のドキュメントを参照してください。

- 12 【Add (追加)】をクリックします。
- 13 【Apply (適用)】をクリックして、変更を適用します。または、【OK】をクリックし、変更を適用してプログラムを終了します。
- 14 148 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 15 142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを再起動します。

Windows でのサーブレットの変更

Version Manager Web サーバサーブレットを変更して、関連付けられているコンフィグレーション設定を変更することができます。サーブレットを変更した後は、それらの変更を適用して、有効にします。

サーブレットを変更するには

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Serena] - [ChangeMan Version Manager] - [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。
- 2 [Servlets (サーブレット)] タブを選択します。サーブレットの設定が表示されます。
- 3 <Servlets (サーブレット)> リストボックスで、変更するサーブレットを選択します。
- 4 選択したサーブレットのプロパティを編集します。
- 5 【Modify (変更)】をクリックします。
- 6 【Apply (適用)】をクリックして、変更を適用します。または、【OK】をクリックし、変更を適用してプログラムを終了します。
- 7 148 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 8 142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを再起動します。

Windows でのサーブレットの削除

Version Manager Web サーバサーブレットを削除すると、そのサーブレットと関連する設定がシステムから削除されます。サーブレットの削除を適用して、この変更を有効にします。



注 削除したサーブレットは復元できません（つまり、「取り消し」コマンドを使用できません）。サーブレットを復元するには、サーブレットを最初から作成し直す必要があります。

サーブレットを削除するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。
- 2 [Servlets (サーブレット)] タブを選択します。
- 3 <Servlets (サーブレット)> リストボックスで、削除するサーブレットを選択します。
- 4 【Remove (削除)】をクリックします。
- 5 【Apply (適用)】をクリックして、変更を適用します。または、【OK】をクリックし、変更を適用してプログラムを終了します。
- 6 [148 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』](#)の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 7 [142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』](#)の説明に従って、Web サーバを再起動します。

UNIX での Version Manager Web サーバサーブレットの設定

Version Manager Web サーバを使用してサーブレットにアクセスするには、サーブレットの設定作業を行い、サーブレットのプロジェクトデータベースのパスを定義する必要があります。

サーブレットのコンフィグレーション設定の詳細については、[124 ページの『Version Manager Web サーバサーブレットのコンフィグレーション設定』](#)を参照してください。

UNIX でのサーブレットの追加

UNIX でサーブレットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリにある web.xml ファイルを開きます。
`<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/webapps/vminet/WEB-INF`
- 2 このファイル内で、最初の `<!-- End PVCS section -->` 行の前に以下の行を追加します。太字で示されている値は、新しいサーブレットの値に変更してください。

```
<servlet>
<servlet-name> New_Servlet </servlet-name> <servlet-class> pvcs.vm.servlet.VmServlet </servlet-class> <load-on-startup> 0 </load-on-startup> <description> Sample New_Servlet Description </description>
<init-param> <param-name> rootPath </param-name> <param-value> /usr/pvcs/vminet/New_Servlet </param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> serverName </param-name> <param-value> server </param-value> </init-param>
</servlet>
```



注 servlet-name、description、rootPath、および serverName の詳細については、124 ページの『Version Manager Web サーバサーブレットのコンフィグレーション設定』を参照してください。

- 3 サーブレットの設定オプションを変更するには、上記のサーブレットエントリに以下の行を追加します（`</servlet>` タグの前に追加してください）。その際、太字で示されている値を変更します。

```
<init-param> <param-name> logtimeout </param-name> <param-value> 15
</param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> DateTimeFormat </param-name> <param-value>
</param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> defaultPassword </param-name> <param-value> !{0} </param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> trackServerType </param-name> <param-value> Tracker </param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> trackerName </param-name> <param-value> http://trackserver/trackbin/wtms.dll </param-value> </init-param>
```



注 logtimeout、DateTimeFormat、defaultPassword、trackerName の詳細については、124 ページの『Version Manager Web サーバサーブレットのコンフィグレーション設定』を参照してください。

- web.xml ファイルで、2 番目の `<!-- End PVCS section -->` 行の前に以下の行を追加します。その際、太字で示されている値を新しいサブレット名に変更してください。

```
<servlet-mapping>
<servlet-name> New_Servlet </servlet-name> <url-pattern> /New_Servlet/*
</url-pattern>
</servlet-mapping>
<servlet-mapping>
<servlet-name> New_Servlet </servlet-name> <url-pattern> /New_Servlet
</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

- web.xml ファイルを保存して、閉じます。
- iPlanet を使用する場合は、この後の『[iPlanet でのサブレットの定義](#)』に記載されている手順を実行します。Apache を使用する場合は、[135 ページの『Apache でのサブレットの定義』](#)の手順を実行します。
- [149 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』](#)の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- [142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』](#)の説明に従い Web サーバを終了して、再起動します。

サブレットを追加した後は、Version Manager Web クライアントで URL をクリックすることによって、そのサブレットにアクセスできます。

iPlanet でのサブレットの定義

iPlanet を使用する場合は、web.xml ファイルに加え、iPlanet コンフィグレーションファイルでも新しいサブレットを指定する必要があります。

iPlanet でサブレットを追加するには、次の操作を行います。

- ルートとしてログインします。
- 次のディレクトリにある obj.conf ファイルを開きます。
`<iPlanet_Install_Dir>/https-<server_name>/config`

- 3 <Object name=default> 行の後に、以下の行を追加します。太字の値は、実際のサーブレット名に置き換えてください。

```
NameTrans fn="assign-name" from="/New_Servlet" name=vmervlet
NameTrans fn="assign-name" from="/New_Servlet/" name=vmervlet
```



注 ここで指定する値は、web.xml ファイルで指定したサーブレット名と一致する必要があります。

- 4 obj.conf ファイルを保存して、閉じます。
- 5 [149 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』](#)の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 6 [142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』](#)の説明に従い Web サーバを終了して、再起動します。

Apache でのサーブレットの定義

Apache を使用する場合は、web.xml ファイルに加え、Apache コンフィグレーションファイルでも新しいサーブレットを指定する必要があります。

Apache でサーブレットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager Web サーバをインストールしたユーザとしてログインします。
- 2 次のディレクトリにある httpd_pvcs.conf ファイルを開きます。
<VM_Install_Dir>/vm/inet/install
- 3 </IfModule> 行の前に、以下の行を追加します。太字の値は、実際のサーブレット名に置き換えてください。

```
JkMount /New_Servlet ajp12
JkMount /New_Servlet/* ajp12
```

ここで指定する値は、web.xml ファイルで指定したサーブレット名と一致している必要があります。

- 4 httpd_pvcs.conf ファイルを保存して、閉じます。
- 5 [149 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』](#)の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 6 [142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』](#)の説明に従い Web サーバを終了して、再起動します。

UNIX でのサブレットコンフィグレーション設定の変更

既存のサブレットの設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリにある web.xml ファイルを開きます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/webapps/vminet  
/WEB-INF
```
- 2 サブレットエントリを探し、必要に応じて値を編集します。設定の詳細については、[124 ページの『Version Manager Web サーバサブレットのコンフィグレーション設定』](#)を参照してください。
- 3 web.xml ファイルを保存して、閉じます。
- 4 [149 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』](#)の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 5 [142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』](#)の説明に従い Web サーバを終了して、再起動します。



注 変更を有効にするには、Web サーバと Version Manager Web サーバを再起動する必要があります。

UNIX でのサブレットの削除

既存のサブレットを削除するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリにある web.xml ファイルを開きます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/webapps/vminet  
/WEB-INF
```
- 2 削除するサブレットに関連付けられたサブレットエントリを削除します。または、サブレットエントリをコメントアウトします。サブレットエントリをコメントアウトするには、サブレットタグの前後に次の文字を追加します。

```
<!-- <servlet>...</servlet> -->
```

- 3 web.xml ファイルを保存して、閉じます。
- 4 149 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 5 142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従い Web サーバを終了して、再起動します。



注 変更を有効にするには、Web サーバと Version Manager Web サーバを再起動する必要があります。

サーブレットへのアクセス

Version Manager Web サーバにサーブレットを追加した後は、Version Manager Web サーバのプロジェクトとして、次のような複数の場所からそのサーブレットにアクセスできます。

- Version Manager Web サーバの [Project Database (プロジェクトデータベース)] ページ

サーブレットの追加が完了すると、サーブレットへのリンクがこのページに表示されます。このページを表示するには、次のように URL を入力します。

```
http://<server_name>:<port>/vminet.html
```

- サーブレット URL

サーブレットの URL を入力して、サーブレットに直接アクセスします。

```
http://<server_name>:<port>/<servlet_URL>
```


第 11 章

Web サーバのインストールと実行

Web サーバソフトウェアのインストール	140
Web サーバソフトウェアの設定	141
Web サーバセキュリティの設定	141
Web サーバインスタンスの起動と停止	142

Web サーバソフトウェアのインストール

- 1 readme ファイルに記載されている必要なシステム構成を参照し、それらの条件を満たしていることを確認します。
- 2 サポートされている Web サーバプログラムをソフトウェア販売店から購入するか、製造元の Web サイトから正式版または評価版としてダウンロードします。
- 3 (省略可能) Web サーバのホストシステムを選択する前に、[第 14 章、155 ページの『パフォーマンスの管理』](#)のパフォーマンス情報を確認します。
- 4 使用する Web サーバのマニュアルに従って、Web サーバをインストールします。

Apache Web サーバを使用するには 動的共有オブジェクトが必要

Apache Web サーバを使用する場合は、その Web サーバが動的共有オブジェクト (DSO) をサポートしている必要があります。

Apache Web サーバが DSO をサポートしているかどうかを確認するには、Apache がインストールされている bin ディレクトリから以下のコマンドを実行します。

```
./httpd -l
```

上記のコマンドの実行結果として `mod_so.c` と表示された場合、Apache は DSO をサポートしています。

インストールされている Apache が DSO をサポートしていない場合は、DSO を入手し、Apache サーバをコンパイルして DSO サポートを追加する必要があります。Apache 1.3 README.configure ファイルまたは Apache 2.0 INSTALL ファイルを参照してください (これらのファイルは Apache の配布元にあります)。あるいは、別の Web サーバを使用します。

Web サーバソフトウェアの設定

Web サーバソフトウェアをインストールした後は、使用環境に応じてそのソフトウェアを設定できます。設定オプションには、サーバ名やポート番号などの基本設定があり、拡張オプションには、セキュリティやパフォーマンスの調整があります。

Version Manager Web サーバでは、Web サーバソフトウェアをデフォルト設定のまま実行できますが、セキュリティを有効にしたり、その環境に合わせて Version Manager Web サーバのパフォーマンスを最適化するなど、設定を変更することができます。

次に、Web サーバの一般的なデフォルト設定について説明します。

- **サーバ名**：Web サーバおよび Version Manager Web サーバサブプレットをインストールするシステムの名前です。デフォルトでは、これは使用するマシンおよびドメイン名です。サーバに DNS エイリアスが設定されている場合は、そのエイリアスをサーバ名として使用できます。
- **ポート**：現在使用されていない、サポートされている任意のポート番号です。デフォルトでは、標準の HTTP ポート番号は 80、標準の HTTPS ポート番号は 443 です。ポート番号を 80 に設定した場合は、サーバの URL を指定するときに `<port>` 変数を指定する必要がありません。

Web サーバを使用するための設定については、Web サーバソフトウェアに同梱されている資料を参照してください。

Web サーバセキュリティの設定

Web サーバセキュリティは、Version Manager Web サーバを含め、Web サーバ上のリソースに対するユーザアクセスを制御します。Version Manager Web サーバでは、Version Manager プロジェクトデータベースの情報を不正ユーザから保護する上で、Web サーバセキュリティが重要な役割を果たします。プロジェクトデータやアーカイブをファイアウォールの外側のユーザに公開する場合は、常に、サーバセキュリティを有効にすることをお勧めします。

Web サーバには、「アクセスコントロール」と「SSL (Secure Sockets Layer)」という 2 つのセキュリティ機能が備わっています。アクセスコントロールは、ユーザ名とパスワードによる基本的な保護機能です。SSL は、暗号化、データ安全性保護、公開鍵証明による認証を提供する高度なセキュリティ機能です。SSL を有効にするには、Version Manager Web サーバのセットアップ時に、そのための設定を行う必要があります。

Version Manager Web サーバで使用する Web サーバセキュリティを設定する方法については、[第 13 章](#)、[151 ページ](#)を参照してください。

Web サーバインスタンスの起動と停止

Web サーバインスタンスの起動方法は、使用する Web サーバソフトウェアによって異なります。該当するセクションの説明を参照してください。

iPlanet Web Server での Web サーバの 起動と停止

以下の手順は、Version Manager Web サーバがインストールされているプラットフォームにかかわらず、iPlanet Web Server を使用する場合に適用されます。

インストール後の最初の起動

インストール後、Web サーバインスタンスを最初に起動するには、以下の手順に従います。

- 1 Web サーバの Administration Server に対して管理者権限が与えられていることを確認します。
- 2 Web サーバの Administration Server にログインします。
- 3 インストールした Version Manager Web サーバの対象となるサーバ名が表示されたボタンをクリックします。

たとえば、サーバに VMWEB という名前を付けた場合は、【VMWEB】ボタンをクリックします。
- 4 表示されたダイアログボックスで【OK】をクリックします。
- 5 Web サーバの Administration Server の最上部にある【Apply】ボタンをクリックします。
- 6 [Apply Changes] ページで、〈Load Configuration Files〉をクリックします。
- 7 〈Success〉ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。
- 8 〈Server ON〉をクリックして、Web サーバインスタンスを有効にします。
- 9 〈Success〉ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。

2 回目以降の起動

ここでは、Web サーバインスタンスを停止した後、再起動する手順について説明します。

- 1 Web サーバの Administration Server に対して管理者権限が与えられていることを確認します。
- 2 Web サーバの Administration Server にログインします。
- 3 インストールした Version Manager Web サーバの対象となるサーバ名が表示されたボタンをクリックします。
たとえば、サーバに VMWEB という名前を付けた場合は、【VMWEB】ボタンをクリックします。
- 4 〈Server ON〉をクリックして、Web サーバインスタンスを有効にします。
- 5 〈Success〉ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。

Web サーバの停止

- 1 Web サーバの Administration Server に対して管理者権限が与えられていることを確認します。
- 2 Web サーバの Administration Server にログインします。
- 3 インストールした Version Manager Web サーバの対象となるサーバ名が表示されたボタンをクリックします。
たとえば、サーバに VMWEB という名前を付けた場合は、【VMWEB】ボタンをクリックします。
- 4 表示されたダイアログボックスで【OK】をクリックします。
- 5 〈Server OFF〉をクリックして、Web サーバインスタンスを無効にします。
- 6 〈Success〉ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。

Microsoft Internet Information Service の起動と停止

次の手順は、Windows プラットフォームで Microsoft Internet Information Service (IIS) を使用する場合にのみ適用されます。

Microsoft Internet Information Service での Web サーバの 起動

Windows で Microsoft Internet Information Service の Web サーバインスタンスを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] の順に選択して、〈管理ツール〉をダブルクリックします。次に、〈サービス〉をダブルクリックします。
- 2 〈サービス〉リストボックスで、〈World Wide Web Publishing Service〉を選択します。
- 3 【開始】をクリックします。
- 4 【閉じる】をクリックします。

Microsoft Internet Information Service での Web サーバの 停止

Windows で Microsoft Internet Information Service の Web サーバインスタンスを停止するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] の順に選択し、〈管理ツール〉をダブルクリックします。次に、〈サービス〉をダブルクリックします。
- 2 〈サービス〉リストボックスで、〈World Wide Web Publishing Service〉を選択します。
- 3 【停止】をクリックします。
- 4 確認メッセージが表示されたら、【はい】をクリックします。
- 5 【閉じる】をクリックします。

Apache Web サーバの起動と停止

以下の手順は、UNIX 上で Apache Web サーバを使用する場合にのみ適用されます。

Apache の起動

Apache の Web サーバインスタンスを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 ルートとしてログインします。
- 2 ディレクトリを `<Apache_Install_Dir>/bin` に変更します。
`<Apache_Install_Dir>` は、Apache のインストール場所です。
- 3 `./apachectl start` と入力します。

Apache の停止

Apache の Web サーバインスタンスを停止するには、以下の手順に従います。

- 1 ルートとしてログインします。
- 2 ディレクトリを `<Apache_Install_Dir>/bin` に変更します。
`<Apache_Install_Dir>` は、Apache のインストール場所です。
- 3 `./apachectl stop` と入力します。

第 12 章

Version Manager Web サーバの実行

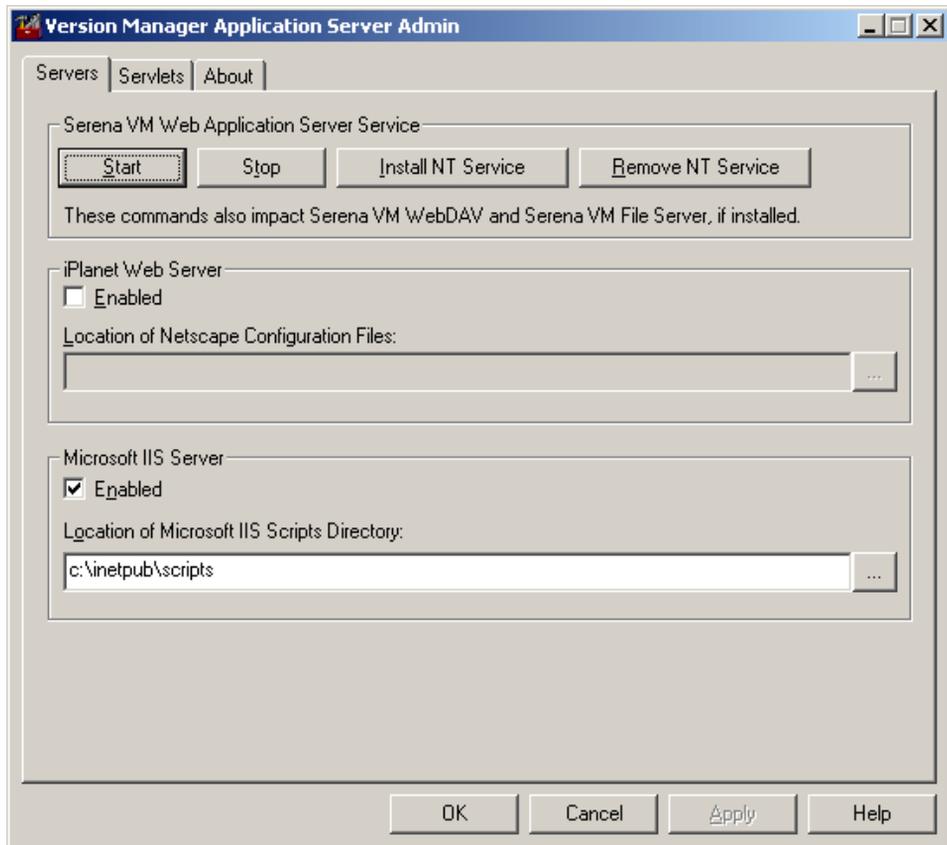
Windows での Web サーバの起動と停止	148
UNIX での Web サーバの起動または停止	149
ユーザの接続	150

Windows での Web サーバの起動と停止

Serena ChangeMan Version Manager Web サーバを起動した後は、手動で停止するか、Version Manager Web サーバがインストールされているマシンを終了しないかぎり、動作し続けます。

Windows 上で Version Manager Web サーバを起動または停止するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager Application Server Admin を起動するには、[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択します。Version Manager Application Server Admin の [Servers (サーバ)] タブが表示されます。



- 2 該当するボタンをクリックして、Version Manager Application Server を起動または停止します。Version Manager Web サーバのほかに、インストールされている場合は、WebDAV Server と Version Manager File Server も起動または停止します。

UNIX での Web サーバの起動または停止

Version Manager Web サーバを起動した後は、手動で停止するか、Version Manager Web サーバがインストールされているマシンを終了しないかぎり、動作し続けます。

- 特記事項
- ルートとしてではなく、プロジェクトデータベースを所有しているユーザとして、Version Manager Web サーバを起動および停止してください。
 - Version Manager File Server、WebDAV Server、および Version Manager Web サーバは、いずれも Version Manager Application Server を使用します。1 つの機能を開始または停止すると、その他の機能も自動的に開始または停止します。

UNIX 上で Version Manager Web サーバを起動するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリに移動します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin
```

- 2 次のコマンドを入力します。

```
./pvcstart.sh
```

- 3 次のメッセージが表示されます。

```
PVCS VM I-Net n.n Build (Build Number)
```

UNIX 上で Version Manager Web サーバを停止するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリに移動します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin
```

- 2 次のコマンドを入力します。

```
./pvcstop.sh
```

ユーザの接続

Web サーバをインストールして設定し、Version Manager Web サーバを起動したら、アプリケーションを開始して、ユーザがプロジェクトデータベースへ接続できるようにします。

Version Manager Web サーバに接続するときには、サポートされている Web ブラウザで次の URL を開くようにユーザに指示します。

```
http://<server_name>:<port>/vminet.html
```

<server_name> は使用する Web サーバの名前、<port> は Web サーバのポート番号です。

ユーザが初めて Version Manager Web サーバに接続する場合は、『Serena ChangeMan Version Manager Web クライアントユーザガイド』に説明されているように、Version Manager Web クライアントアプレットをダウンロードして、インストールする必要があります。クライアントアプレットを UNIX 上にインストールする方法については、[101 ページの『UNIX での Netscape Communicator の使用』](#)を参照してください。

第 13 章

セキュリティの管理

アクセスコントロールの使用	152
SSL の使用	152
ファイアウォールの使用	153

アクセスコントロールの使用

アクセスコントロールは、Serena ChangeMan Version Manager Web クライアントを含め、Web サーバ上のリソースをユーザ名とパスワードによって保護する基本的なセキュリティ機能です。

Version Manager Web クライアントでアクセスコントロールを使用した場合、ユーザは、Web サーバ上のドメインと呼ばれる安全領域に入るときに、事前定義されたユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

Web サーバで使用するユーザ名とパスワードは、Version Manager Web クライアントが管理するユーザ情報とは別に管理されます。したがって、Web サーバ上の安全領域にアクセスするには、Version Manager プロジェクトデータベースにログインするときに入力したユーザ名とパスワードのほかに、Web サーバ用のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

Web サーバでアクセスコントロールを設定する方法については、該当する Web サーバのマニュアルを参照してください。

SSL の使用

SSL (Secure Sockets Layer) は、次の方法を使用して、Web サーバによるリソース保護を可能にする高度なセキュリティ機能です。

- **暗号化。** Version Manager のデータを含め、Web サーバと Web ブラウザ間でやり取りされる機密情報を保護します。
- **データ安全性保護。** Web サーバと Web ブラウザの間でやり取りされる情報を第三者による変更から保護します。
- **認証。** Web サーバおよび Web ブラウザが、情報の受け渡しの際に自身を識別するために使用する手法です。この手法を使用すると、Web サーバまたは Web ブラウザは、信頼のおける相手に対してだけ情報を渡すことができます。

SSL の設定

Web サーバで提供されるユーザインターフェイスを使用して、Web サーバ上に SSL をセットアップします。SSL をセットアップするときは、標準の Web サービスで使用しているポート番号とは別のポート番号を指定して、セキュリティ保護された Web サービスをセットアップします。

ユーザの接続

SSL を使用するように Web サーバを設定した後、ユーザが Version Manager Web クライアントインターフェイスにアクセスするには、https プロトコルを使用する必要があります。たとえば、セキュリティで保護されたポートを経由して Web サーバにアクセスする場合は、Web ブラウザで次の URL を開きます。

```
https://<server_name>:443/vminet.html
```

ファイアウォールの使用

ローカルエリアネットワーク（LAN）またはワイドエリアネットワーク（WAN）の外から Version Manager Web クライアントへのユーザアクセスを許可する場合は、ファイアウォール保護を使用して、外部ユーザからのアクセスを Version Manager Web サーバが常駐する Web サーバだけに制限する必要があります。Web サーバにファイアウォールを設定し、ファイアウォールの外から Version Manager Web クライアントにアクセスするすべてのユーザが単一の URL にリダイレクトされるようにすれば、アクセスコントロールとユーザ認証によって、内部情報を外部要求から保護することができます。

ファイアウォールの使用方法については、ファイアウォールソフトウェアおよびネットワークソフトウェアのマニュアルを参照してください。

第 14 章

パフォーマンスの管理

システムの考慮事項	156
ネットワークポロジの考慮事項	156
Version Manager Web サーバデーモンプロセスについて	157
Web サーバの考慮事項	160
推奨構成	160
最適なパフォーマンスの維持	161

システムの考慮事項

一般に、Serena ChangeMan Version Manager Web サーバのホストシステムが強力であるほど、Version Manager のパフォーマンスが向上します。次のセクションで説明するように、最高のサーバマシンを使用していても、選択する Version Manager Web サーバのネットワークポロジによってそのパフォーマンスが左右される可能性があります。最高のパフォーマンスを実現するため、Version Manager Web サーバ専用のマシンを使用してください（つまり、そのマシンではほかのアプリケーションを一切実行しません）。

どのコンピュータでも、メモリ（RAM）容量は、プロセッサ速度と同様にシステムパフォーマンスに大きな影響を与えます。最新のシステム要件については、Version Manager readme ファイルを参照してください。サーバ用としては、できるかぎり高速なマシンを使用することをお勧めします。

ネットワークポロジの考慮事項

Version Manager は、プロジェクトデータファイルやアーカイブに格納されているディスクベースの情報へ頻繁にアクセスします。Version Manager Web サーバをどの場所にインストールし、さらにこれらのファイルをどの場所に格納するかは、Version Manager のパフォーマンスに大きな影響を与えます。プロジェクトファイルとアーカイブの格納場所を決定するときは、Version Manager Web サーバとプロジェクトファイル間のルータ数、使用するネットワークの帯域幅など、いくつかの点を考慮する必要があります。

プロジェクトファイルの格納場所

プロジェクトファイルの格納場所は、Version Manager Web サーバのインストールプランを立てる上での最重要事項です。プロジェクトファイルは、Version Manager Web サーバマシンのローカルディスクドライブに配置してください。サーバが頻繁にアクセスするプロジェクトファイルを別のマシン上に配置すると、Version Manager Web サーバのパフォーマンスが大幅に低下します。Serena のテスト結果によると、これらのファイルにネットワーク経由でアクセスした場合、パフォーマンスが著しく低下することがわかっています。

プロジェクトファイルと Version Manager Web サーバを同一マシンのローカルディスクドライブに配置できない場合は、代替策として、Version Manager Web サーバと同じネットワークセグメント内にプロジェクトファイルを配置します。このように構成することによって、Version Manager Web サーバは、ネッ

トワークルータやブリッジを経由せずにプロジェクトファイルへアクセスできます。

プロジェクトファイルと Version Manager Web サーバを、異なるネットワークセグメントの別々のマシンに配置しないでください。Version Manager Web サーバが複数のネットワークセグメントにまたがってプロジェクトデータを処理する場合、パフォーマンスが低下します。

プロジェクトファイルの格納場所を移動する方法については、[第9章、118 ページの『プロジェクトデータベースの操作』](#)を参照してください。

アーカイブの格納場所とネットワーク速度

プロジェクトファイルの格納場所ほど重大はありませんが、アーカイブの配置場所も Version Manager のパフォーマンスに影響を与えます。Version Manager Web サーバと同じマシン上に配置するのが理想的ですが、それが不可能な場合は、Version Manager Web サーバとアーカイブを高速ネットワークで接続してください。一般に、FDDI や光ファイバなど、大企業の多くのサーバールームが導入している高速技術を使用すれば、最高速度のネットワーク接続を実現できます。

Version Manager Web サーバデーモンプロセスについて

デフォルトでは、Version Manager Web サーバは、複数のデーモンプロセスが有効になった状態で動作します。有効なデーモン数を変更したり、単一のプロセスとして動作するようにサーバを設定することができます。この場合、一度に1つのユーザ要求が処理されます。

デーモンのプロセス数の設定

デフォルトでは、起動される最小デーモン数は5、一度に実行できる最大デーモン数は20に設定されています。必要に応じて、デーモンの最小数と最大数を指定することができます。

ユーザ数、ファイル数、およびバイト数が大きくなるほど、より多数のデーモンプロセスを実行する必要があります。ただし、ハードウェアが正常に処理できるプロセス数を超えたデーモンプロセスを開始することはできません。デーモン管理のオーバーヘッドによりパフォーマンスが低下する可能性があります。

最初はデフォルトの設定を使用し、必要に応じて調整するようにしてください。

デーモン数を変更するには、次の操作を行います。

- 1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。
 - **Windows** : islv.ini (Windows オペレーティングシステムのルートディレクトリにあります)
 - **UNIX** : $\$HOME$ /islvrc.
- 2 上記のファイルで、次の文字列を変更します。

```
pvcS.daemons.min=NValue  
pvcS.daemons.max=XValue
```

各パラメータの内容は次のとおりです。

 - *NValue* は、実行するデーモンの最小数です。
 - *XValue* は、実行するデーモンの最大数です。
- 3 ファイルを保存します。
- 4 サーバを再起動します。

デーモンを無効にする場合

通常はデーモンを無効にしません。ただし、トラブルが発生し、その原因を確認するときは、以下の方法でデーモンを無効にすることができます。

Windows でのデーモンの無効化

Windows でデーモンを無効にするには、3つのファイルを編集して、サーバを再起動する必要があります。

Windows でデーモンを無効にするには、次の操作を行います。

- 1 テキストエディタで、 $\langle VM_Install_Dir \rangle \backslash vm \backslash common \backslash bin \backslash pvcSstart.bat$ ファイルを開きます。

- 2 :start セクションで、次の行を探します。
-Dpvcs.daemons.useDaemons=**true**
次のように変更します。
-Dpvcs.daemons.useDaemons=**false**
- 3 ファイルを保存します。
- 4 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

<VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\conf\jk\wrapper.properties

- 5 次の行を見つけます。
-Dpvcs.daemons.useDaemons=**true**
次のように変更します。
-Dpvcs.daemons.useDaemons=**false**
- 6 ファイルを保存します。
- 7 islv.ini ファイルをテキストエディタで開きます。このファイルは、システムのルートディレクトリにあります。
- 8 次の行を見つけます。
pvcs.daemons.useDaemons=**true**
次のように変更します。
pvcs.daemons.useDaemons=**false**
- 9 ファイルを保存します。
- 10 サーバを再起動します。

UNIX でのデーモンの無効化

UNIX でデーモンを無効にするには、1 つのファイルを編集し、その後サーバを再起動する必要があります。

UNIX でデーモンを無効にするには、次の操作を行います。

- 1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin/pvcsstart.sh
```

- 2 次の行を見つけます。

```
-Dpvcs.daemons.useDaemons=true
```

次のように変更します。

```
-Dpvcs.daemons.useDaemons=false
```

- 3 ファイルを保存します。
- 4 サーバを再起動します。

Web サーバの考慮事項

Version Manager Web サーバのパフォーマンスは、Web サーバのサービスチューニング機能を使用して高めることができます。通常、これらの機能では、接続速度、メモリキャッシュのサイズ、およびスレッド処理の設定値を指定することができます。

Web サーバパフォーマンスの最適化の詳細については、Web サーバ製品のマニュアルを参照してください。

推奨構成

パフォーマンスを最適化するには、Version Manager Web サーバ、Version Manager プロジェクトファイル、および Version Manager アーカイブを高性能な 1 台のマシン上に配置することをお勧めします。Version Manager Web サーバは、プロジェクトデータやアーカイブデータをネットワーク経由で転送することなく、すべての要求をローカルに処理でき、最速の接続を実現できます。

最適なパフォーマンスの維持

通常の使用時には、Version Manager Web サーバとデスクトップクライアントはそれぞれ専用のテンポラリファイルを作成します。さらに、デスクトップクライアントは、専用のファイルデルタ（差分）イメージを作成します。この種のファイルを管理することによって、Version Manager クライアント / サーバシステムのパフォーマンスを高めることができます。

アーカイブを更新すると（チェックイン、ロック、ラベルなど）、処理中にテンポラリファイルが作成されます。通常、テンポラリファイルは、アーカイブが正常に更新された時点で削除されます。ただし、アーカイブの更新処理中に問題が発生した場合は、安全対策としてテンポラリファイルは削除されません。障害が発生してデータが失われたときは、テンポラリファイルから復元することができます。

古くなったり、廃棄されたテンポラリファイルは役に立ちません。このようなテンポラリファイルは削除する必要があります。不要なテンポラリファイルを削除せず、そのままにしておくと、やがて相当のディスク容量が無駄になることがあります。

Web サーバのテンポラリファイルの管理

デフォルトでは、Version Manager Web サーバのテンポラリファイルは、/tmp ディレクトリ（UNIX マシン）または <VM_Install_Dir>\vm\inet\temp ディレクトリ（Windows マシン）に配置されます。

Version Manager Web サーバでは、アーカイブを更新するたびにテンポラリファイルが作成されるので、多くのディスク容量を使用します。テンポラリディレクトリには、必要最小限のディスク容量を割り当ててください。Version Manager Web サーバのテンポラリファイルディレクトリを定期的にチェックし、古くなったテンポラリファイルを削除してください。

Version Manager のテンポラリファイルの管理

Version Manager のテンポラリファイルの管理については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

大規模ファイルのデルタ生成の管理

Version Manager がファイルのリビジョンをアーカイブに格納するとき、非チェックリビジョンのデルタ（差分）イメージが生成されます。サイズの大きいファイル（数十メガバイト）をアーカイブにチェックインする場合は、このデルタの生成に長時間かかります。さらに、ファイルサイズの増大に伴い、デルタ生成に要する時間が非線形的に増加します。

個々のアーカイブについて、デルタイメージを生成しないように設定することができます。サイズの大きいファイルでは、このように設定することによってパフォーマンスが大幅に向上します。ただし、アーカイブがテキストファイルの場合は、そのサイズが急速に増大します。バイナリファイルの場合は、デルタ生成を無効にしても、アーカイブファイルのサイズはそれほど大きくなりません。

デルタ生成を無効にするには、既存のアーカイブの設定を変更するか、または、特定のファイルタイプのすべての新規アーカイブがデルタを使用せずに生成されるように指定します。

特定のアーカイブでのデルタ生成を無効にするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager のデスクトップクライアントを起動します。
- 2 [Admin（管理）] メニューから [Configure Project（詳細設定）] を選択します。
- 3 [File Types（ファイルタイプ）] タブを選択します。
- 4 <File Types（ファイルタイプ）> リストボックスで、拡張子を選択するか、管理するファイルタイプの拡張子を入力します。
- 5 デルタ生成を無効にするには、<Store Deltas（デルタ形式で格納）> の選択を解除します。
- 6 【OK】または【Apply（適用）】をクリックします。

ファイル転送時の圧縮を使用した Web サーバパフォーマンスの管理

Version Manager Web サーバは、WAN または LAN ネットワークを介してアーカイブファイルを転送する前に、それらのファイルを圧縮します。デフォルトでは、圧縮レベルが 4（中レベル）に設定されています。圧縮レベルを変更したり、圧縮を無効にしたりするには、tomcat web.xml ファイルで compressionLevel パラメータを変更します。

圧縮レベルを変更するには、次の操作を行います。

- 1 tomcat web.xml ファイルで、compressionLevel という vminet パラメータを探します。
- 2 圧縮レベルを 1 ~ 9 の値に設定します。レベル 1 は、圧縮率は高くありませんが、圧縮処理が短時間で完了します。レベル 9 は、圧縮率は最も高くなりますが、圧縮処理に時間がかかります。
- 3 ファイルを保存して、閉じます。

高速ネットワークで処理速度の遅いマシンを使用する環境では、データの圧縮と解凍のオーバーヘッドにより、この機能は適さない場合があります。そのような場合は、この機能を無効に設定します。

Version Manager Web サーバの圧縮機能を無効にするには、次の操作を行います。

- 1 tomcat web.xml ファイルで、compressionLevel という vminet パラメータを探します。
- 2 圧縮レベルを 0 に設定します。
- 3 ファイルを保存して、閉じます。

第 15 章

Version Manager Web サーバのアンインストール

Windows からの Web サーバのアンインストール	166
UNIX からの Web サーバのアンインストール	169

Windows からの Web サーバのアンインストール

Web サーバのアンインストール方法は、使用している Web サーバソフトウェアによって異なります。該当するセクションの説明を参照してください。

iPlanet Web Server を使用している場合

iPlanet Web Server を使用している Windows マシンで Serena ChangeMan Version Manager Web サーバをアンインストールするには、Version Manager Web サーバアンインストールプログラムを起動し、画面の指示に従って操作します。プログラムファイル、ディレクトリ、およびレジストリエントリが自動的に削除されます。

Windows で Version Manager Web サーバをアンインストールするには

- 1 142 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを停止します。
- 2 148 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを停止します。
- 3 [スタート] – [設定] – [コントロールパネル] の順に選択します。
- 4 〈プログラムの追加と削除〉をダブルクリックします。
- 5 [インストールと削除] タブで 〈Serena ChangeMan Version Manager〉を選択し、【追加と削除】をクリックします。
- 6 【変更】を選択し、【次へ】をクリックします。
- 7 表示されたダイアログボックスで、〈Serena ChangeMan Version Manager Web Server〉およびアンインストールするその他のコンポーネントを選択解除します。
- 8 【OK】をクリックします。

Microsoft Internet Information Service を使用している場合

Microsoft Internet Information Service を使用している Windows マシンで Version Manager Web サーバをアンインストールするには、最初に、Microsoft Internet Information Service から仮想ディレクトリを削除する必要があります。その後、Version Manager Web サーバアンインストールプログラムを起動し、画面の指示に従って操作します。プログラムファイル、ディレクトリ、およびレジストリエントリが自動的に削除されます。

Microsoft Internet Information Service から Version Manager Web サーバをアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 148 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを停止します。
- 2 [スタート] メニューから順に選択して、Microsoft Internet Information Service を起動します。
- 3 Version Manager Web サーバがインストールされている Web サーバに移動し、ダブルクリックしてその内容を表示します。
- 4 次の仮想 Web ディレクトリを削除します。
 - vminet_temp
 - vminet_images
 - vminet_books
 - jakarta
 - a 削除する仮想 Web ディレクトリを選択します。
 - b ツールバーの【Delete (削除)】をクリックします。
 - c 削除を確認するメッセージが表示されたら、【Yes (はい)】をクリックします。

- 5 Version Manager Web サーバがインストールされている Web サーバを右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択します。
- 7 <jakarta> を選択し、【Remove (削除)】 をクリックします。
- 8 【OK】 をクリックします。
- 9 Microsoft 管理コンソールを終了します。
- 10 コントロールパネルの [Services (サービス)] で <World Wide Web Publishing Service> を選択し、【Stop (停止)】 をクリックします。
- 11 サービスを停止するかどうか確認するメッセージが表示されたら、【OK】 をクリックします。
- 12 Web サーバを停止したら、コントロールパネルの [Services (サービス)] を閉じます。
- 13 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] の順に選択します。
- 14 <プログラムの追加と削除> をダブルクリックします。
- 15 [インストールと削除] タブで <Serena ChangeMan Version Manager> を選択し、【追加と削除】 をクリックします。
- 16 【変更】 を選択し、【次へ】 をクリックします。
- 17 表示されたダイアログボックスで、<Serena ChangeMan Version Manager Web Server> およびアンインストールするその他のコンポーネントを選択解除します。
- 18 コンピュータを再起動します。

UNIX からの Web サーバのアンインストール

Version Manager Web サーバをアンインストールするには、iPlanet または Apache Web サーバから Version Manager Web サーバを削除する必要があります。

Version Manager Web サーバをアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 149 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを停止します。
- 2 142 ページの『iPlanet Web Server での Web サーバの 起動と停止』の説明に従って、Web サーバを停止します。
- 3 以下のディレクトリから、ファイルとサブディレクトリをすべて削除します。その後、このディレクトリ自体も削除します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/inet
```

- 4 ルートとしてログインします。
- 5 次のいずれかの操作を行います。

- iPlanet の場合

- a `<iPlanet_Install_Dir>/https-<server name>/config` にディレクトリを変更します。
- b `obj.conf` ファイルを、Version Manager Web サーバのインストール後にバックアップを作成した古い `obj.conf` ファイルに置き換えます。

- Apache の場合

- a `<Apache_Install_Dir>/conf` にある `httpd.conf` ファイルを開き、このファイルから次の行を削除します。

```
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/httpd_pvcs.conf
```

- b `http.conf` ファイルを保存して、閉じます。

これで、Version Manager Web サーバが Web サーバから削除されました。Version Manager Web サーバを再度使用するには、Version Manager Web サーバを再インストールする必要があります。

パート 4

その他の Version Manager インターフェイスのインストール

『パート 4：その他の Version Manager インターフェイスのインストール』は、以下の章で構成されています。

IDE クライアントのインストール	173
Version Manager Developer's Toolkit のインストール	183
WebDAV Server のインストール	187
Meritage のインストール	203

チェックリスト

その他の Serena ChangeMan Version Manager インターフェイスをインストールして設定するには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	IDE クライアント : Windows 上にインストールする (175 ページ)
<input type="checkbox"/>	IDE クライアント : Web サーバにインストールする (178 ページ)
<input type="checkbox"/>	Developers Toolkit : インストール方法とライセンス方法を確認する (184 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : Windows および UNIX に WebDAV をインストールする (189 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : WebDAV Server を起動および停止する (192 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : Microsoft IIS、iPlanet、または Apache Web サーバを設定する (194 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : WebDAV Server をテストする (202 ページ)
<input type="checkbox"/>	Meritage : Meritage のインストール手順を確認する (204 ページ)
<input type="checkbox"/>	Meritage : Meritage Admin Wizard を実行する (205 ページ)
<input type="checkbox"/>	Meritage : エンドユーザセットアップを作成する (207 ページ)

第 16 章

IDE クライアントのインストール

IDE クライアントについて	174
IDE クライアントのインストール	175
Web サーバへのインストール	178

IDE クライアントについて

Version Manager IDE クライアントをインストールすると、統合開発環境 (IDE) 内から Version Manager のさまざまな機能を使用できます。開発環境から離れることなく、ファイルを取得したり、ファイルのチェックインやチェックアウトを行えます。

IDE クライアントは、以下のいずれかで使用できます。

- SCC プロジェクト ■ サポートされているソースコード管理 (SCC) インターフェイス準拠の IDE のプロジェクト。このような IDE には、Microsoft Visual Basic、Microsoft Visual C++、Sybase PowerBuilder、Rational Rose Enterprise、Microsoft Visual Studio.NET などがあります。詳細については、[175 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。
- Web プロジェクト ■ サポートされている COM インターフェイス準拠の IDE の Web プロジェクト。このような IDE には Microsoft FrontPage があります。IDE クライアントをインストールし、Web プロジェクトで使用する方法については、[178 ページの『Web サーバへのインストール』](#)を参照してください。
- Visual Studio .NET プロジェクト ■ Microsoft Visual Studio 2003 のソリューションとプロジェクト。Visual Studio 2003 がローカル システムにインストールされている場合、Visual Studio 2003 用のプラグインをインストールできます。このプラグインにより、Version Manager と TeamTrack 機能への豊富な機能統合が提供されます。
- Eclipse プロジェクト ■ サポートされている Eclipse インターフェイス準拠のプロジェクト。このような IDE には、IBM Websphere Studio Application Developer および IBM Rational Application Developer があります。Eclipse がローカルシステムにインストールされている場合、Eclipse 用の通常のプラグインまたは Eclipse 用の豊富な機能統合プラグインをインストールできます。Eclipse 用の豊富な機能統合プラグインにより、Version Manager と TeamTrack の機能への豊富な機能統合が提供されます。



重要！ UNC パスでは Eclipse は正常に機能しません。UNC パスではなく、Version Manager インストールに対してマップされたドライブ、および Eclipse ベースの IDE で使用される Version Manager File Server パスを使用します。

必要なシステム構成

使用するシステムは、Version Manager readme ファイル (readmevm.html) に記載されている Version Manager のシステム要件を満たしている必要があります。

IDE クライアントを FrontPage Web プロジェクトで使用する場合は、サポートされている Web サーバがシステムにインストールされている必要があります。詳細については、[178 ページの『Web サーバへのインストール』](#)を参照してください。

IDE クライアントのマニュアル

『Serena ChangeMan Version Manager IDE クライアント操作ガイド』は Serena ChangeMan Professional スイート CD に収録されています。Version Manager マニュアルセットの一部としてインストールされます。IDE クライアントには、必要なすべての情報を参照できるオンラインヘルプも用意されています。IDE クライアントをインストールすると、[Start (スタート)] メニューの [Serena ChangeMan Version Manager IDE Client] プログラムグループからオンラインヘルプを表示したり、[Start (スタート)] メニューの Serena ChangeMan Version Manager マニュアルセットからオンラインマニュアルを表示できるようになります。

Serena ChangeMan Professional スイートのマニュアルの詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』を参照してください。

IDE クライアントのインストール

Microsoft SCC または Eclipse 準拠の IDE で IDE クライアントを使用する場合は、以下の手順に従ってください。IDE クライアントを Web サーバにインストールし、Microsoft FrontPage の Web プロジェクトで使用する方法については、[178 ページの『Web サーバへのインストール』](#)を参照してください。

ワークステーション インストール

IDE クライアントは、ローカルドライブまたはネットワーク上にインストールできます。ネットワークインストールを実行した場合は、その後にワークステーションインストールを行って、ネットワーク上にインストールされた共有バージョンのコンポーネントを実行することができます。ワークステーションインス

トールの実行方法については、59 ページの『ワークステーションインストールの準備』を参照してください。



重要！ ワークステーションインストールのコンポーネントをセットアップするには、IDE クライアントをネットワーク上にインストールする必要があります。ただし、IDE クライアントを FrontPage Web プロジェクトで使用する場合は、Web サーバに直接インストールします。

Version Manager IDE クライアントをインストールするには、次の操作を行います。



注 Version Manager IDE クライアントをインストールするには管理者の権限が必要です。

- 1 53 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、インストール手順を開始します。
- 2 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして〈Local (ローカル)〉または〈Network (ネットワーク)〉オプションを選択します。
- 3 インストールする Version Manager のコンポーネントとして、次のオプションを選択します。
 - 〈**SCC/COM IDE Client (SCC/COM IDE クライアント)**〉: SCC/COM 準拠の統合開発環境 (IDE) 内でバージョン管理を行うための IDE クライアントです。
 - 〈**Documentation (ドキュメント)**〉: Version Manager IDE クライアントのオンラインマニュアルです。
 - 〈**Plugin for Eclipse 2and 3 (Eclipse 2 および 3 用のプラグイン)**〉: IBM Websphere Studio Application Developer などの IDE ベースの Eclipse 2 および 3 と統合します。このプラグインは、TeamTrack SourceBridge および Tracker TrackerLink 経由で Serena Issue 管理と統合します。
 - 〈**Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (豊富な機能統合))**〉: IBM Rational Application Developer などの IDE ベースの Eclipse 3 と統合します。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合でき、Eclipse 2 および 3 用のプラグインより高度なソース管理統合を実現します。

- **〈Plugin for VS .Net (rich integration) (VS .NET 用のプラグイン (豊富な機能統合))〉**: Microsoft Visual Studio .Net 2003 と統合します。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合でき、SCC を使用する場合より、高度なソース管理機能統合を実現します。
 - **〈Workstation Install (ワークステーションインストール)〉** (ネットワークインストールでのみ使用可能): ワークステーションセットアッププログラムをインストールします。ユーザは、このプログラムを実行して、Version Manager と IDE クライアントをネットワークから実行できるように各自のワークステーションを設定します。
- 4 【Next (次へ)】をクリックします。IDE クライアントプロジェクトのデフォルトプロジェクトデータベースを選択する画面が表示されます。ここで選択したプロジェクトデータベースは、SCC 準拠の IDE でデフォルトとして選択されます。IDE クライアントのデフォルトプロジェクトデータベースの設定と使用方法については、『Serena ChangeMan Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。
- 5 〈Plugin for Eclipse 2and 3 (Eclipse 2 および 3 用のプラグイン)〉または〈Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (豊富な機能統合))〉を選択した場合、ダイアログボックスが表示されます。次のいずれかを行って、Eclipse ベースの IDE の場所を指定して、【Next (次へ)】ボタンをクリックします。
- リストにインストールパスを追加するには、【Add (追加)】ボタンをクリックします。次に、表示されるダイアログボックスで、IDE のインストール場所を指定します。
 - リストからインストールパスを削除するには、該当するインストールパスを選択して、【Remove (削除)】ボタンをクリックします。



注 インストールされている WebSphere Studio 5 および Rational Application Developer 6 は、このリストに自動的に表示されます。WebSphere Studio 4 および Eclipse をリストに追加する場合は、【Add (追加)】ボタンを使用します。

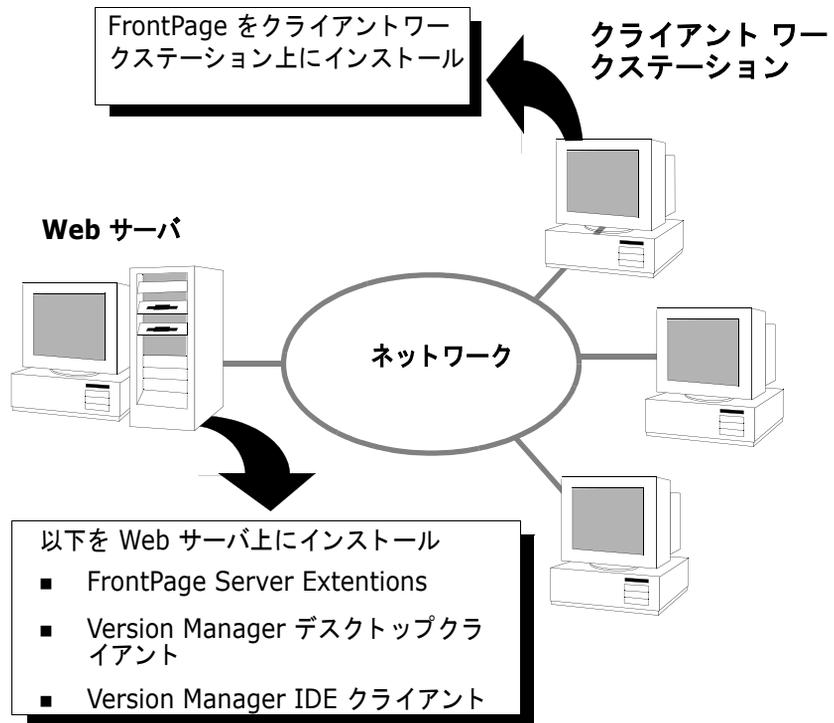
- 6 画面の指示に従って、インストールを完了します。

インストールが完了すると、Version Manager IDE クライアントがアクティブなソース管理プロバイダとしてシステムに登録され、サポートされている SCC または Eclipse 準拠の開発環境を次に起動したとき、その IDE クライアントにアクセスすることができます。IDE クライアントの使用法については、『Serena ChangeMan Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

Web サーバへのインストール

Microsoft FrontPage の Web プロジェクトで使用できるように Version Manager IDE クライアントをセットアップするには、次の手順を実行する必要があります。

- 1 FrontPage Server Extentions を、使用する Web サーバ上にインストールします。
- 2 Serena ChangeMan Version Manager IDE クライアントを、その Web サーバ上に直接インストールします。
- 3 必要に応じて、FrontPage をクライアントワークステーションにインストールします。



サポートされる Web サーバの設定

Version Manager IDE クライアントは、以下の Web サーバと互換性があります。

Web サーバ	オペレーティングシステム
Microsoft Internet Information Service 5.x	Windows 2000
Internet Information Service 6.x	Windows 2003

FrontPage Server Extensions のインストール

Windows 2000 または Windows 2003 サーバ上で Web サーバをセットアップした後、その Web サーバに FrontPage 拡張モジュールをインストールすることができます。

FrontPage サーバコンポーネントの詳細なインストール手順については、FrontPage に付属のマニュアルを参照してください。

Version Manager プロジェクトで使用できるように Web サーバを設定する方法については、『Serena ChangeMan Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

Version Manager IDE クライアントのインストール

IDE クライアントをインストールするとき、インターフェイスプロジェクトのデフォルトプロジェクトデータベースを選択する必要があります。FrontPage の場合は、デフォルトプロジェクトデータベースを Web サーバ上に配置してください。デフォルトプロジェクトデータベースを選択しない場合、デフォルトでは、新しいプロジェクトデータベースが自動的に作成されます。



重要！ FrontPage Web プロジェクトを使用する場合、Version Manager IDE クライアントを Web サーバ上に直接インストールする必要があります。クライアントワークステーションからインストールしないでください。

IDE クライアントを Web サーバにインストールするには、次の操作を行います。

- 1 53 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、インストール手順を開始します。
- 2 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして <Local (ローカル)> オプションを選択します。
- 3 インストールする Version Manager コンポーネントを選択する画面が表示されたら、以下を選択して、【Next (次へ)】をクリックします。
 - <Desktop Client (デスクトップクライアント)> : IDE クライアントで使用する Version Manager プロジェクトデータベースを作成し、管理します。
 - <SCC/COM IDE Client (SCC/COM IDE クライアント)> : 統合開発環境 (IDE) 内でバージョン管理を行うためのクライアントです。
 - <Documentation (ドキュメント)> : 『Version Manager IDE クライアント操作ガイド』がインストールされます (省略可能)。



注 FrontPage Web プロジェクトで使用するには、IDE クライアントを Web サーバに直接インストールする必要があります。したがって、ワークステーションインストールのコンポーネントを同時にインストールすることはできません。

- 4 IDE クライアントプロジェクトのデフォルトプロジェクトデータベースを選択する画面が表示されたら、次のいずれかを行います。
 - デフォルトのデータベースをそのまま使用する場合は、【Next (次へ)】をクリックします。デフォルトでは、IDE クライアントをインストールすると、IDE Project Database という名前のデフォルトプロジェクトデータベースが <VM_Install_Dir>\vm\common\vmdevint の下に作成されます。
 - 【Browse (...)] ボタンをクリックして、別のデフォルトプロジェクトデータベースを選択または作成します。その後、【Next (次へ)】をクリックします。



注 デフォルトプロジェクトデータベースは、Web サーバ上に物理的に存在するドライブに配置する必要があります。デフォルトプロジェクトデータベースを変更するには、IDE クライアントを再インストールして、別のデータベースを選択します。

- 5 画面に表示されるダイアログボックスの指示に従って、インストールを完了します。

クライアントワークステーションへの **FrontPage** または **Visual InterDev** のインストール

必要であれば、Version Manager IDE クライアントを Web サーバ上にインストールした後、FrontPage または Visual InterDev をクライアントワークステーションにインストールします。

FrontPage または Visual InterDev クライアントコンポーネントの詳しいインストール方法については、各製品に付属のマニュアルを参照してください。

インストールが完了した後、それぞれの Web 環境で Version Manager IDE クライアントを使用する方法については、『Serena ChangeMan Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

第 17 章

Version Manager Developer's Toolkit のインストール

Developer's Toolkit について	184
Developer's Toolkit のインストール	184
Developer's Toolkit のライセンス	186

Developer's Toolkit について

Version Manager のオプションのコンポーネントである Developer's Toolkit (DTK) は、Serena ChangeMan Version Manager および Serena ChangeMan Builder の機能へのインターフェイスを提供するアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) です。これらの機能を使用して、グラフィックアプリケーション、ワークベンチアプリケーション、コマンドラインアプリケーションを作成できます。

必要なシステム構成

DTK を Version Manager のコンポーネントとしてインストールする場合は、Version Manager readme ファイル (readmevm.html) に記載されているシステム要件を満たしている必要があります。Version Manager をインストールせずに、DTK のみをインストールする場合は、Version Manager readme ファイルに記載されている DTK のシステム要件を参照してください。

DTK のマニュアル

『Serena ChangeMan Version Manager Developer's Toolkit リファレンスガイド』は Serena ChangeMan Professional スイート CD に収録されています。Serena ChangeMan Professional スイートのマニュアルの詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』を参照してください。

Developer's Toolkit のインストール

Windows 版および UNIX 版の両方で、Version Manager インストール中に DTK インストールプログラムを選択できます。

Windows への DTK のインストール

Version Manager のインストール時に、DTK をインストールするよう選択することができます。デフォルトでは、DTK のインストールは選択されていません。

Windows に DTK をインストールするには

- 1 53 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。
- 2 インストールする Version Manager のコンポーネントを選択する画面で、〈Developer's Toolkit〉オプションを選択します。
- 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

Windows 上の DLL の場所

DTK により作成されたアプリケーションを実行するには、以下のいずれかの場所に DTK の DLL が配置されている必要があります。

- 〈System/Environment (システム環境変数)〉の PATH 変数で指定されているディレクトリ
- 実行ファイルを含むディレクトリ
- カレントディレクトリ
- WINDOWS ディレクトリ
- WINDOWS¥SYSTEM32 ディレクトリ

UNIX への DTK のインストール

Version Manager のインストール時に、DTK をインストールするよう選択することができます。デフォルトでは、DTK のインストールは選択されていません。

UNIX に DTK をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 68 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。
- 2 インストールする Version Manager のコンポーネントを選択する画面で、〈Developer's Toolkit〉オプションを選択します。
- 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

Developer's Toolkit のライセンス

DTK を購入しても、DTK を使って作成したアプリケーションを外部へ配布するための許可が与えられるわけではありません。

Version Manager の機能の配布

Serena ChangeMan Version Manager の機能呼び出すアプリケーションを組織の外部に配布する場合は、そのアプリケーションを使用するすべてのユーザについて Serena ChangeMan Version Manager のライセンスを購入するか、Serena と OEM 契約を結ぶ必要があります。

Serena Configuration Builder の機能の配布

Serena Configuration Builder の機能呼び出すアプリケーションを配布する場合は、Serena と OEM 契約を結ぶ必要があります。

第 18 章

WebDAV Server のインストール

はじめに	188
インストールの前に	188
Windows への WebDAV Server のインストール	189
UNIX への WebDAV Server のインストール	190
WebDAV Server のアンインストール	191
WebDAV Server の起動と停止	192
Microsoft IIS Web サーバの設定	194
iPlanet Web Server の設定	196
UNIX での Apache Web サーバの設定	199
Web サーバのテスト	202

はじめに

この章では、WebDAV Server のインストール方法、設定方法、および実行方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- WebDAV Server のインストール方法
- WebDAV Server の起動と停止
- WebDAV Server を使用できるように、サポートされている Web サーバを設定する方法
- WebDAV Server のアンインストール方法

以下については、『Serena ChangeMan Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』を参照してください。

- WebDAV Server を使用するための Version Manager の設定
- WebDAV Server の管理
- WebDAV クライアントの設定

インストールの前に

WebDAV Server は、Windows と UNIX 両方のオペレーティングシステムでサポートされています。サポート対象のプラットフォームとバージョンについては、Version Manager の readme ファイル (readmevm.html) を参照してください。

サポートされている Web サーバコンフィグレーション

WebDAV Server は、以下の Web サーバコンフィグレーションに対応しています。

Web サーバ	オペレーティングシステム
Microsoft Internet Information Service 5.x	Windows 2000
Microsoft Internet Information Service 6.x	Windows 2003
Apache 1.3.x (DSO サポート)	Solaris、HP-UX、AIX、Linux
Apache 2.0.43 以降 (DSO サポート)	Solaris、HP-UX、Linux
iPlanet 6.0 SP1	Solaris、HP-UX、AIX、Windows 2000、Windows 2003
Java System Web Server 6.1 SP1	Solaris、HP-UX

WebDAV Server のアップグレード

最新バージョンの WebDAV Server をインストールする前に、以前のバージョンの WebDAV Server をアンインストールすることをお勧めします。アンインストール方法については、以前のバージョンのマニュアルを参照してください。

Windows への WebDAV Server のインストール

Windows に WebDAV Server をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Administrator または管理者権限のあるユーザとしてログインします。
- 2 Version Manager のインストール手順 1 ~ 9 を実行します。53 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 3 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして〈Web Server (Web サーバ)〉オプションを選択します。

- 4 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして〈Version Manager WebDAV〉を選択します。
- 5 画面の指示に従って、インストールを完了します。

インストール時には、次の WebDAV プロパティのデフォルト値が使用されます。

プロパティ	デフォルト値
Tomcat ポート番号	8080
プロジェクトデータベース	サンプルプロジェクトデータベース（デフォルトでインストールされます）
ワークスペース	サンプルプロジェクトデータベースの Dev ワークスペース

WebDAV のプロパティとその変更方法については、『Serena ChangeMan Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』の『WebDAV Server の管理』を参照してください。

UNIX への WebDAV Server のインストール

WebDAV Server と Version Manager デスクトップクライアントの両方を使用するための権限をユーザに与えるには、次のガイドラインに従います。

- Version Manager を setuid モードで実行する場合は、権限が失われないよう、同じユーザ ID を使用して WebDAV Server をインストールしてください。
- Version Manager を setuid モードで実行しない場合は、WebDAV Server のグループ ID が、Version Manager ユーザのグループ ID と同じであることを確認してください。
- WebDAV Server をルートとしてインストールしないでください。

WebDAV Server を UNIX にインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。68 ページの『CD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 2 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして〈Version Manager WebDAV for UNIX〉を選択します。

3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

インストール時には、次の WebDAV プロパティのデフォルト値が使用されます。

プロパティ	デフォルト値
Tomcat ポート番号	8080
プロジェクトデータベース	サンプルプロジェクトデータベース
ワークスペース	サンプルプロジェクトデータベースの Dev ワークスペース

WebDAV のプロパティとその変更方法については、『Serena ChangeMan Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』の『WebDAV Server の管理』を参照してください。

WebDAV Server のアンインストール

WebDAV Server をアンインストールするには、次の操作を行います。

1 WebDAV Server および実行しているすべての Web サーバを終了します。
[192 ページの『WebDAV Server の起動と停止』](#)を参照してください。

2 次のいずれかの操作を行います。

Windows 版 :

- a [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] の順に選択し、〈アプリケーションの追加と削除〉を選択します。
- b リストから〈Serena ChangeMan Version Manager〉を選択し、【追加と削除】をクリックします。
- c 【変更】をクリックし、〈Version Manager WebDAV〉オプションを選択解除します。



注 キャッシュとログのディレクトリは削除されません。これらのディレクトリには、テンポラリファイル、ロック、リソースプロパティ、WebDAV ログなどの重要なデータが含まれています。データの内容を詳細に確認した後、手動で削除してください。

UNIX 版 :

<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/webapps/SampleDB.dav ディレクトリとその内容を削除します。

- 3 Web サーバの設定を変更した場合は、それぞれのファイルで変更を元に戻します。

WebDAV Server の起動と停止

WebDAV Server を起動するには、Tomcat を起動する必要があります。Tomcat は、WebDAV Server を実行するためのアプリケーションサーバです。評価時には、Tomcat をスタンドアロンで使用し、ポート番号 8080 を指定してアクセスします。または、サポートされているいずれかの Web サーバを設定し、Tomcat と併用することもできます。詳細については、194 ページの『Microsoft IIS Web サーバの設定』、199 ページの『UNIX での Apache Web サーバの設定』、および 196 ページの『iPlanet Web Server の設定』を参照してください。

Tomcat の詳細については、以下の Web サイトを参照してください。
<http://jakarta.apache.org/tomcat>

Web サーバで使用する場合の Tomcat の設定については、
<http://jakarta.apache.org/tomcat/tomcat-4.1-doc/jk2/> を参照してください。

WebDAV クライアントから WebDAV Server にアクセスするには、(設定されている Web サーバに加え) Tomcat をサーバマシン上で起動する必要があります。Tomcat を起動した後は、手動で終了するか、Tomcat がインストールされているマシンを終了しない限り、動作し続けます。



注 WebDAV Server、Version Manager File Server、および Version Manager Web サーバは、Tomcat の同じインスタンスを使用します。いずれかの機能を開始または停止すると、その他の機能も自動的に開始または停止します。

Windows で Tomcat を起動するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Serena] - [ChangeMan Version Manager] - [Version Manager Application Server] の順に選択します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。
- 2 【スタート】ボタンをクリックします。

UNIX で Tomcat を起動するには、次の操作を行います。

1 WebDAV Server のインストールを実行したユーザ ID でログインします。

2 以下のディレクトリに変更します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin
```

3 `./pvcstart.sh` と入力します。

Windows で Tomcat を停止するには、次の操作を行います。

1 [スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択します。

2 【Stop (停止)】ボタンをクリックします。

UNIX で Tomcat を停止するには、次の操作を行います。

1 WebDAV Server のインストールを実行したユーザ ID でログインします。

2 以下のディレクトリに変更します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin
```

3 `./pvcstop.sh` と入力します。

サービスとしての Tomcat の実行

1 Tomcat をサービスとして実行するには、[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。

2 【Install NT Service (NT サービスに登録)】ボタンをクリックします。

その後、サービスとしての Tomcat の実行を中止するには、【Remove NT Service (NT サービスから削除)】ボタンをクリックします。



注 WebDAV Server、Version Manager File Server、および Version Manager Web サーバは Tomcat の同じインスタンスを使用します。いずれかの機能で、サービスとしての Tomcat の実行を開始または停止すると、その他の機能でも同様に開始または停止されます。

Microsoft IIS Web サーバの設定

WebDAV Server を使用できるように Microsoft IIS 5.0 および 6.0 の Web サーバを設定するには、次の作業を行う必要があります。

- ISAPI リダイレクタを設定する
- セキュリティを設定する

これらの作業が完了したら、IIS を再起動する必要があります。

ISAPI リダイレクタの設定

リダイレクタ プラグインを使用するように IIS を設定します。これにより、IIS は Tomcat に要求を送信できるようになります。WebDAV Server の URL を入力したときに正しいサブレットが識別されるように、コンテキスト (/SampleDB.dav) をリダイレクタに追加することも必要です。

Version Manager Web サーバをインストールし、Version Manager Application Server Admin で IIS を有効にしている場合は、以下の手順 2 ~ 9 はスキップしてください。手順 10 に進みます。

ISAPI リダイレクタを設定するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから順に選択して、Microsoft Internet Information Services を起動します。
- 2 <Default Web Site (既定の Web サイト)> を選択し、[Action (操作)] - [New (新規作成)] - [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] の順に選択します。または、<Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックして、[New (新規作成)] - [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] の順に選択します。
- 3 仮想ディレクトリの作成ウィザードが表示されます。
 - a 仮想ディレクトリのエイリアスとして、jakarta と入力します。
 - b <VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\bin\win32\ と入力するか、【Browse (...)】をクリックして、このディレクトリを探します。
 - c 上記のディレクトリに実行権限を追加します。

- 4 メインウィンドウに戻ります。〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を選択し、[Action (操作)] – [Properties (プロパティ)] の順に選択します。または、〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックして、[Properties (プロパティ)] を選択します。
- 5 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択し、【Add (追加)】をクリックします。[Filter Properties (フィルタのプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 〈Filter Name (フィルタ名)〉フィールドに Jakarta と入力します。
- 7 <VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\bin\win32\ディレクトリに移動し、〈Executable (実行ファイル)〉フィールドで、isapi_redirect.dll ファイルを選択します。
- 8 【OK】をクリックします。
- 9 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブに戻ります。Jakarta フィルタの左側に、緑色の上向き矢印が表示されていることを確認してください。必要に応じて、IIS を再起動します。
- 10 〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を選択し、[Action (操作)] – [Properties (プロパティ)] の順に選択します。または、〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックして、[Properties (プロパティ)] を選択します。
- 11 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択し、【Add (追加)】をクリックします。[Filter Properties (フィルタのプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 12 〈Filter Name (フィルタ名)〉フィールドに TranslateF と入力します。
- 13 <VM_Install_Dir>\vm\webdav\bin ディレクトリに移動し、〈Executable (実行ファイル)〉フィールドで、MmtAdmDav.dll ファイルを選択します。
- 14 優先順位が自動的に 〈low (低)〉に設定されます。優先順位が不明な場合は、World Wide Web Publishing Service を再起動する必要があります。
- 15 【OK】をクリックします。
- 16 IIS を終了して、再起動します。

セキュリティの設定

WebDAV Server がユーザを認証できるように IIS を設定します。

セキュリティを設定するには、次の操作を行います。

- 1 Microsoft 管理コンソールで〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を選択し、[Action (操作)] - [Properties (プロパティ)] の順に選択します。または〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックして、[Properties (プロパティ)] を選択します。
- 2 [Directory Security (ディレクトリセキュリティ)] タブを選択し、〈Anonymous access and authentication control (匿名アクセスおよび認証コントロール)〉にある【Edit (編集)】ボタンをクリックします。
- 3 〈Anonymous access (匿名アクセス)〉が選択されていることを確認します。匿名アクセスが有効な場合は、ユーザに対する IIS 認証が省略され、すぐに WebDAV Server 認証が行われます。
- 4 〈Authenticated access (認証済みアクセス)〉で、〈Basic authentication (基本認証)〉と〈Integrated Windows (統合 Windows 認証)〉が両方とも選択されていることを確認します。
- 5 [Properties (プロパティ)] ダイアログボックスを閉じて、IIS を再起動します。

iPlanet Web Server の設定

WebDAV Server で使用できるように iPlanet Web サーバを設定するには、iPlanet のコンフィグレーションファイルを編集する必要があります。

iPlanet obj.conf ファイルの編集

iPlanet のコンフィグレーションファイルを編集して、iPlanet と Tomcat 間の通信を有効にします。

magnus.conf と obj.conf を編集するには、次の操作を行います (Windows 環境で iPlanet 6.0 を使用する場合)。

- 1 `<iPlanet_Install_Dir>/https-<server name>/config` にある `magnus.conf` ファイルを開きます。`<server name>` は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。

- 2 エントリ `Init fn=flex-init` の前に、以下の行を挿入します。



注 Version Manager Web サーバをインストールしており、さらに Version Manager Application Server Admin で iPlanet を有効にしている場合は、以下の最初の 2 つの `Init fn` 行は指定する必要がありません。Init `fn="load-modules"` 行以降を追加してください。

```
Init fn="load-modules" funcs="jk_init,jk_service" shlib="<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/bin/win32/
nsapi_redirect.dll"
Init fn="jk_init" worker_file="<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/conf/jk/workers.properties"
log_level="debug" log_file="<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/logs/nsapi.log"
Init fn="load-modules" funcs="init_pvc Dav_options,pvc Dav_options" shlib="<VM_Install_Dir>/vm/webdav/
bin/PvcServices.dll"
```

- 3 エントリ `<Object name=default>` の前に、以下の行を挿入します。

```
Init fn="register-http-method"
methods="PUT,GET,OPTIONS,POST,COPY,HEAD,INDEX,MOVE,MKDIR,DELETE,LOCK,MKCOL,PROP
FIND,PROPPATCH,UNLOCK,TRACE"
```

- 4 ファイルを保存して、閉じます。
- 5 `<iPlanet_Install_Dir>/https-<server name>/config` にある `obj.conf` ファイルを開きます。`<server name>` は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。
- 6 エントリ `NameTrans fn=document-root` の前に、以下の行を挿入します。

```
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav/*" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/_vti_bin/*" name="dav_servlet"
```

- 7 以下の行の先頭にシャープ記号 (#) を付け、コメント行にします。

```
# PathCheck fn="check-acl" acl="default"
```

- 8 Service method セクションに以下の行を挿入します。

```
Service method="OPTIONS" fn="pvc Dav_options"
```

- 9 ファイルの最後に以下の行を挿入します。

```
<Object name="dav_servlet">
ObjectType fn=force-type type=text/plain
Service fn="jk_service" worker="ajp13"
</Object>
```

10 ファイルを保存して、閉じます。

magnus.conf と obj.conf を編集するには (UNIX 環境で iPlanet 6.0 を使用する場合)

- 1** `<iPlanet_Install_Dir>/https-<server name>/config` にある `magnus.conf` ファイルを開きます。`<server name>` は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。
- 2** エントリ `Init fn=flex-init` の前に、以下の行を挿入します。`<os>` には、`solaris`、`hpux`、または `aix` を指定してください。`nsapi_redirector.*` および `PvcsServices.*` には、対応するファイル名拡張子を指定してください。



注 Version Manager Web サーバをインストールしており、さらに Version Manager Application Server Admin で iPlanet を有効にしている場合は、以下の最初の 2 つの `Init fn` 行は指定する必要がありません。`Init fn="load-modules"` 行以降を追加してください。

```
Init fn="load-modules" funcs="jk_init,jk_service" shlib="VM_Install_Dir/vm/tomcat/bin/<os>/
nsapi_redirector.*"
Init fn="jk_init" worker_file="VM_Install_Dir/vm/common/tomcat/conf/jk/workers.properties"
log_level="debug" log_file="VM_Install_Dir/vm/tomcat/logs/nsapi.log"
Init fn="load-modules" funcs="init_pvcs_dav_options,pvcs_dav_options" shlib="VM_Install_Dir/vm/webdav/
lib/<os>/PvcsServices.*"
```

- 3** エントリ `<Object name=default>` の前に、以下の行を挿入します。

```
Init fn="register-http-method"
methods="PUT,GET,OPTIONS,POST,COPY,HEAD,INDEX,MOVE,MKDIR,DELETE,LOCK,MKCOL,PROP
FIND,PROPPATCH,UNLOCK,TRACE"
```

- 4** ファイルを保存して、閉じます。
- 5** `<iPlanet_Install_Dir>/https-<server name>/config` にある `obj.conf` ファイルを開きます。`<server name>` は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。
- 6** このエントリの前に以下の行を挿入します。
`NameTrans fn="NSServletNameTrans":`

```
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav/*" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/_vti_bin/*" name="dav_servlet"
```

- 7** 以下の行の先頭にシャープ記号 (#) を付け、コメント行にします。
`# PathCheck fn="check-acl" acl="default"`

- 8 Service method セクションに以下の行を挿入します。

```
Service method="OPTIONS" fn="pvcs_dav_options"
```

- 9 ファイルの最後に以下の行を挿入します。

```
<Object name="dav_servlet">  
ObjectType fn=force-type type=text/plain  
Service fn="jk_service" worker="ajp13"  
</Object>
```

- 10 ファイルを保存して、閉じます。

UNIX での Apache Web サーバの設定

WebDAV Server を使用できるように Apache Web サーバを設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- Web サーバアダプタをインストールする
- Apache コンフィグレーションファイルを編集する

Web サーバアダプタのインストール

Apache と WebDAV Server 間で通信できるように、Web サーバアダプタをインストールします。Web サーバアダプタの詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

<http://jakarta.apache.org/tomcat/tomcat-4.1-doc/jk2/>

Web サーバアダプタをインストールするには、次の操作を行います。

- 1 以下のディレクトリに変更します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/bin/<os>
```

<os> には、aix、hpux、linux、または solaris を指定します。

- 2 mod_jk.so (Solaris、HP-UX、Linux)、または mod_jk.a (AIX) を <Apache_Install_Dir>/libexec にコピーします。

Apache コンフィグレーションファイルの編集

Apache コンフィグレーションファイルを編集し、Apache が Web サーバアダプタをロードして、初期化できるようにします。また、特定の要求を WebDAV Server へ転送できるようにします。同じ Tomcat 上の Apache に対応するように設定されている Serena File Server、Web サーバ、および WebDAV Server を使用できます。

この Tomcat で Serena File Server または Web クライアントのいずれかを使用するように、Apache が設定されている場合は、以下の手順を実行します。それ以外の場合は、[201 ページの『コンフィグレーションファイルを編集するには、次の操作を行います。』](#)に進んでください。

他の Serena 製品でコンフィグレーションファイルを編集するには、次の操作を行います。

- 1 root としてログインします。
- 2 ディレクトリを <Apache_Install_Dir>/conf に変更します。
- 3 httpd.conf ファイルを開きます。
- 4 Dreamweaver を統合するには、<IfModule mod_setenvif.c> と </IfModule> の間にある **Customize behavior based on browser** セクションに以下の行を追加します。

```
BrowserMatch "Dreamweaver.*" nokeepalive downgrade-1.0 force-response-1.0
```

- 5 同じ Tomcat を使用するように Apache 1.x または 2.x を設定した場合、ファイルの最後に以下の行が含まれていることを確認します。以下の行がない場合は、挿入してください。

Apache 1.x の場合

```
#include the jk adapter config file  
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/httpd_pvcs.conf
```

Apache 2.x の場合

```
#include the jk adapter config file  
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/httpd2_pvcs.conf
```

- 6 .conf ファイルに以下の行が含まれていることを確認します。ない場合は、ファイルの最後に追加してください。

```
JkMount /SampleDB.dav ajp13  
JkMount /SampleDB.dav/* ajp13
```

7 ファイルを保存して、閉じます。

同じ Tomcat で他の Serena 製品を使用していない場合、以下の手順を実行してください。

コンフィグレーションファイルを編集するには、次の操作を行います。

- 1 root としてログインします。
- 2 ディレクトリを <Apache_Install_Dir>/conf に変更します。
- 3 httpd.conf ファイルを開きます。
- 4 Dreamweaver を統合するには、<IfModule mod_setenvif.c> と </IfModule> の間にある Customize behavior based on browser セクションに以下の行を追加します。

```
BrowserMatch "Dreamweaver.*" nokeepalive downgrade-1.0 force-response-1.0
```

- 5 他の Serena アプリケーションで同じ Tomcat を使用するように Apache を設定していない場合、ファイルの最後に以下の行を追加します。

```
#include the jk adapter config file
include <VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/conf/jk/mod_jk.conf
```

- 6 ファイルを保存して、閉じます。
- 7 同じディレクトリに新しい mod_jk.conf ファイルを作成します。



注 このファイルがすでに存在する場合は、既存のファイルの名前を mod_jk.conf.old に変更して、mod_jk.conf ファイルを新しく作成してください。

- 8 mod_jk.conf ファイルに以下の行を追加し、ファイルを保存します。AIX で使用する場合は、2 行目の mod_jk.so を mod_jk.a に置き換えます。

```
<IfModule !mod_jk.c>
LoadModule jk_module <Apache_Install_Dir>/libexec/mod_jk.so
</IfModule>
JkWorkersFile "<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/conf/jk/workers.properties"
JkLogFile "<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/logs/mod_jk.log"
JkLogLevel error
JkMount /admin ajp13
JkMount /admin/* ajp13
JkMount /examples ajp13
JkMount /examples/* ajp13
JkMount /SampleDB.dav ajp13
JkMount /SampleDB.dav/* ajp13
```

Web サーバのテスト

IIS、iPlanet、または Apache を設定した後、Web サーバへの接続をテストするには、Windows マシンに Web フォルダまたはネットワークプレースを追加します。

Web サーバをテストするには、次の操作を行います。

- 1 WebDAV Server および設定されている Web サーバを起動します。192 ページの『WebDAV Server の起動と停止』を参照してください。
- 2 Windows エクスプローラを開きます。
- 3 〈マイネットワーク〉を選択し、〈ネットワークプレースの追加〉アイコンをダブルクリックします。
- 4 次の場所を入力します。

`http://<hostname>:<port>/SampleDB.dav`

<hostname> は Web サーバを実行しているシステムの名前です。<port> は Web サーバのポート番号です（デフォルト設定は 8080）。

- 5 【次へ】をクリックします。

プロジェクトデータベースにログインして内容を表示することができれば、Web サーバが正しく設定されています。

第 19 章

Meritage のインストール

はじめに	204
インストールの前に	204
Meritage Admin Wizard	205
Meritage エンドユーザの設定	207
インストール後の作業	208

はじめに

この章では、Serena ChangeMan Meritage のインストール方法、設定方法、および実行方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- エンドユーザインストールの作成
- エンドユーザセットアップの実行

以下については、『Serena ChangeMan Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』を参照してください。

- Meritage を使用する場合の WebDAV Server のセットアップと構成
- WebDAV Server の起動
- 追加のプロジェクトデータベースの設定

インストールの前に

- | | |
|-------------------------|---|
| サポートされているプラットフォーム | Meritage は Windows オペレーティングシステムでサポートされています。サポート対象のプラットフォームとバージョンについては、Serena ChangeMan Version Manager readme ファイルの Meritage セクションを参照してください。 |
| ライセンスサーバの設定 | Meritage を使用するには、Serena License Server をインストールして、設定する必要があります。Meritage Admin Wizard を実行すると、ライセンスサーバの名前または IP アドレスを指定するための画面が表示されます。サーバ名または IP アドレスをインストール時に入力しない場合は、Meritage をシステム上でセットアップする際、この情報をエンドユーザが入力する必要があります。 |
| Version Manager のインストール | さらに、Meritage を使用するには、Version Manager をインストールし、WebDAV Server マシン上で Version Manager プロジェクトデータベースを設定する必要があります。 |

Meritage Admin Wizard

Meritage Admin Wizard を使用して、エンドユーザインストールプログラムを作成します。Admin Wizard は、プロジェクトデータベースを設定し、ユーザ用のライセンスサーバを指定するためのツールです。Admin Wizard でエンドユーザインストールを作成しておけば、ユーザのインストールに必要なファイルを共有ネットワークドライブ上へ簡単に配置できます。

Meritage Admin Wizard でエンドユーザインストールを作成するには

- 1 Serena ChangeMan Professional スイート CD に収められている MeritageAdminWizard.exe を実行します。
- 2 [Welcome to the Meritage Wizard] 画面で、〈Create the Meritage end user setup〉オプションを選択し、【Next】をクリックします。
- 3 ユーザセットアップを作成するローカルフォルダまたはネットワーク上のフォルダを選択し、【Next】をクリックします。
- 4 Meritage で使用するプロジェクトデータベースの名前と場所を設定します。
 - a Version Manager プロジェクトデータベースの名前を入力します。これは、エンドユーザが Microsoft Office アプリケーションから操作するプロジェクトデータベースです。ここで指定する名前は、Version Manager のプロジェクトデータベース名と同じでなくてもかまいません。必要であれば、WebDAV Server の場所など、その他の情報を名前に含めることができます。
 - b プロジェクトデータベースを管理している WebDAV Server マシンの HTTP アドレスを入力します。デフォルトの WebDAV Server 設定を使用する場合、アドレスは次のようになります。
`http://<<localhost>>:8080/SampleDB.dav`
 - c WebDAV Server を実行している場合、【Test Connection (接続テスト)】ボタンをクリックして、入力したアドレスが正しいかどうかをテストできます。ログインダイアログボックスが表示されたら、有効な Version Manager プロジェクトデータベースの有効なユーザ名とパスワードを入力します。WebDAV Server がサンプルプロジェクトデータベースに接続されている場合は、ユーザ名として Admin を使用できます。パスワードを入力する必要はありません。接続に成功したら、【Add (追加)】ボタンをクリックします。
 - d WebDAV Server が複数のプロジェクトデータベースに接続するよう設定されている場合、または複数の WebDAV Server を実行している場合は、ここで複数の HTTP アドレスを入力できます。それ以外の場合は、【Next】をクリックします。

- 5 ライセンスサーバを実行しているマシンの名前または IP アドレスを入力し、【Next】をクリックします。マシン名または IP アドレスを入力しなくても、インストールを完了することができます。ただし、評価版を使用していないかぎり、Meritage を最初に実行するときに、エンドユーザがこの情報を入力する必要があります。
- 6 【Summary】画面で選択内容を確認し、【Next】をクリックします。

指定した場所にエンドユーザインストールが作成され、Meritage を使用するすべてのユーザに配布できるようになります。ユーザは、管理者が指定したプロジェクトデータベースを操作できます。

エンドユーザプロジェクト定義の更新

エンドユーザインストールを作成した後で、ライセンスサーバを変更したり、新しいプロジェクトデータベースを定義したりできます。

- 1 Serena ChangeMan Professional スイート CD に収められている MeritageAdminWizard.exe を実行します。
- 2 【Welcome to the Meritage Wizard】画面で〈Create script to update Meritage project and license server definitions....〉オプションを選択し、【Next】をクリックします。

このオプションを選択すると、Version Manager プロジェクトデータベースの http アドレスを既存の Meritage クライアントインストールに追加するためのレジストリスクリプトを作成できます。

- 3 この更新スクリプトのローカルフォルダまたはネットワーク上のフォルダを選択し、【Next】をクリックします。
- 4 新しい名前とサーバアドレスを入力するか、または既存の情報を更新して、【Next】をクリックします。
- 5 ライセンスサーバのホスト名または IP アドレスを指定し、【Next】をクリックしてエンドユーザ設定を更新します。

このプロセスによって、MeritageUpdate.msi ファイルが生成されます。このファイルを Meritage ユーザに配布する必要があります。Meritage ユーザがこのファイルを実行すると、レジストリが更新され、新しい定義が反映されます。

Meritage エンドユーザの設定

Admin Wizard を実行すると、Meritage エンドユーザのセットアップに必要な 4 つのファイルが生成されます。

- MeritageSetup.exe
- dotnetfx.exe
- settings.ini
- Setup.msi

Meritage クライアントインストールを実行するには、特定バージョンの .NET Framework が必要です。エンドユーザのシステムに .NET Framework がインストールされていない場合は、Meritage によって自動的にインストールされます。エンドユーザのシステムに .NET Framework がインストールされている場合、バージョンの異なる .NET Framework を併用する場合でも競合は発生しません。同一マシン上で複数バージョンの .NET Framework を実行し、異なるアプリケーションで使用することができます。

Meritage エンドユーザアプリケーションをインストールするには

- 1 Microsoft Office アプリケーションをすべて終了します。Word を電子メールエディタとして使用している場合は、Outlook も終了してください。
- 2 Meritage Wizard の指示に従い、該当する場所にある MeritageSetup.exe をクリックします。
- 3 使用権許諾契約の内容を確認し、同意する場合は〈I Agree〉を選択して、【Next】をクリックします。
- 4 Meritage をインストールする場所を入力し、【Next】をクリックしてインストールを完了します。

インストール手順の最後の画面に、Meritage の使用方法が表示されます。この説明は、Meritage オンラインヘルプでも参照できます。

インストール後の作業

インストールが完了すると、Meritage ユーザは Word、Excel、PowerPoint を開くことができます。Microsoft Outlook を含め、インストール中、これらのうちいずれかのアプリケーションが開いており、Word をエディタとして使用している場合は、それらすべてのアプリケーションを終了して再起動しないかぎり、Meritage DLL がロードされません。Meritage をインストールすると、Meritage メニューが表示されます。

Serena ChangeMan Meritage の基本操作

Meritage の概念と操作手順、および基本操作については、Meritage オンラインヘルプを参照してください（[Help] - [Meritage Help]、または [Meritage] - [Help] を選択します）。オンラインヘルプには、各環境での Meritage の利用方法の理解に役立つ使用例も記載されています。

索引

A

Adobe Acrobat Reader、UNIX での設定 88
Apache DSO サポート 140
Apache Web サーバ
 httpd.conf の編集 200
 mod_jk.conf の編集 200
 Web サーバアダプタのインストール 199
 起動 145
 サブレットの定義 135
 実行 145
 設定 115, 199
 停止 145

C

CD-ROM 53

D

DateTimeFormat 初期化引数 127
defaultPassword 初期化引数 126
Developer's Toolkit
 DLL の場所 185
 UNIX へのインストール 185
 Windows へのインストール 184
 概要 184
 機能の配布とライセンス 186
 システム要件 184
 配布時のライセンス 186
Developer's Toolkit の再配布 186
DLL、場所の確認 185
DSO サポート、Apache 140

F

FAT ファイルシステム 83
File Server 89
FrontPage
 Server Extensions、インストール 179
 Version Manager での使用 24

H

http.conf 200, 201

I

IDE クライアント
 インストール
 SCC プロジェクト 175
 Web プロジェクト 175
 インストールプラン 24
 概要 174
 システム要件 175
IDE、サポート対象 ide! サポート
 タイショウ 24
iPlanet Web Server 143
 obj.conf の編集 196
 Version Manager Web サーバのアンインストール、UNIX 169
 Version Manager Web サーバのアンインストール、Windows 166
 Web サーバインスタンスの起動と停止 142
 サーバの初回の起動 142
 サーバの停止 143
 サブレットの定義 134
 サポートされているバージョン 97
 初回およびそれ以降の起動 142

設定 196
設定、UNIX 113, 115
設定、Windows 106
IP アドレス、プロジェクトリンクの生成時
126
ISAPI リダイレクタ 194
ISLV.INI 61, 62

J

java サブレット 124
Java のクラスとオブジェクト 124

L

LDAP ID 76
License Manager ツール、開く方法 35
[Login (ログイン)] ダイアログボックスのロ
グインソース 76
LogIn ディレクティブ 76
logtimeout 初期化引数 127

M

Meritage
Meritage Admin Wizard、エンドユーザイン
ストールの作成 205
インストール方法 205
Microsoft Internet Explorer 101
Microsoft Internet Explorer のパッチ 101
Microsoft Internet Information Service
ISAPI リダイレクタの設定 194
Version Manager Web サーバのアンインス
トール、Windows 167
Web サーバインスタンスの起動と停止 144
サーバの起動 144
サーバの停止 144
サポートされているバージョン 97
セキュリティの設定 195
設定 107, 194
Microsoft Windows ネットワーク 77
Motif 19

N

Netscape Communicator 101
Netware ID 76
NFS 19, 23
nfsmap ファイル 116

O

obj.conf 196

P

pvcsgrp 66
pvcsproj.pub データファイル 125
pvcs ユーザ 66

R

readme ファイル 100
rootPath 初期化引数 125

S

Samba 19
Secure Socket Layer
暗号 152
設定とユーザの接続 153
セットアップ 153
説明 152
データ保全体保護 152
認証 152
ユーザの接続 153
Serena
Configuration Builder 186
TeamTrack URL
Windows での定義 130
TeamTrack とサブレット 126
Tracker URL
Windows での定義 130
Tracker とサブレット 126
インストールルート 114
問い合わせ先 14

serverName 初期化引数 126

setuid

- クロスプラットフォーム環境で使用 73
- セキュリティの強化 64
- モード 113

Solaris

- オンラインヘルプ用ブラウザの定義 88
- ブラウザの設定 87

T

Tomcat

- 起動と停止 192
- 説明 192

trackerName 初期化引数 126

U

UFS 19

umask 19, 113

Universal Resource Locator

- 「URL」を参照

UNIX

- Adobe Acrobat Reader の設定 88
- Developer's Toolkit のインストール 185
- setuid 64
- Version Manager に必要な環境設定 84
- Version Manager のインストール 68
- インストールディレクトリ構造 66
- 環境変数の設定 84
- クロスプラットフォームインストールの実行プラン 23
- サポートされているプラットフォーム 19
- サポートされているログインソース 77
- システム要件 19
- ディレクトリ権限 67
- デフォルトのインストール構造 66
- ファイルとデータの保護 82
- ブラウザの設定 87
- ユーザアカウントの作成 66
- ワークステーションのライセンス 43

UNIX での評価版ライセンス 69

UNIX の設定

- setuid 113
- umask 113

UNIX プラットフォーム

- iPlanet Web Server の設定 113
- Tracker プロジェクト名 126
- Version Manager Web サーバのアンインストール 169
- Version Manager Web サーバのインストール 114
- Version Manager Web サーバの起動と停止 149
- Version Manager Web サーバの実行、起動、および停止 149
- Version Manager Web サーバのセットアップとインストール 112
- 権限の設定 113
- サブレットの設定 132
- タイムアウト 127
- デーモンの無効化 159
- デフォルトパスワード 126
- UNIX への WebDAV Server のインストール
- Apache Web サーバの設定 199
- URL
- Tomcat の関連サイト 192
- Tracker プロジェクトへの割り当て 126
- サブレット 124, 125
- サブレットへの割り当て 125

V

VCSID 環境変数 77

Version Manager

- UNIX 上でユーザアカウントを作成 66
- UNIX へのインストール 68
- Windows 上で登録 58, 71
- Windows へのインストール 53
- アクセスコントロール 120
- コンポーネント図 99
- テンポラリファイル 161
- プロジェクトデータベースの概要 118
- ユーザ名とパスワード 119

Version Manager Application Server
Admin

起動 128

Version Manager File Server 89

Version Manager Web クライアントへの
ユーザの接続 150

Version Manager Web クライアント

- Tracker URL 126
- Web サーバ上でのイベントトリガの起動 120
- インストールのセットアップ 100
- 概要 100
- 基本情報 98
- クライアントのセットアップ 100
- サブレットへのアクセス 137
- サブレット名の割り当て 124
- 最大アイドル時間の指定 127
- 説明 98
- タイムアウト 127
- デフォルトのパスワードマスク 121
- デフォルトパスワードの指定 126
- 必要な Web サーバ 98
- プロジェクトの説明をデータベースページに追加 125
- ユーザと権限の設定 120
- ユーザの接続 150
- ユーザ名とパスワード 119, 121
- ログインパスワード 121

Version Manager Web サーバ

- readme ファイル 100
- UNIX からアンインストール 169
- UNIX 環境でのセットアップとインストールの概要 112
- UNIX 環境のサブレット 132
- UNIX でのインストール手順 114
- UNIX での起動 149
- UNIX でのサブレットの削除 136
- UNIX でのサブレットの追加 133
- UNIX でのサブレットへのアクセス 137
- UNIX での実行、起動、および停止 149
- UNIX での停止 149
- UNIX へのインストール 113
- Windows インストール手順 105
- Windows からアンインストール 166
- Windows 環境でのセットアップとインストールの概要 104
- Windows 上のサブレット 128
- Windows での起動 148
- Windows でのサブレットの設定 128
- Windows での実行、起動、停止 148
- Windows での停止 148
- Windows へのインストール 105
- インストールのセットアップ 100
- インストールプラン 25
- 概要 96

- 管理者による設定作業 99
- サブレットの実行 107
- サブレットの変更または削除、Windows 131
- サブレットリンク 137
- システム要件 100
- 使用にはプロジェクトデータベースが必要 118
- 設定 99
- 設定ユーティリティ 106
- 説明 96
- デーモンの設定 157
- テンポラリファイル 161
- パフォーマンス最適化の推奨事項 156
- パフォーマンスについての考慮事項 155
- プロジェクトデータベースの必要性 118
- プロジェクトの有効化 125

Version Manager Web サーバのアンインストール

- UNIX 169
- Windows 166

Version Manager Web サーバのオプションインストールタスク

- UNIX プラットフォーム 113
- Windows プラットフォーム 105

Version Manager Web サーバのサブレット

- 124
- 「サブレット」も参照

Version Manager のコンポーネント

- Version Manager Web クライアント 98
- Web サーバ 97
- 管理者による設定作業 99
- 関連図 99
- クライアントのセットアップ 100
- サーバのセットアップ 100

VLOGIN 76

W

WebDAV Server

- UNIX 上にインストール 190
- UNIX での起動 193
- UNIX での停止 193
- Windows 上にインストール 189
- Windows での起動 192
- Windows での停止 193

- アンインストール 191
 - インストールプラン 25
 - WebDAV Server のアンインストール 191
 - Web サーバ
 - Apache DSO サポート 140
 - Apache Web サーバのインスタンス 145
 - Apache Web サーバの実行 145
 - Apache の設定 199
 - Development Interface
 - のインストール 178
 - iPlanet Web Server のインスタンス 142
 - iPlanet Web Server の実行 142
 - iPlanet の設定 196
 - Microsoft IIS の設定 194
 - Microsoft Internet Information Service の実行 144
 - Secure Socket Layer 152
 - Version Manager Web サーバの最適化 161
 - アクセスコントロール 152
 - イベントトリガと Version Manager Web クライアント 120
 - インストール 140
 - 購入方法 97
 - サーバ名 141
 - セキュリティの設定 141
 - 設定 141
 - 設定、UNIX 114
 - 設定、Windows 107
 - 設定、サポート対象 179
 - ソフトウェアのインストールと設定 141
 - ファイアウォール 153
 - ポート 141
 - Web サーバ URL
 - 説明 126
 - Web サーバアダプタ 199
 - Web ブラウザ
 - Internet Explorer の設定 101
 - Windows
 - Developer's Toolkit のインストール 184
 - Development Interface
 - のインストール 174
 - DLL の場所 185
 - Version Manager のインストール 53
 - インストールディレクトリ構造 53
 - 開発インターフェイスのインストールプラン 24
 - クロスプラットフォームインストールの実行プラン 23
 - システム要件 19
 - ネットワーク 77
 - 評価版のインストール 54
 - ファイルとデータの保護 83
 - ブラウザの設定 87
 - ワークステーションインストールの準備 59
 - ワークステーション / サーバインストールのプラン 22
 - ワークステーションのセットアップ 61
 - ワークステーションのセットアッププログラムの実行 62
 - Windows 上に WebDAV Server をインストール
 - iPlanet Web Server の設定 196
 - Microsoft IIS の設定 194
 - Windows プラットフォーム
 - Microsoft IIS の設定 107
 - Tracker プロジェクト名 126
 - Version Manager Web
 - サーバのアンインストール 166
 - Version Manager Web
 - サーバのインストール 105
 - Version Manager Web
 - サーバの起動と停止 148
 - Version Manager Web サーバの実行、起動、および停止 148
 - インストールとセットアップの概要 104
 - サブレットの設定 128
 - タイムアウト 127
 - デーモンの無効化 158
 - デフォルトパスワード 126
 - Windows への Version Manager Web サーバのインストール
 - インストール手順 105
 - インストール前の要件 100
 - WNet ID 77
- X**
- X Windows 19

あ

アーカイブ

- Version Manager Web クライアントを使用するタスク 98
- インターネットまたはイントラネット経由でのアクセス 96
- 格納場所とネットワーク速度 157
- テンポラリファイル 161
- バージョン間のデルタ (差分) ファイル 162

アクセスコントロール

- SSL との比較 141
- セキュリティ
 - Version Manager 120
 - Web サーバ 141, 152
- データベース
 - 有効化 77
 - ユーザ ID を自動的に作成 77
- データベースの設定 119
- デフォルトのパスワード 120, 121
- パスワードとユーザ名の管理 152

アップグレード

- Version Manager 5.3/6.0 21
- アップグレードしない場合の制約 21

アプレット

- Version Manager Web クライアント 100

アプレットコンポーネント 100

暗号セキュリティ、Web サーバ 152

アンチウィルスユーティリティとインストール 105

インストール

- IDE クライアント 174
- Microsoft Internet Explorer 101
- Serena ルート 114
- setuid モード 64
- UNIX 上での Version Manager Web サーバ 114
 - インストール手順 114
 - インストールの概要 112
 - インストール前の要件 100
 - 権限の設定 113
- UNIX 上に WebDAV Server
 - iPlanet Web Server の設定 196
 - インストール手順 190
- UNIX に Developer's Toolkit 185
- UNIX 版 68

Version Manager Web サーバのインストール前 100

Web サーバ 140

Web サーバソフトウェア 141

Windows 上での Version Manager Web サーバ 105

iPlanet Web Server の設定 106

Microsoft IIS の設定 107

インストールの概要 104

セットアッププログラム 105

Windows 上に WebDAV Server

インストール手順 189

Windows に Developer's Toolkit 184

Windows 版 53

Windows 用評価版 54

概要 175

システム要件 100

ディレクトリ構造

UNIX 66

Windows 53

ワークステーション / サーバインストール 22

エイリアス

サーバ名で使用される DNS 名 141

エンドユーザインストールの設定 205

オンライン登録 26, 71

UNIX 71

Windows 58

概要 26

オンラインヘルプ

Solaris 用ブラウザの定義 88

アクセス 13

コマンドラインインターフェイス 13

デスクトップクライアント用 13

か

開発環境、サポート対象 24

仮想 Web ディレクトリ、設定 107

環境変数

UNIX での設定 84

VCSID 77

管理者

iPlanet Web Server の権限 142

既存のプロジェクトデータベース 118

設定 99

管理者による設定作業 99

技術サポート

- アカウントの取得 26
- 問い合わせ先 11

規則、表記上 13

共通デスクトップ環境 19

クライアントのセットアップ 100

クロスプラットフォーム

- NFS の使用 19
- Samba の使用 19
- setuid の使用 73
- インストールプラン 23
- ネットワーク 19

権限

- UNIX 版 67
- Version Manager Web クライアントとアクセスコントロール 120
- Version Manager Web クライアントのアクセスの設定 120
- Version Manager Web サーバ、ユーザ ID とグループ ID 113, 114

構成

- パフォーマンス最適化の推奨事項 160

コマンドラインインターフェイス

- ログインソースの定義 80

コンフィグレーション

- Version Manager Web サーバのサブレット 124
- Windows 上の Version Manager Web サーバサブレット 128
- サブレットのサーバ名 126
- サブレットの日付 / 時間の形式 127
- サブレットのルートパス 125
- サブレットのログインタイムアウト 127

設定

- Version Manager Web クライアント
 - デフォルトパスワード 126
 - 日付 / 時間の形式 127
 - ログインタイムアウト 127
- Version Manager Web サーバ
 - Web サーバ URL 126
 - 概要 124
 - サーバ名 126
 - サブレット URL 125
 - サブレット名 124
 - 説明 125
 - プロジェクトルート 125

コンポーネントのイベントトリガ動作 120

さ

サーバ、サーバでのインストールプラン 22

サーバと serverName 設定 126

サーバの 2 回目以降の起動 143

サーバの初回の起動 142

サーバ名

- Windows での指定 129
- 説明 141

サブレット

- Apache での定義 135
- iPlanet での定義 134
- Serena Tracker 126
- UNIX でのアクセス 137
- UNIX での削除 136
- UNIX での設定 132
- UNIX での追加 133
- UNIX での変更 136
- Windows での設定 128
- Windows での追加 128
- Windows での変更 131
- Windows で変更または削除 131
- アクセス 137
- 概要 124
- 起動と停止 107
- 削除した場合は復元不可能 131
- 定義と概要 124
- 名前、説明、URL 125
- 「サブレットの設定」も参照

サブレット URL

- Windows での設定 129
- 説明 125

サブレットエンジン 192

サブレット名

- Windows での設定 129
- 説明 124

サイズの大きいファイルのリビジョン 162

サイズの大きいファイルリビジョンの差分 162

システムの考慮事項、

- パフォーマンスの向上 156

システム要件

- Developer's Toolkit 184
- Development Interface 175
- Microsoft Internet Explorer のパッチ 101

- UNIX 19
- Version Manager Web サーバ 100
- Windows 19
- 指名ユーザライセンス
 - シナリオ 29
 - 定義 29
- 初期化引数
 - DateTimeFormat 127
 - defaultPassword 126
 - logtimeout 127
 - rootPath 125
 - serverName 126
 - trackerName 126
- シリアル番号
 - ライセンスキー 105
- シンクライアントのインターフェイス 96, 100
- 図
 - [Servers (サーバ)] タブ 148
 - [Servlet (サーブレット)] タブ 129
 - Version Manager コンポーネントの関係 99
 - [Servers (サーバ)] タブ 106
- 推奨
 - Web サーバ 97
 - プロジェクトファイルの格納場所 156
 - メモリと速度 156
- 製品サポート 11, 14
- 製品のシリアル番号 105
- セキュリティ
 - Microsoft IIS 195
 - Version Manager
 - Version Manager Web クライアントのユーザ名 121
 - アクセスコントロール 120
 - Version Manager Web
 - クライアントの制限 98
 - Web サーバ
 - Secure Socket Layer 141
 - アクセスコントロール 141, 152
 - アーカイブ 96
 - ファイアウォール 153
 - プロジェクトデータベースのアクセスコントロール 120
- セッションの終了 127
- 設定
 - Apache Web サーバ 199
 - iPlanet Web Server 196
 - Microsoft Internet Information Service 194
 - UNIX 環境のサーブレット 132
 - UNIX 上での Version Manager Web サーバ 114
 - UNIX 上での Version Manager Web サーバサーブレット 132
 - Version Manager Web クライアントとデフォルトのパスワード 121
 - Version Manager Web クライアントのタイムアウト 127
 - Version Manager Web サーバの設定、Windows 106, 107
 - Web サーバ 141
 - Web サーバソフトウェア 141
 - Web ブラウザ 101
 - Windows 上での Version Manager Web サーバ 105
 - Windows 上でのサーブレット 128
 - インストール時のサーバ設定、Windows 106
 - 仮想 Web ディレクトリ 107
 - 設定
 - Web サーバ
 - サーバ名 141
 - ポート 141
 - プロジェクト 120
 - プロジェクトデータベースのオプション 119
- 説明
 - Windows での設定 129
 - [Project Databases(プロジェクトデータベース)] ページに追加 125
- た
- タイムアウト、Version Manager Web クライアントの設定 127
- 追加
 - UNIX 環境のサーブレット 133
 - Windows 上でのサーブレット 128
- ディレクティブ、LogIn 76
- ディレクトリ権限
 - UNIX 版 67, 82
 - Windows 版 83
- ディレクトリ構造
 - UNIX 環境 66
 - Windows インストール 53

- データ保水性保護、Web サーバ 152
 - デーモン 157
 - デスクトップクライアント
 - アクセスコントロールデータベースのユーザを作成 77
 - ログインソースの定義 78
 - デフォルト
 - Web サーバの設定webサーバノセッテイ 141
 - Version Manager Web クライアントのオプション
 - 説明 126
 - Version Manager Web クライアントのパスワード 121
 - Web サーバ 192
 - インストール時の NFSMAP ファイル 116
 - パスワード 126
 - Version Manager Web クライアント
 - Windows での指定 130
 - パスワードマスク 120, 121, 126
 - プロジェクトデータベース 180
 - テンポラリファイル
 - ディスク容量に関する考慮事項 161
 - ディレクトリの場所 161
 - 同時使用ライセンス
 - 定義 29
 - 動的共有オブジェクトのサポート、Apache 140
 - 登録 58, 71
 - ドキュメント
 - Developer's Toolkit 184
- な**
- 認証保護、Web サーバ 152
 - ネットワーク、クロスプラットフォーム 19
 - ネットワークポロジ、スイショウ 156
- は**
- 配布
 - Serena Configuration Builder の機能 186
 - Version Manager の機能 186
 - パスワード
 - Version Manager Web クライアントのデフォルトマスクの設定 126
 - Version Manager Web クライアントのログイン 121
 - Version Manager Web クライアントの使用 121
 - Web サーバで使用 152
 - プロジェクトデータベース 119
 - パフォーマンスについての考慮事項
 - システム 156
 - デーモン 157
 - ネットワークポロジ 156
 - 日付 / 時間の形式
 - Windows での指定 130
 - 評価版
 - Windows へのインストール 54
 - 評価版ライセンス、アップグレード 46
 - 表記上の規則 13
 - ファイアウォール 153
 - ファイル、格納場所についてのガイドライン 156
 - ファイルとデータの保護
 - UNIX 版 82
 - Windows 版 83
 - ファイルの格納場所、推奨事項 156
 - ブラウザ
 - UNIX での設定 87
 - Windows での設定 87
 - プランニング
 - 開発インターフェイスのインストール 24
 - クロスプラットフォームインストール 23
 - ワークステーション / サーバインストール 22
 - フローティングライセンス 29
 - プロジェクト
 - Version Manager Web
 - サーバでの有効化 125
 - アーカイブのガイドライン 157
 - 準備 118
 - 設定 120
 - ファイルの格納場所についてのガイドライン 156
 - プロジェクト管理
 - 既存のプロジェクトデータベース 118
 - 基本的な説明 99

プロジェクトデータベース
アクセスコントロール 120
サブレット 125
タイムアウトとセッションの終了 127
定義 81
定義と概要 118
保護 81
[Project Databases (プロジェクトデータベース)] ページ
サブレットへのアクセス 137
サブレット名の割り当て 124
プロジェクトの説明を追加 125
プロジェクトのアーカイブ、ガイドライン 157
プロジェクトファイルの推奨場所 156
プロジェクトリンク
Web サーバの IP アドレスを使用 126
Web サーバ名を使用 126
プロジェクトルート
Windows での指定 130
既存プロジェクトの使用 119
削除 119
セットアップ 118
説明 125
変更
UNIX 環境のサブレット 136
Windows 上でのサブレット 131
ポート
Web サーバ 141
番号 141
ホスト ID 76

ま

マスターコンフィグレーションファイル
保護 82
マスターコンフィグレーションファイルのデフォルトのログインソース 79

や

ユーザ
SSL を介した接続 153

Version Manager Web クライアントのアクセスの設定 120
Version Manager Web クライアントへの接続 150

ユーザ ID 76
ユーザアカウント 66
ユーザアカウントの作成 66
ユーザ名
プロジェクトデータベース 119
プロジェクトデータベースのアクセスコントロール 120

ら

ライセンス 105
Developer's Toolkit の再配布 186
Serena から取得 31, 35
UNIX ワークステーション 43
Windows 版 54
管理 28
機能 28
購入時期 31
指名ユーザを自動的に設定 41
指名ユーザを手動で設定 41
選択 31
追加 38
追加購入 38
評価版のアップグレード 46
プロセスの例 30
ワークステーションインストール 43

ライセンスサーバ
インストール 31
起動と停止 39
ホスト ID、確認方法 38

ライセンスモデル
考え方 28
指名ユーザ 29
同時使用 29
フローティング 29
併用 29

ルート、「プロジェクトルート」を参照
ルートと rootPath 設定 125
レポート、ブラウザの設定 87

ログインソース
LDAP ID 76
[Login (ログイン)] ダイアログボックス 76

- Netware ID 76
- UNIX 77
- VCS ID 77
- WNet ID 77
- アクセスコントロールデータベースで使用 77
- 概要 76
- コマンドラインインターフェイスによる定義 80
- デスクトップクライアントでの定義 78
- ホスト ID 76
- 有効なソース 80
- ログインタイムアウト
 - Windows での指定 130

わ

- ワークステーション
 - Windows でのインストールプラン 22
 - インストールの準備 59
 - セットアップ 61
 - セットアッププログラムの実行 62
- ワークステーションインストール、
 - ライセンス 43
- ワークステーションのサイレント
インストール
 - 実行 62
 - 準備 59
- ワークステーションのセットアップ 61

